

山中湖の逆さ富士 中川 光郎

# 世界の山旅 辺境の旅

「一人では行けない、でも、行きたい。」  
それにお応えするのが  
実体験に基づいた  
アルパインツアーの旅づくりです。

総合ツアーカタログをご請求ください。

ブナの原生林と氷河のマウントクック山麓を歩く ニュージーランド唯一のスカイライン・トレッキング ニュージーランドの2大人気コースを歩く決定版!

<b>ミルフォード・トラックとマウントクック 10日間</b> <small>日程</small> 大阪・名古屋・福岡 ●1/5発 ..... ¥498,000 ●1/25●2/14●3/14発 ..... ¥488,000	<b>ルートバーン・トラックとマウントクック 9日間</b> <small>日程</small> 大阪・名古屋・福岡 ●1/4発 ..... ¥468,000 ●2/17●3/11発 ..... ¥438,000	<b>ミルフォード&amp;ルートバーントラックとマウントクック 15日間</b> <small>日程</small> 大阪・名古屋・福岡 ●1/24●2/27●3/20発 ..... ¥608,000
---	---	---

エベレスト山群をたった1日の縦断地タンポチェへ アンナプルナとグクラギリを結ぶ縦断コース! 往復ヘリ利用! 世界でも美しい谷のひととつへ

<b>エベレスト・パノラマトレッキング 12日間</b> <small>日程</small> 大阪 ●12/28発 ..... ¥408,000 ●2/22●3/8●3/15●3/29発 ..... ¥320,000	<b>アンナプルナ・ダウラギリパノラマ・トレッキング 9日間</b> <small>日程</small> 大阪・名古屋・東京・福岡 ●12/20発 ..... ¥298,000 ●2/7●2/25●3/7●3/21発 ..... ¥238,000	<b>ロッジ滞在で楽しむランタン・ヘリ・トレッキング 10日間</b> <small>日程</small> 大阪・名古屋・東京・福岡 ●3/9●3/16発 ..... ¥343,000 ●4/26発 ..... ¥369,000
---	--	---

世界でもっとも水と空気の美しい山を歩く 氷河と自然、アルゼンチン・パタゴニアの大自然へ 南米大陸最高峰の大展望と標高5,000m峰登頂

<b>タイマニア島満喫ハイキング 9日間</b> <small>日程</small> 大阪・名古屋・東京・福岡発大阪着 ●1/28発 ..... ¥480,000 ●2/23発 ..... ¥485,000 ●3/30発 ..... ¥468,000	<b>フィッツロイ山群トレッキングと氷河ミニハイキング 11日間</b> <small>日程</small> 大阪・東京 ●1/26●3/2発 ..... ¥568,000	<b>アコンカグア南壁トレッキングとチリ・アンデス5000m峰登頂 11日間</b> <small>日程</small> 大阪・東京 ●2/2発 ..... ¥518,000
---	--	---

南アフリカで最も美しい世界遺産と南アフリカ 快適な「KLMオランダ航空」でアフリカ最南端に飛ぶ 日本から最も手頃な4,000m峰

<b>ケープ・フローラル・キングダムハイキングとテーブルマウンテン縦走 9日間</b> <small>日程</small> 大阪・名古屋・東京・福岡 ●2/11●5/13発 ..... ¥398,000 ●4/29発 ..... ¥498,000 ●1/7●3/11●3/25発 ..... ¥428,000	<b>キリマンジャロゆったり登頂とサファリ 11日間</b> <small>日程</small> 大阪・東京 ●1/12●2/9●2/23●3/11発 ..... ¥558,000	<b>マレーシア最高峰Mt.キナバル登頂 6日間</b> <small>日程</small> 大阪・名古屋・東京・福岡 ●1/28発 ..... ¥164,000 ●2/25●3/25発 ..... ¥168,000 ●4/8●5/20●5/10発 ..... ¥162,000
--	--	---

アルパインツアーのホームページをご覧ください。 <http://www.alpine-tour.com>

**アルパイン ツアー サービス 株式会社**  
国土交通省登録旅行業第40号/国土交通省旅行業協会正会員 ©2014 株式会社アルパイン  
 〒550-0003 大阪市西区京町堀1-4-3 TCF肥後橋ビル2F  
 東京/☎03(3503)1911 大阪/☎06(6444)3033  
 名古屋/☎052(581)3211 福岡/☎092(715)1557  
 札幌/☎011(711)7106 仙台/☎022(265)4611(転送)  
 (街)りんゆう観光 広島/☎082(542)1660(転送)  
 e-mail:osaka@alpine-tour.com

**山仲間でオリジナルツアーを企画してみませんか。**  
 山岳会、ハイキングクラブで企画  
 ツアーリーダーも同行し、安心の山旅  
 山岳会、ハイキングクラブなどで海外トレッキングやハイキングを企画したい、いつもの山仲間と海外の山歩きをしてみたい、というような場合には、アルパインツアーからツアーリーダーも同行し、ご案内をいたします。旅行プランについては、経験豊富なスタッフにご相談下さい。

**出張説明会** 山の仲間がお集まりのときに、当社社員が海外トレッキングのライドを上映します



水車小屋 (民俗公園内)

春先を包む甘い香り  
バラ科サクラ属の植物  
梅の原産地は中国中部の山岳地帯  
奈良時代に薬用として渡来した  
万葉人は梅の花を好んだ  
白梅 新春を思わせる  
清楚で白く輝いているような香り  
紅梅 深みと艶やかさ  
華やかで甘い香り  
爽やかな暖かみ  
淡くはかなげながらも  
しっかりとした梅香  
私にやってきた小さな「春」  
透明感のある香りと暖かな感動が  
部屋中に広がっていく

民家の春 (民俗公園内)

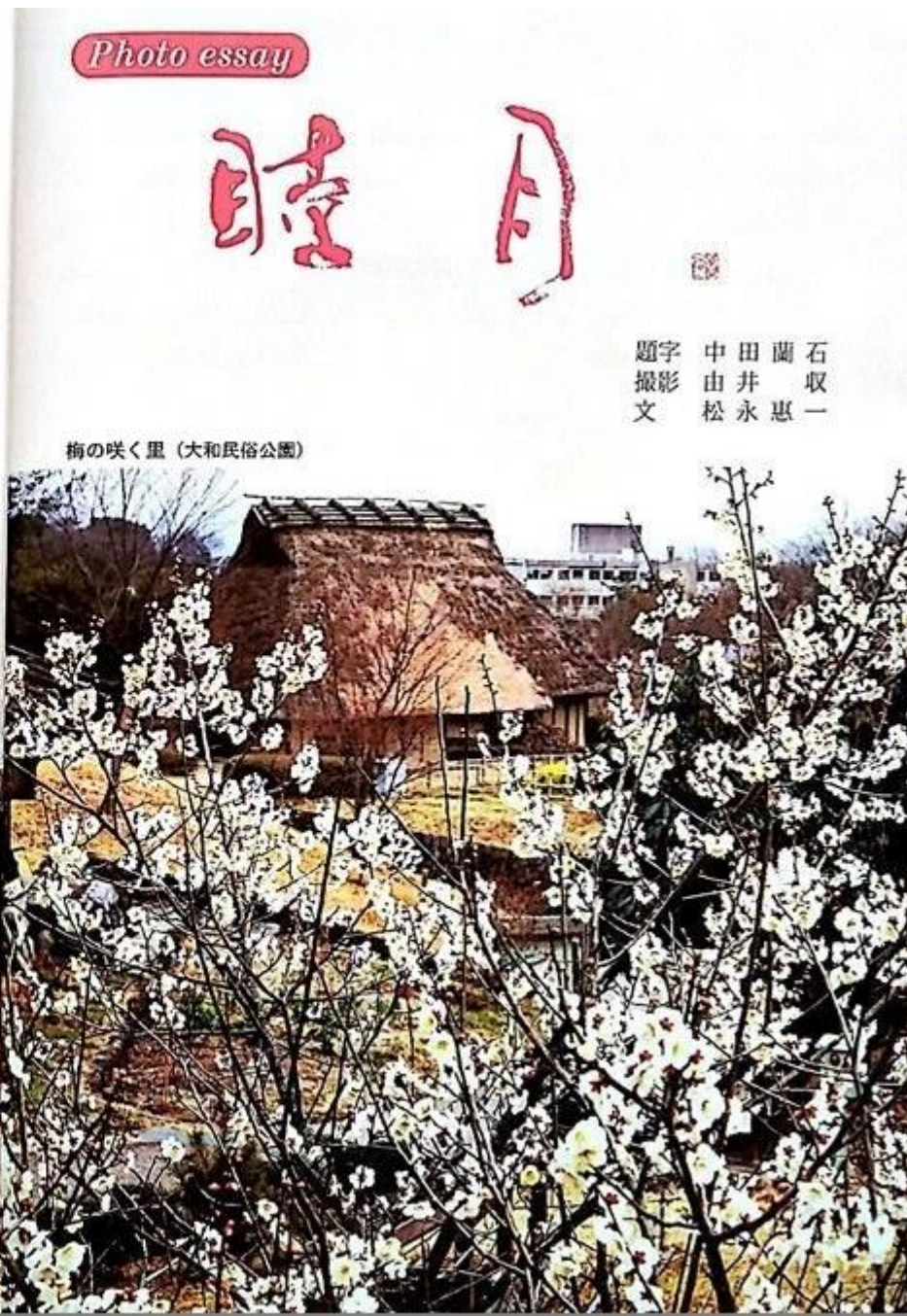


Photo essay

時月



題字 中田 蘭 石  
撮影 由井 収  
文 松 永 恵 一

梅の咲く里 (大和民俗公園)



成長するツララ

# 季節の



御船の滝

# 実景

冬滝 (川上村)

新春

撮影 武市通治



冷たい流れ

氷をまとう

凍滝





冬の入道ヶ岳山頂（鈴鹿） 稲垣 勝義



雪山登山（高見山） 三浦 弘幸

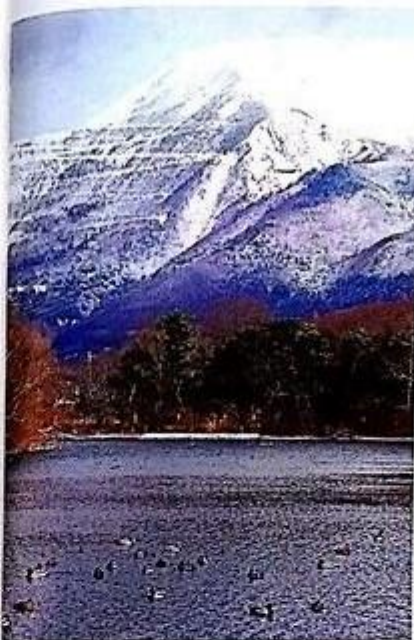
霧氷（美が原） 高岡 富美子



雨乞岳南尾根を行く（鈴鹿） 一芝 義雄

# 冬の水鳥ウォッチング -三島池・西池(湖東)-

奥田 英一郎



静かに頷う―後ろは伊吹山―

ぬくもりに寄り添って―カワウも―



水面の雁行

## ●目次

表紙：松田敏男「上高地より穂高岳を望む」(北アルプス)

●作者プロフィール●1949年、京都府生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳探検、山岳道の調査多岐にわたる。(京都平安高専、南アルプス仙水小屋、東京キャリアー百号、他)山の版権集「光る山山」発行(東京新聞社出版部)。京秩山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員

## 新刊伴ッ 別冊 関西の山

061・2月 新春 第86号

サービスチェーン	90	新ハイ関西山行計画	84
せせらぎ	84	新ハイ関西山行報告	101
新ハイ関西山行計画	90	編集後記・広告案内	112
コースガイド	81	78	76
①行者山・城山(八木山)〈南行〉	75	70	
②大徳山・牛ヶ峰山・大空山・淵川山(但馬)	64		
③羽鳥峰から水晶岳(鈴鹿)	62	58	50
④三島池・西池	54		
⑤三島池・西池	42	36	34
⑥三島池・西池	32		
⑦三島池・西池	28	24	22
⑧三島池・西池	18	14	
⑨三島池・西池	13	11	10
⑩三島池・西池	4		2
⑪三島池・西池			
⑫三島池・西池			
⑬三島池・西池			
⑭三島池・西池			
⑮三島池・西池			
⑯三島池・西池			
⑰三島池・西池			
⑱三島池・西池			
⑲三島池・西池			
⑳三島池・西池			
㉑三島池・西池			
㉒三島池・西池			
㉓三島池・西池			
㉔三島池・西池			
㉕三島池・西池			
㉖三島池・西池			
㉗三島池・西池			
㉘三島池・西池			
㉙三島池・西池			
㉚三島池・西池			
㉛三島池・西池			
㉜三島池・西池			
㉝三島池・西池			
㉞三島池・西池			
㉟三島池・西池			
㊱三島池・西池			
㊲三島池・西池			
㊳三島池・西池			
㊴三島池・西池			
㊵三島池・西池			
㊶三島池・西池			
㊷三島池・西池			
㊸三島池・西池			
㊹三島池・西池			
㊺三島池・西池			
㊻三島池・西池			
㊼三島池・西池			
㊽三島池・西池			
㊾三島池・西池			
㊿三島池・西池			

## 巻頭言

今年もご愛読よろしくお願いたします。さて、冬山はどこへ登られる予定でしょうか。私の冬は、近郊の山で雪の里山歩きです。日帰りにちよっとだけ歩くには最適です。前もって計画しなくても、朝起きて晴れていて風のないのを確認してから出かけます。車なら1〜2時間ぐらいで行ける「京都北山」が雪山歩きには最高の舞台を提供してくれます。よく出かけるのは、亀岡から「明智越」、清滝から「愛宕山」、大原から「焼杉山」、貴船から「二の瀬ユリ道」、岩屋橋から「杖敷岳」等です。いずれも北山南部の山ばかりで、積雪も多い所で30分程度まで、トレースもあり、迷う心配はありません。まさに日だまりハイキングには格好の山ばかり。展望のよい所、真っ白な雪の上で弁当を広げてのひとときは至福のきわみです。時間に追われることなく山頂は二の次で楽しんでいきます。「京都北山」は、パリエーションに富んだコースがいっぱいあって冬でも気楽に登れ、冬場は登る人が少ないのでなおさらです。冬は苦手という方は気の合った仲間と出かけてみてください。

新ハイキング関西(代表) 村田 智俊



見

## 私と車

生駒 豊峰

現代社会では車は生活必需品で、車無しでの生活は考えられない。私も20代に免許を取得してから今日に到るまで、車を手放したことはない。退職して登山するようになってからは、特に車の使用頻度が多くなった。日帰りが無理な遠方の山でも車なら簡単に行けるし、何人も同行可能で、時間もお金も節約できて、大いに車の恩恵を享受している。

私が日本百名山を目指した時代はまだ百名山の初期で、全国でも完登者が1000人に満たないといわれ、登山ツアーどころかガイドブックも無く、深田久弥著の『日本百名山』一冊を参考にして、山を求めて走り廻った。登山口を探すだけでも大変

で、車が無ければ完登できなかったかも知れない。

最初は乗用車にテントを積んでの山行で、雨や時間の無い時、または寝ている時などは車中に寝たが、乗用車の座席では安眠できず、2、3日が限度であった。そこで少しでも快適に山旅ができるような車を探した。

悪路の林道でも走れ、手足をのばして安眠もでき、長期旅行でも快適な車として、三菱のデリカを選んだ。この車は貨物車だが、台車が使用されているので、車体構造の乗用車より頑丈で、ディーゼルエンジン搭載の四輪駆動車だった。さらに悪路に強いとデフ・ロックにし、高度計を付けた。ベッドになる座席をつくり、流し台やテーブルを設置した。登山用具はもちろん、寝具から衣類・冷蔵ボックス・カセットコンロ・食料と積み込み、長期の山行が快適になった。何しろ貨物車だから室内は

広く、乗用車より多くの人が乗れた。

私はこの車で北海道から九州まで、日本百名山を始め、1等三角点の山を求めて走り廻った。乗用車では走れない悪路の林道も、何の不安もなく走り抜けた。

10年近く愛用したが廃ガス規制がきびしくなり、ディーゼル車は車検が受けられなくなった。まだまだエンジンも快調で未練があったが、買い換えることになった。

初期のうちはもっぱら私1人で走り廻っていたのだが、後半になると、妻も同行することが多く、デリカは山に強いのだが、車内での生活はどうしてもキャンピングカーに劣り、いろいろ不便が生じた。まず車高が高いので乗り降りが不便、炊事の設備も不十分。備え付けの冷蔵庫やコンロ台も欲しいと、妻から注文が出された。



## 随想 (山のエッセイ)

見

そこでキャンピングカーで山にも登れ、町ではスーパードにも行ける小型の車を探そうになり、タウンエースの中古のキャンピングカーを見つけた。2年で2万キロ程の走行で比較的新しく、車内設備も妻の気に入った。山には少し不満だったが、ディーゼル搭載の四輪駆動が何とか希望になった。

しかし、廃ガス規制では後7年しか乗れないとのこと、しばし考えたが、「あなたの年齢からすると、後7年も経てば、もう山に登っている年ではなく、ちよと良いのではないか」と妻に言われた。そう言われてみれば、自分でも7年先は相当の年齢になるので、ちよと良いかもと納得した。

年月の過ぎるのは早く、7年目の車検切れに廃ガス装置を取り付け、さらに4年と期限をのばしたのに、今年はどうとう車検が受けられなくなってしまっ

た。体力の衰えは否めないが、まだまだ山に未練はあるし、ハイキングくらいは可能である。山以外の生活にも車は手放せない。

新しく車を買う事になると、やはりキャンピングカーが欲しい。ハードな山行ができなくとも、車での山旅は私の生きがいである。

私から山を取り上げたら、何が残るのだろうか。今度車を買ったら、今度こそ車のほうが長生きしそうだ、やはり車は欲しい。今は一所懸命次の車を探しているところだ。

## 殺しの天使

鷺見 守康

秋山の楽しみは、木の実やキノコなどの山の幸である。

木の实には、アケビ・ハシバミ・ヤマボウシ・サルナシ、そ

して食べられるドングリであるブナ・シイなど、その場で簡単に生食できるものもあり、いずれも大変おいしい。

ハシバミはまさしくヘーゼルナッツ(ヨーロッパ原産のセイヨウハシバミの実)であり、サルナシは同属のキウイフルーツ(いずれもマタタビ科)よりはるかに美味だともいわれ、ブナの実のコクの深さは感動的である。

ヤマボウシの実は、時期を違えるとカスカスの味気なさにガツカリすることもあるが、適期には熟した柿のような味わいがある。昨秋例会山行の荒船山では、たくさんのヤマボウシの実に迎えられ、皆で食べて感激した。

有り難いのは、木の实には毒性のものが少なく、ドクウツギやシキミなど覚えれば、致命的な事態は免れる。

キノコの場合は、山行中に簡単に生食というわけにはいかな



秋の横根山



マツブソウ



フナギムソウ



サンゴク

パソコンで描く山と花のイラスト

このイラストはペン型入力端末 Wacom Favo ex モデル (¥20,000程度) の付属ソフト painter classic で描いています。色は透明から100%不透明まで、筆も鉛筆・筆・エアブラシ・クレヨン・消しゴム等、筆先も極細から太筆まで変更できます。

バック・線画・色付といくつでもレイヤーを分けて描け、何度でも自由に修正が可能です。(実際はカラーで美しいのですが、印刷の関係で白黒です)

ホームページ「花の山旅」<http://www5f.biglobe.ne.jp/~hanatabi> にも掲載していますので御覧ください。(京都市 西村文男)



随想 (山のエッセイ)

わが国にキノコは5000種以上あるという説もあり、毒キノコも多く、中にはまだ名前の付いてない毒キノコもある。そのうえ、キノコの同定(名前を特定すること)は非常に難しく、よほど特異なものを除けば図鑑との総合合わせでも見分けることは困難だ。キノコのカサ・ヒダ、または管孔・柄・肉・ツバ・ツボなど各部位に注目し、さらには発生の様子や場所も観察しなければ見分けられない。

だから、山行で私は「食べられませんよ」と勧めることはしない。そもそも大半のものが名前もわからないのだ。山行中には、むしろ、キノコ独特な雰囲気のおもしろさを楽しんだほうがいい、と思っている。

野山には様々なキノコがある。ナギナタタケのように「これ、キノコです」と告げて「エエ! これがキノコですか?」と驚か

れるものもある。もっともキノコらしいキノコは、カサ・ヒダ・柄・ツバ・ツボを備えたテングタケの仲間であり、シラカバ林やトウヒ林に多いベニテングタケなどは、そのメルヘン的なムードから、女性のファンが多い。私はこのテングタケの仲間が大好きで、とりわけ、ドクツルタケを見つけると、子供のように興奮してしまう。昨秋の武蔵岳や越前経ヶ岳では、私のそんな姿を見せつけられた人もいるはずだ。

テングタケの仲間には、実は毒性のものが多く、中でもドクツルタケ・シロタマゴテングタケ・タマゴテングタケは猛毒である。

ドクツルタケは日本一の毒キノコで、その毒性について図鑑などは「一本食べると3日以内に必ず死亡」と解説している位である。さらに言えば、英名を「殺しの天使」(Destroyer)

ng Angel) と言う。「殺しの天使」とは何とも凄惨な名前だが、私は軽薄にもこの名前にシビレてしまっている。

森のなかで、全体が純白で、繊維状のささくれがある柄に膜質のツバがあり、根元に袋状のツボのあるキノコがあれば、それは間違いなくドクツルタケだ。よく見れば、カサや柄に粗糸のような光沢もあり、曇った日などは異様な存在感を放っている。

毎年あるキノコ中毒事件のなかに、このドクツルタケの誤食による事故もあるという。そんな悲惨な事故を防ぐためには、根元にツボのあるキノコや白いキノコは絶対食べないようにすべきだろう。タマゴタケのように食べられる種類もあるとは言え、「殺しの天使」から逃げるためには、用心してしかるべきだと思ふのだ。

# お正月の雪山と梅雨時の裏愛宕六山縦走

## 愛宕山

田中 明

### 京都北山

#### お正月の雪山

お正月の3ヶ日は、例年ボンボン山と愛宕山へと決めている。この年は大晦日から一級の寒波が来て、西日本から関東地方にかけて雪のニュースで賑わった。

私は、いつものお気に入りコースの清流から空也の滝まで進み、滝の手前から取り付いて大杉谷左岸道を黙々と歩いた。ひぐらしの滝あたりまで来ると、用意した軽アイゼンの出番となった。

手際よく装着した四本爪で安心して雪の急登を進む。ところが谷道はけっこう急登だ。まして今日はめずらしいほどの雪がある。気がつけば道なき道につっ込んでいた。エーイままよと枯れ木を倒し

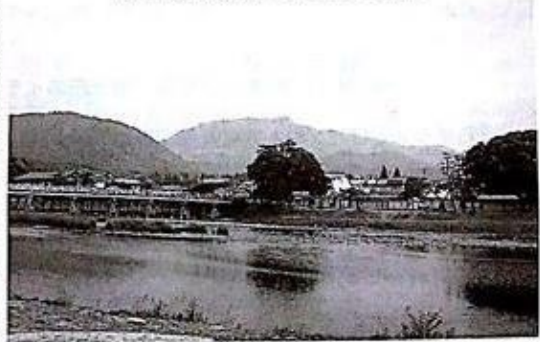
ながらの登りが続き、喘ぎながら桜の樹が五本植わるすぐ上の大杉谷本流に飛び出し、ホッとひと息入れた。

ここからはふだんどおりの歩きで上される。明るい月輪寺からの合流点では30㍍の積雪はあったろう。あたりの山並は真っ白でまるで墨絵の世界だ。

大岩があるあたりでは、5㍍もの古いカナクキノキが無残にもなぎ倒されて真っ二つになっている。早春の頃にはいつも黄色い花をつけるこの樹を見て歩く励みにしていたのに。でもその近くのムシカリはしっかり冬芽を見せている。

ここまで来れば神社はすぐだ。アイゼンをはずして初詣である。昨年の感謝

嵐山中之島公園から見上げる愛宕山



と今年の家族の無事と自らの山歩きの安全をお願いした。温度計を見るとマイナス4度を指していた。

「阿多古切符火鑪要慎」の御札を求めて早々に愛宕神社を辞し、三角点そばからトレースの全くない芦見谷へくだるところとした。

コースは予定どおり、40㍍50㍍もある雪のなかで、難者とした杉の植林地帯は

慣れているとはいえず、単独だとあたかも雪の梢に吸い込まれるような気がして何だか薄気味悪い。

どうか竜ヶ岳登り口までくだり、ああ今日の縦走は無理かも知れない。それならば竜の小屋か首無しあたりでゆっくり昼食でするか、と考えた矢先、「この雪では無理ですかね」と頭の上から声がした。

見上げると比較的若そうな夫婦が、北の壁を竜ヶ岳に向かおうとして立ち往生している。

「うーん、私も同じように登って、滝谷

へくだり、地蔵山の反射板からジープ道へ出て神明峠から明智越より亀岡まで行くつもりなんです」と聞かれもしないのに応えていた。

「へー亀岡までも、この登りでこの雪、危険はないですかね?」

「いや大丈夫でしょう。この程度の雪なら、それより山歩きはだいぶやっていますか? この急登は体力勝負ですよ」

「ええ歩くのは何とかなります。でもこれだけの雪にはどうも……」と声が小さくなるようだが、

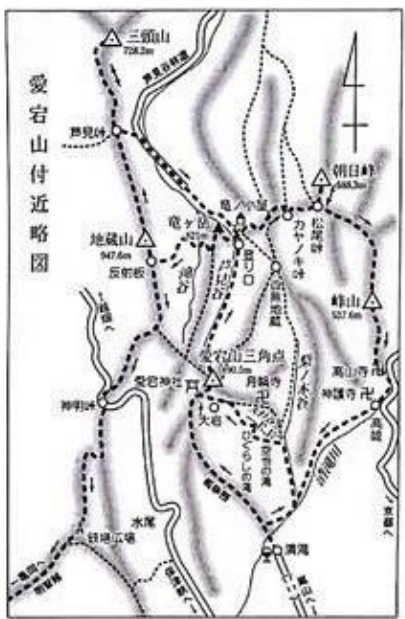
「でもこれから亀岡まで行かれる方がいっ

しょに来てもらえたら、登りたいのでお願いできませんか」

「よし、登りましょう」と強がって返事をしてしまっ

た。歩き始めると2人はなかなかの強者だった。こちらの不安をよそにど

と今この滝谷の雪がまたすごい、多い所では80㍍はあったらどうか。道は勝手知った所なので何とか進めたが、体力がほとんど限界で、これ以上の積雪なら以後は踏み止まらないとそれこそ危険な状態である。だが、「今日は行こう」





と決心し、時間をかけてでも何とかと、反射板を目指した。

いつもならソゴ・ツルシキミの赤い実やシキミの薄黄白色のお花を見る余裕があるのだが、昨秋の台風で倒木したカナクギノキを哀れに思いつつ、冬芽を横目に進むのが精一杯で、ゆっくりと樹木を眺める余裕は全くなく、ただそばの小枝を探してよじ登った。

どうにか反射板まで来て、北方約250mの地蔵山、それに東南方約850mの愛宕山を眺めてホッと、さらに水尾尾根へ急ぐこととした。

神明峠から水尾尾根を軽快に飛ばし、鉄塔広場で一本立て、時計を覗くと15時半、いやあこれは楽勝だ。嬉しくなって最後の明智越も軽く歩を進め、下山口の水場でスパッツや靴を水洗いする余裕もあり、亀岡駅には17時前に着いた。

今年もこの長丁場を歩き通せたことは本当にラッキーであった。これは例年より1時間早い6時に家を出たこと。そしてザックを13kg担いでいたものを3kgほど落としたことによるが、何より大きかったのは10年ぶりの大雪だったにもかかわらず、竜の北の壁で他の登山者の支えが

あった点だろう。いずれにしてもこれら三つが成功のカギであった。

何事においても常に謙虚に、多くの方たちの力により自分があるのだという利他の精神を教えられ、大きな感謝のお正月の山行であった。

(平成17年1月2日歩く)

#### ▲参考タイム

清滝7・40―空也の滝口8・10―ひぐらしの滝8・45―月輪寺分岐9・45―愛宕山10・15―30―竜ヶ岳登り口11・20―竜ヶ岳12・10(昼食)13・05―閃電反射板13・50―14・00―神明峠14・50―鉄塔広場15・30―40―明智越下山口16・15―JR亀岡駅16・50

#### △地図▽昭文社「京都北山」

#### 裏愛宕六山縦走

近年は花巡り山行と称してカメさん歩さばかりで少々身体がなまっている。また北アルプスなどへの夏山も近づいてきたので、自らの体力を試してみようと、6年ぶりに裏愛宕六山縦走を実施した。日の長い梅雨時の晴れ間を狙って歩いてみた。

裏愛宕六山縦走は、昨年は三座で失敗

が何と多い所だろう。暗赤色の花を数珠つなぎにぶら下げて何本もつっ立っている。そばにはカマツカも白花を見せて艶を競っている。

満足して滝谷への激下りをくだった。滝谷は以前から静かな渓谷美で私のお気に入りの場所であるが、昨秋の23号台風によって、カナクギノキやウリハダカエデの大きな倒木が完全に道をふさいでいる。

何とか通過し、急登をこなし閃電の反射板に着いて一本立てた。カマツカ・タニウツギ・アキグミなどが満開である。

今回の六山で唯一の一等三角点の地蔵山だが、誰一人いない。ここまでで清滝から3時間40分歩いたようだ。後は北の芦見峠へのゆるい下りをヤマツツジ・ゴ



ベニドウダン(ツジ科)を見ながら歩いている旧芦見林道を快調に飛ばして最後の渡渉地点

で昼食とした、目の前にコケイランが二本咲いており、思わずヤッター!と感激の声。

そばにはオオバアサガラが蕾をつけ、芦見谷源流にはミヤマハハソコパンノキなどの比較的めずらしい樹木花も見つけながら、可愛いクリソウ咲く竜の小屋前で、これからの長い林道歩きに息を整えた。

ダルマ峠、ウジウジ峠、カヤノキ峠、松尾峠まで来ると、さすがにお疲れモード。

林道から15分程でやぶ山の朝日峰を往復し、また林道歩き。満開のタンナサワフタギを見て、いよいよ最後の峰山に押し上げた。

誰もいない3等三角点にタッチしながら六山を元気に歩き通せた喜びにひたる。しかし、あまりにも淋しすぎる里山の山中であった。

梅尾高山寺への荒れた道を慎重に歩くと最後の水場で、オカタツナミソウがたくさん並んで見送ってくれているように、ほほえましく思えた。

山道ではほとんど人には会わなかったが、観光客の多い高山寺から神護寺参道

していたので、今回は早立ちで、清滝を6時40分にスタートした。六山縦走時はいつも最短で登れる表参道をとるが、階段がほとんどでけっこう堪える。でも樹木の種類が多く楽しみながらの1時間半で愛宕山頂上である。

カナメモチ・エゴノキ・ヤマツツジなどが下部で満開、上部ではカマツカが終わりに近づいている。

まだ8時過ぎで頂上の社務所には誰もいない。気温15度を確認し、今日一日の六山縦走の安全をお祈りして芦見谷へくだる。

この谷にはツリバナ・ヤブデマリ・タニウツギが咲き、ガマズミまでもまだ咲き残っている。

今回のコースは水場がいい間隔にあるため、ペットボトルに少量ずつの補給で歩けるのがある。

竜登り口からは、いわゆる北の壁が急登で苦しいが、5月にはシャクナゲが多いことで知られる。この時期はただシンダイばかりであるが、いつもの半時間で竜ヶ岳の頂上だ。

ところが驚いた。何度も足を踏み入れている竜ヶ岳の頂上だが、ベニドウダン下を経由して東海自然歩道を約3km歩いて清滝に戻ったのは16時20分。通常9時間40分の道のりは決して楽であったとは言いがたい。歩数は五万五千歩であった。

歩き終わって来て、まだまだ脚力はいけるのかとニンマリしながら、嵐山の観光客の喧騒から逃げるように阪急電車に飛び乗った。

心地好い余韻のなかで、いとおしろうに愛宕山のシルエットを眺めたのであった。(平成17年6月1日歩く)

#### ▲参考タイム

清滝6・40―愛宕山8・10―竜登り口8・55―竜ヶ岳9・20―滝谷9・35―閃電反射板10・00―地蔵山10・20―芦見峠10・45―三頭山11・15―旧芦見林道終点12・00(昼食)12・25―竜の小屋12・55―カヤノキ峠13・23―松尾峠13・38―朝日峰13・50―林道終点14・20―峰山14・40―高山寺15・18―梨ノ木谷分岐16・05―清滝16・20

#### △地図▽昭文社「京都北山」

\*「裏愛宕六山」とは、愛宕山・竜ヶ岳・地蔵山・三頭山・朝日峰・峰山の六山である。

## 新ハイ例会スノーハイキング

# 貝月山

## 鷺見守康

美濃

貝月山は、1,234mという標高の覚えやすい山で、山麓には複数のスキー場やキャンプ場が開かれている。西側の「いこいの森」キャンプ場からは遊歩道も整備され、無雪期なら1時間足らずで山頂に立つことができる。

しかし、冬の降雪はかなりのもので、文字通りの雪山へと変貌する。積雪が2m以上に達することも稀ではなく、積雪量だけみればスノーハイキングという領域の山ではないのかもしれない。スキー場があることから車でのアプローチは順調で、ゲレンデを抜け、林道をすこし歩けば登山口というアクセスの良さもあり、スノーハイキング恒例の山となつて

いる。

もちろん、そうは言っても簡単に登れるわけではない。関西の会員も参加可能な時間帯での日帰りハイキングだから、時間的な余裕はほとんどなく、積雪の状態とトレースの有無で登頂の成否はほぼ決まってしまう。これまで例会で4回挑戦しているが、成功率は5割程度である。登頂できるかどうかは、行ってみなければわからないのである。

チャーターしたバスでJR大垣駅を9時発。国道303号線を走り、坂内村に入ると周囲はすっかり雪国の風景となる。道路は除雪が行き届いているので、バス

貝月山から日越峠への稜線を歩く(2004年3月)



はノーマルタイヤのまま走行。スキー場への登り口で初めてチェーンを装着した。

スキー場のホテルでトイレを借り、身仕度を整える。何回も来ているので、ホテル側の対応にぎこちなさはない。冬場の登山者にも理解を示してくれるのはありがたいことだ。このスキー場の東にあるもう一つの大きなスキー場は、ゲレン

デを「坪足」で歩かれるのを嫌い、登山者の立入りを禁止している。

駐車場からゲレンデを横切り、「いこいの森」キャンプ場への林道に向かう。予想以上の積雪だ。

昨年の例会山行は、加越山地の大長山で関西学院大のワンダーフォーゲル部が遭難した日だった。スキー場には前夜1層の雪が積もって、当日もなお舞っていた。全員でラッセルして林道を進んだが、時間切れで登山口にさえ到達できず、キャンプ場で昼食をとり撤退した。

「今年も駄目か……」と半ば観念して

林道に出ると、何とトレースがあった。ひよっとすると、きょうはツキがある、登れるかもしれない。スノーシューを履いて軽快に歩く。

林道沿いの所どころの斜面に「雪まくり」が発生している。木の枝や急な岩場などから雪の塊が落下し、それが芯となつて転がりながら雪を集めていく。このような現象を「雪球」というが、雪の剝離が面的に起こると円筒形に成長し、それを「雪まくり」という。きれいに巻かれているものは、まるで巨大なあん巻きのようで、自然の造形のおもしろさに感心

する。けれど、「雪まくり」が発生する箇所では、同時に雪崩も発生する可能性が高いと言われているから、あまりのんびりできない。

先行者のトレースは、2、3人のグループのようだが、ワカンを使用してもラッセルには苦勞している様子だ。トレースをたどることができるというありがたさを感じる一方で、このトレースがどこまで続いているのか気にもなってくる。「いこいの森」キャンプ場からはブンゲンへも登れるからだ。

キャンプ場入口から右に分岐する林道を進めば、品又峠に出る。また、積雪期ならキャンプ場奥の日越峠から尾根伝いに登り、奥伊吹スキー場の最終リフト地点の北東に出ることも可能で、こういうルートでブンゲンに登る登山者もいるようである。

幸いにトレースはキャンプ場入口から貝月山登山口を目指していた。キャンプ場からさらに積雪は多くなった。トレースがなければ、到底登山口にも届かないところだった。

1時間足らずで登山口に達した。トレースは貝月山を目指している。この調子で



貝月山付近略図

あれば、きょうは山頂まで行けるかもしれない。風は強いが、空は晴れている。久しぶりに光まばゆい雪山の醍醐味を味わえるかもしれないと期待に胸がふくらむ。

10分ほどの休憩後、貝月山登山道に取り付く。多量の積雪は夏道を完全に隠してしまい、無雪期に歩いたことがなければルートがわからないだろう。特に、雪の貝月山は尾根にのるまでが大変である。立ちほだかる大きな雪の斜面と格闘することになるからだ。

先行者のトレースは雪の斜面をしっかりとトラバースしているが、かなり雪中に沈んでおり、ラッセルに苦闘している様子が見え、雪の壁を踏み越えるように登る所に達した時、突然、トレースが消えてしまった。何たることだ！先行者はここで撤退しているのだ。林道から続いたラッセルで体力を消耗し、貝月山の稜線に取り付いて多量の積雪に前進を阻まれ、雪の壁を前にして力尽きてしまったのだろう。

私は私でスノーシューのビンディングがはずれ坪足になったとたん、胸まで雪

の中に潜り込んでしまい、脚が抜けなくなった。2本のストックで新雪を削って這い上がったものの、「撤退したほうがいいかな」と弱気になる。

ところが、「ラッセルします！」と叫んで先頭に立った女性がいた。自然観察山行初参加のMさんである。Mさんは雪の斜面に果敢に挑んでゆく。そのMさんの後から、男性陣も負けじと続く。予期しない展開に私は少なからず驚きながら「それなら……」と追いかけた。触発されたように、Mさんのほか何人かの女性も加わり、やがて自然に男女混成のラッセル隊ができた。

厳冬の青空の下、真っ白な尾根を前進する絵のような登行が続いた。先頭に立てのラッセルは苦しいが、チームワークを組んで新雪を蹴って進む心地好みに、メンバーの屈託のない笑顔があった。天候に恵まれた雪山の楽しさだ。尾根の雪面のあちこちに風紋が描かれている。

メンバーの多くは、このまま山頂へという望みを抱いていたに違いない。しかし、快調なラッセルではあっても雪は深く、山頂はなお遠い。私は、時計を気にしながら撤退の機会をうかがっていた。

撤退するにしても、どこか気持ちの上で区切りのつく場所がいいと思っただけだ。

やがて、山頂から一つ手前のピークに達し、私はここで「撤退」を宣言した。「ここまで来れば十分です。山頂へ行っても見物らしは変わりませんから」などと言っても慰めにはならず、メンバーはただ苦笑している。山頂は見えており、無雪期にさっさと歩けばコースタイム20分位の所だが、この雪の深さでは、まだ1時間ほど要するだろう。「時間が無いから仕方ないですね」と、私の横で歩くメンバーもいた。

「昼食にしま〜す〜」と叫び、ピーク



スノーシューで稜線を行く  
(2004年3月)

や、スキーよりもっと遊び心にピッタリなのかもしれない。方向だけを示し、メンバーには自由にくだってもらった。登山口からは、往路の林

から少しくだり、風を避けて窪地のような斜面に坐りこむ。後ろ髪をひかれる思いのメンバーも、あきらめて三々五々雪の上に腰を降ろす。楽しい雪上ランチのひとときだ。陽光が注ぎ、寒さも和らいだので、50分ほどの休憩時間をとった。

14時15分、撤退を開始。登りの苦しさ比べれば、きょうの雪質は多少重くとも、スノーシューを利用する下りは爽快である。登りのトレースをたどれば、楽々とかだることができ、せつなくスノーシューを履いているのなら、トレースのない雪の斜面に踏み込んでみたい。流れ落ちる雪に乗って浮遊しながらくだるのは、スキー感覚にも似ている。い

道歩きを避け、トレースのない谷沿いの林間コースを進み、15時半、スキー場ホテルに戻った。

貝月山も3月になれば雪は縮まり、登頂率は高くなる。雪の頂きを目指すなら、3月の残雪期を狙い目であり、場合によってはスノーシューもカンジキも不要で、坪足で歩ける。

しかし、私は敢えて1月から2月を選んでる。深雪の中をラッセルして登り、下山時には真っ白な斜面をスノーシューで雪を蹴り、飛ぶようにくだることこそ、雪の貝月山のおもしろさだと信じているからである。(平成17年1月22日歩く)

- △コースタイム▽
- 大垣駅9・00(バス)掛妻高原スキー場
  - 10・50▽11・00貝月山登山口11・55▽
  - 12・05山頂手前ピーク13・25(昼食休憩)
  - 14・15山登山口15・00キーキャンプ場
  - 15・15▽20スキー場15・30▽45(バス)
  - 池田温泉16・50(入浴)17・30(バス)
  - 大垣駅18・10(解放)
- △地形図▽2万5千横山・美東

◆里山ザック◆

オリジナルザック & 登山用品専門店  
**神戸ザック**  
http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac



☆うさぎ18/☆  
\*カラー  
\*容量 700  
\*素材 綿9号、牛本革  
\*価格 ¥16,000



☆たんぽぽ18/☆  
\*カラー  
\*容量 650  
\*素材 綿9号、牛本革  
\*価格 ¥15,000

**新製品紹介**

味わい深い、  
綿帆布の小型ザック

蓄積かしい綿帆布と本革を使い  
内外のポケットに工夫をこらした  
小型のザック。  
里山歩き、街歩きに  
ご愛用下さい。

イモック山行くらぶ

春、夏、秋、冬、  
季節を気にせず  
里山・低山・名山  
を訪ねます。

詳細はお問い合わせください。  
イモックに  
専任で下見!

**IMOCK.**  
KOBÉ

〒653-0039 神戸市東灘区日高町3丁目1番20号  
カナノビル2F  
TEL (078) 821-5851  
FAX (078) 821-3528  
営業時間/10:00-20:00 日曜日不定休

## 山と温泉を堪能

# 先山・諭鶴羽山

高島伸浩

## 淡路島

ある日あるときぶらり旅。愛車に布団を積んで目指すは淡路島。海上3000坪の明石海峡大橋から両側を眺めれば、大型船が小さく見え、白い航跡が幾条も。異次元の世界にいるようだった。大橋を渡ると淡路島だ。

山をやっていない頃のずっと昔、フェリーで岩屋港に渡り、西から南、東へと一周して観光したことはある。今回の旅は、淡路島で一番高い諭鶴羽山(608m)に登るのを目的として、あとは成り行きで温泉を楽しめればと思つての1人旅である。淡路ハイウェイオアシスで対岸の神戸市を見ながらの昼食。さらに足をのばして洲本インターで降りる。

洲本市へ近づくと山の一面にお城が見える。おお、あそこへ登ろう。高い所へ登れば全体がわかるはず。標高1300坪の三熊山だ。聞きながら登山口を探す。ホテルの裏に駐車して登り出す。鬱蒼とした照葉樹林の散策路をゆっくり登る。20分で城跡に着いた。天守閣は鉄筋コンクリートの四階建て。外観のみの城で中は階段だけの空っぽ。眼下に洲本市の全容が広がる。諭鶴羽山も確かめた。下山後、温泉街へ車を進めひと風呂浴びよう、と聞くと1300円だと言う。うへー、そんなに高いんじゃ、やめた。カタログだけもらって豪華なお風呂を元だけで楽しんだ。温泉と山の情報誌を元

に、島の西側にある五色温泉「ゆきゆきファイブ」を目指す。

途中淡路富士の先山(448m)にも登ろう。登山路はあるが、夕暮れが迫ってきたので車で頂上を目指す。先山は頂上に淡路巡礼第一番札所「千光寺」があるため車でも上がれる。先の風水害は淡路島も襲っていた。狭い道は崖崩れでさらに狭くなっている。終点からいくつもお堂が並ぶ境内を抜け、上がると金堂のお堂が頂上であった。珍しいのは狛犬がイノシシであった。阪神淡路大地震で今だに傾いたままのお堂もあった。

五色温泉「ゆきゆきファイブ」は庶民的だ。600円で何でもあり、単純温泉で内湯の他、熱湯・歩行浴・電気風呂・ジャグジー・ジェット・香料湯・遠赤サウナ・ミストサウナ・水風呂・打たせ湯・夏湯に露天風呂。露天風呂で満月を仰ぎ、おや、流れ星と思いきや飛行機の灯りであった。夕食もここでとり、ゆっくりと過ごした。

諭鶴羽山の三原町へと移動し、諭鶴羽ダムサイトにて床を延べる。静寂このうえないが、鹿が近くで鳴いていた。

まぶしい朝日で目が覚める。

工事中で通行止めの柵を乗り越えてダムの堰堤を渡る。渡った所に階段道が続く。やや急な杉林は土砂が流れてぐちゃぐちゃで、登山路も消えていた。高みへ上がるると牛内ダムからのルートと合流し、はっきりとした尾根道になった。

諭鶴羽神社への裏参道で、近畿自然歩道ともなっている。神倉社の祠前は長細い広場で羅漢像が数体並ぶ。諭鶴羽山はユズリハが多いところから付いたらしいが今は見当たらない。道は一部石が露出してゴロゴロしている所もあるが、概してなだらかで歩きやすい。照葉樹の灌木のなかを右に牛内ダム左に諭鶴羽ダムを見ながら歩く。高さ60m位の丁石地蔵

が一定間隔で鎮座。天然記念物の森でシイ・カシ類が多い。

頂上に近い無縁中継所広場はゴミが散乱しており、顔を背ける。頂上までダムから1時間30分の行程だった。

頂上の中央に1等三角点。屋根付きの展望所からは雄大な景色。東に朝日に照らされた太平洋が光る。紀伊半島の沿岸がうねうねと続く。南に大鳴門橋に続く四国鳴門市。西に瀬戸内海の島々や小豆島まで見える。絶景かな、絶景かな。下山もルンルンとくだったが、ダムまで降りたら、工事している人から「堰堤を渡っちゃいかん」ときつく言われて、泣く泣くダムを廻ることになった。目の前に車が見えているのにどんだんどん

ん離れていく。気持ちよく切り替えて湖畔の景色を楽しむ。途中ダム湖の底を横切り近道をした。ようやく車に戻り帰途にあとはゆっくり温泉だ。数々ある温泉からスベイン風の「宮町」ハルシェ・香りの湯」を選ぶ。ここ



先山・諭鶴羽山付近略図

も600円。高台の内湯からは遮るものなく瀬戸内海が広がる。今登ってきた諭鶴羽山も南東にそびえていた。露天風呂はスベイン風の白い壁に囲まれ、ローズマリー・カモミール・ヒノキ・ユズなど四種類の香りの湯。うーん、満足、満足。お腹もたっぷり満ちたし、北淡インターから高速道の人となる。舞鶴自動車道へと向かうが、途中、「垂水」「布施畑」「三木」「神戸」「吉川」「綾部」と次々とJCT(ジャンクション)が現れるのでぼやぼやしてられない。

(平成16年12月歩く)

### △地形図▽

2万5千1洲本・都志・諭鶴羽山



無情！

# 冬の御池岳

鈴鹿

長谷川 雅 俊

そんな中途半端なグータラ山行を紹介  
しますので突ってやってください。

(其の1)

平成16年12月30日、今冬初めてのま  
まった雪の日にゲートに降り立つ。以前  
は、ゲートにカギは掛かっていたが、最近  
は、勝手に開けて車で入れたが、最近  
はきっちりカギが掛かっている。しかも  
壊す者もいるので、カギを鉄の箱で覆い、  
監視カメラまで付けてある。

というわけでゲートを4時52分出発。  
ヘッドライトを点けて歩き出す。早朝  
ということもあり、照らされた路面が白  
い所は雪でよいが、黒く光っている所は



奥ノ平 (平成17年2月11日)

凍っているので気をつけねばならない。  
アイゼンを着けるにはまだ早い。アスファ  
ルトの衝撃で足の筋肉疲労も早くなるの  
で、なるべく雪の上を歩くようにする。  
何となく明るくなってきたのでライト  
を消して歩く。6時21分、コグルミ谷出  
合を通過する。鞍掛トンネルまでにある  
四本の谷のうち、コグルミ谷の一本上  
がタテ谷、次が小竜の谷、一番上ははずか

しの水の谷と呼ばれているが、今日は三  
本目の小竜の谷を登ることにする。  
6時39分に谷出合に到着。取付の急斜  
面からパウダースノーにしっかりと覆わ  
れているのでアイゼンを着ける。降った  
ばかりの粉雪なのでとても登りづらい。  
ピッケルとアイゼンを確実に突き差しな  
がら掘堤左岸の急斜面をよじ登る。ガスつ  
ているので地形がわかりづらいが、谷を

まっすぐ登ればよいので安心だ。  
すぐに二又に分かれる。右俣の左岸を  
行くと、またもや二又になり、これも右  
俣の左岸を登る。

8時4分、760級の黒跡に着く。こ  
こは二次林から植林帯へ変わる所である  
が、黒跡の10m程下には罅穴が二つ並ん  
でおり、中を覗くと底が見えなくてかな  
り深そうだったが、今日は雪に覆われて  
いてわからない。黒跡は池になっていた  
ことも多く、オタマジヤクシがたくさん  
泳いでいたりする。また、かなり昔のも  
のだと思うが、カブトビールの刻印の入っ  
たピンが落ちていたこともあった。

ガスっているなか、ひたすら登り続け  
ると9時17分にタテ谷左岸尾根のキハダ  
の池の上に出る。そのままタテ谷を横切  
り奥境稜線へ登り出す。新雪のラッセ  
ルに疲れ果て、最初の休憩をとる。

しばらくして歩き出し、11時21分に奥  
境稜線に到着。雪が深いのでアイゼンの  
上にそのままカンジキを履く。しかし疲  
勞からこれ以上登る意欲がなくなり帰る  
ことにする。ホワイトアウトではないが  
ガスってまわりがよくわからないので、  
とりあえず瞑想尾根に入る。奥境稜線を

そのまままっすぐ歩いたほうが早いし、  
楽なのだが、ガスっているとコグルミ谷  
左岸尾根への降り口がわからない。瞑想  
尾根へ廻り道すれば、この尾根の末端か  
ら左へ直角に曲がり、再度、奥境稜線へ  
登りつめれば大木(アズキナシ)があり、  
まっすぐに40度の方向に降りれば、コグ  
ルミ谷左岸尾根にて国道306号に降り  
られる。

コンパスを120度に合わせて歩き始  
め、尾根の末端、道池のある所に12時21  
分着。瞑想の谷を横切り奥境稜線に登る  
と、見覚えのあるアズキナシの大木がガ  
スのなかに浮き上がっていた。時間は12  
時47分だった。休むことなくまっすぐ急  
斜面へ飛び込む。13時47分、マドロミの  
木を通り過ぎ、14時23分にコグルミ谷出  
合に到着。

ホッとすると同時に、これからの長い  
国道歩きに気分は重くなる。ゲートに15  
時49分着。ああ、また今冬も頂上にたど  
り着けなかった。

(平成16年12月30日歩く)

(其の2)

年を越して平成17年1月4日。



御池岳付近略図

御池岳フリープラン

夜、高度計は195mだったが、朝、車の中で起きて見ると275mになっている。夜中に雨がかなり降ったし、今も小雨なので、気圧が相当下がっているようだ。

ゲートを4時50分に出発。雨のなか、かなりの積雪があり最初から疲れる。雪の多い時にはコグルミ谷出合まで3時間以上かかったこともあったが、1時間46分で到着し、そのまま谷に入る。

長命水に8時30分着。20分休憩して登り出すが、近藤岩で雪が膝から腰までになった。無雪期にはここから左の尾根へトラバースするが、今日は直登してコグルミ谷源頭部に10時31分着。近藤岩付近から雨が雪になったのがせめてもの救いだ。

そのまま谷を尾根芯につめて登り、県境線に着いてから5分程くだり、幻ノ池に11時12分着。池は1分程の大きさでシャーベット状になっていた。

疲労困憊で、弱気虫が動き出したが何とか押え込んで、丸山への登山道の右岸を斜めにトラバースして奥ノ平へと向かう。12時41分に奥ノ平に到着するが、ガステって何も見えない。30分程で引き

9時34分に真ノ谷テント場に着き、10分後に奥ノ平目指して急斜面を直登する。

半月前、この急斜面の970m位の所で疲れ果て、茫然自失の状態で立ち尽している、下から「オーイ、長谷川さんくん」と、呼ぶ声があった。びっくりして振り返ると、何とホームページでいつもお世話になっている東雲氏ではないか！「木和田尾の登山口に来たら単独の足跡があったので、たぶん長谷川さんだろうとトレースを使って追いかけて来た」というわけで、その時は、彼に先に登ってもらい、後を追って行ったのだが、その速いことといったら半端じゃない。やはりこれくらいのパワーがないと冬の御池は無理なのかと驚愕させられたのだ。うん……

10時55分、ついに奥ノ平に到着。しかし今何も何となくガステている。まだ時間之余裕があるので青のドリーネまで行ってみる。このドリーネが青いのを小生は

返し、奥ノ平と丸山間の鞍部から40度の方角へ谷を降る。谷はかなりの急斜面で、ガステている時などは奈落の底に落ちてゆくような錯覚に陥り、とても恐いのだが、てっとり早く降りられるので、どうしても谷に入ってしまう。

真ノ谷へ降りてすぐに登山道？を13時32分に横切り、県境線をやじ登り、幻ノ池を左手に見ながら通り過ぎ、斜めトラバースで下降し、ピンポイントで近藤岩に到着、14時4分だった。

こういう時の気分は最高、しかし体はポロポロ。ゲートに16時7分に着いたが、他に車は一台もなく、このルートでは小生1人だけだったようだ。ああ、テンプルランドは遠いなあ、それとも小生が軟弱なのか……（平成17年1月4日歩く）

### (其の3)

今日は2月11日。今冬六回目の御池詣で。ホームページ上で皆さんが御池詣のテンプルランドを存分に楽しんでる様子に、自分の情けなさに多少焦りが出る。

今までは冬の御池岳へは全てゲートから歩いてきたが、鈴鹿の花の写真で有名

まだ見たことがない。果たして生きている間に本当にすばらしい青のドリーネに出会えるのだろうか？やはり小生のような軟弱者には無理かも知れないな。テラホラと青空が覗く時があったので写真を撮るが、すぐにまたガステってしまった。お昼を食べたりして居るうちに時間になってしまったので帰ることにする。

13時18分出発、真ノ谷テント場に13時37分着。かなり疲れてきたのでこれから白船峠までまた登り返すのかと思うと気が遠くなる。登らないことには我家へ帰れないので、最後の気力をふり絞って歩き出す。14時31分に白船峠に着く。後は下りなので気が楽になった。

16時13分に木和田尾登山口に着いた時には正直ホッとした。結局、こんな感じで自分のイメージ通りに冬の御池岳を自由自在に歩くことができてない。

今日も含めてこの冬、六回登ってテンプルランドに着いたのは四回、そのうち多少なりとも自在に歩けたと思っただのは一回のみ。そして全部ガステていた。よほど小生の貴族の行いが悪いのじゃないか…… グスン。

な金丸氏から助言を得て、木和田尾から歩くこととした。

2週間前にも、この木和田尾から登ったのだが、暗闇のなかを歩き出したところ、道に迷い、尾根にのったのが6時27分になってしまった。そんなわけで今回は明るくなるまで待ち、6時11分に出発し、前回迷った場所をチェックしながら登る。小生は単独行の基本として、迷った時は、忘れないうちに必ずもう一度やってみて、なぜ迷ったのか確認するようにしている。

ところで今年の御池は全てガスのなか……果して今日は青空を拝めるのだろうか。尾根に7時14分着、高度計は675mを指している。ここまで来ればもう迷う心配もなくひたすらまっすぐ登るだけ、坂本谷道出合に8時23分着。山腹をトラバースして、冷川谷を右下に見ながら白船峠へと向かう。前回は雪がまだふかふかでトレースも無く大変だったが、今日はだいぶ締ってトレースもしっかりとあって楽だった。

9時1分に白船峠に到着、高度計は1065mになっていたので1010mに修正する。しばらく休んでから真ノ谷へ

(平成17年2月11日歩く)

### ▲コースタイム▼

平成16年12月30日(其の1)  
ゲート4・52―コグルミ谷出合6・21―小電ノ谷出合6・39―霧跡8・04―タテ谷左岸尾根9・17―県境線11・21―県境線12・21―県境線12・47―マドロミの木13・47―コグルミ谷出合14・23―ゲート15・49

平成17年1月4日(其の2)  
ゲート4・50―コグルミ谷出合6・46―長命水8・30―コグルミ谷源頭部10・31―幻ノ池11・12―奥ノ平12・41―県境線13・41―近藤岩14・04―コグルミ谷出合14・38―ゲート16・07

平成17年2月11日(其の3)  
木和田尾登山口6・11―尾根にのる7・14―坂本谷出合8・23―白船峠9・01―真ノ谷テント場9・34―奥ノ平10・55―青のドリーネ11・50―真ノ谷テント場13・37―白船峠14・31―木和田尾登山口16・13

△地形図V2万5千ニ棟立

『万葉集』歌枕紀行

高御位山

播磨

木村太郎

鹿嶋神社への初詣を兼ね、播磨アルプスの高御位山へ行った。途中、JR加古川駅で加古川線に乗り換え、日岡駅近くの日岡神社に寄り道をした。日岡山陵(飛墓)を訪ねてみたかったからである。門松を立てられた日岡神社には、晴れ着姿の娘さんも見え、露店も出て賑わっていた。日岡山へ続く石畳道を登ってみたが、播磨が生んだ皇后の眠る森に人影は無く、森閑として時間が止まっていた。

『播磨国風土記』に記された賀古の郡の説話によれば、景行天皇は狩りでお出された印南別嬪(眉目大郎姫命)と結ばれた。城宮(加古川町木村)で蜜月をすごし、こ

の地で、ヤマトタケルが誕生したとされている。城宮で生涯を終えた印南別嬪の御陵が、日岡山の墳墓だと伝えられている。そして、景行天皇の印南別嬪への妻問いは、万葉集に詠まれている。我妹子が形見に見むを印南都麻我妹高みよそにかも見む

(巻十五・三五九)

道新羅使人が船旅の途上で印南都麻の伝承を思い起こし、故郷に残してきた妻をしのぶすがにしようとしたのであろう。けれども高い波濤のために、船が近寄れずに印南の島を見ることができなかったという。景行天皇と印南別嬪の恋物語は、いにしへの旅人の歌に詠まれるほど、

広く知られていたのである。

印南都麻は「隠み妻」とも「否み妻」とも解される。天皇は印南の野で、世間から「隠み暮らした」印南の乙女を見初めたという。そして「否み続けた」乙女に求愛を繰り返して結ばれた。播磨國に伝わる説話から、二通りの解釈が考えられてきたようだ。

印南の郡の地名由来につながる印南別



日岡山陵(福墓) 娘の眠る日岡山陵を訪れて、小さな駅から、加古川線に乗り直して、大國主命をまつる神話の山、高御位山へ向かう。

加古川駅前から鹿嶋神社行きの路線バスに乗り、車で渋滞する国道2号線の北池で降りる。北山鹿島神社の鳥居を抜け、のどかな田園道を歩く。行く手には、播磨富士と称される秀麗な高御位山が見えている。神社の石段を上がり、新年の幸運を祈ることを忘れない。

陀新池を廻り込む。右手には、北山奥山から連なる中塚山や小高御位山など市境界線の山々が屏風を立てる。前方には、目指すべき高御位山から鹿島山にかけての山並が迫った。低山帯とは思えない荒削りの岩肌を光らせた峰々は、早く登ってこいと呼びかけている。

「創造の神々は、白いあるいはかぐろい岩膚をむき出して、貧弱な高さに不似合いな鋭角を刻み」と、水上郡生まれの先覚者多田繁次氏は書いている。のじきく文庫の「兵

庫の山やま」に記述された、神々の手で創られたという播磨アルプスに足跡を印す時がくる。電柱に付けられた道標を見つければ、舗装路を離れて長尾登山口の山道に取り付く。

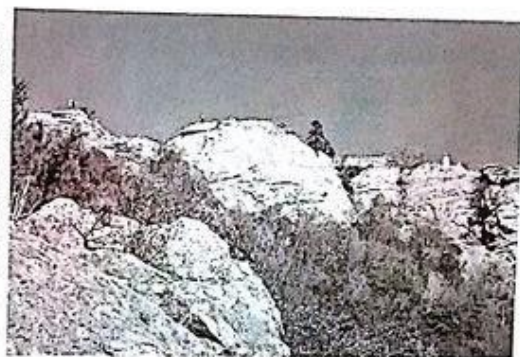
冬枯れの雑木林を過ぎるとガラガラした岩道となる。やがて、東西の双方方向へ送電線を架ける鉄塔下を通る。岩と向き合う醍醐味にひたり、恐竜の背中を想像させる岩場をよじ登る。荒々しい露岩が幾重にも重なった大岩で、目指す山頂周辺を見上げてみる。

高御位山の山頂を形づくる大岩壁が城砦のように盛り上がり、何びとたりとも寄せつけまいとしている。直登の岩稜道を捲いて、頭を低くし溝道を選んで行けば、待望の高御位山の東肩に着いた。

私の愛読書である「兵庫の山やま」の多田氏が「高御位山から桶屋山への縦走」で歩いた時に書かれた、成井高御位神社からの道と合流したのだ。多田氏はその日、春霞のなかでばかし絵となった播州平野や、六甲山系を見ながら登っている。多田氏が山頂稜線の肩に着いて、播磨灘の銀盤と播磨路の風景を見下ろした場所に、いま私は立っている。



高御位山付近略図



高御位山岩峰

現代に生きる私たちが見ている播磨の眺めと、古代の播磨の眺めとに共通した風景があるのだろうか。当然その昔は、瀬戸内海に架かる大橋などは存在しなかったが、内海を行き来する船の姿は見られただろう。『風土記』は、三韓征伐の帰途に神功皇后の船が、播磨沖で嵐に遭う挿話を伝えている。

神功皇后の船団が福泊（姫路市東部）

の入り江に寄港した時、それまで曇り空だったのに、たちまち晴れ雲が無くなり青い空におおわれた。神功皇后が「晴れ間なり」と叫ばれたことが、播磨という国名の始まりであると「播磨鑑」は伝えられている。青い空と青い海とが播磨の象徴ならば、この日は申し分のない上天気で播磨の山を歩くにふさわしかった。

ロウエープの反射板を過ぎる。雑木林を抜けた岩場に出ると北面に、雪を被った兵庫北部の山々が広がる。雪のアルプスへの憧憬をかきたてる山岳風景にしばし時を忘れる。前方には鹿島山の双耳峰、右手に桶居山の三角錐が見え、こちらはどちらでどちらへも歩きたい気持ちにさせる。

高御位山の東肩から高御位山（3043）の本峰までは一投足である。大園主命をまつる高御位神社奥社の横に、3等三角点を見る。高御位山の岩頂は高御位大神の御降臨座とされる。岩頂の裏側の日陰には元日に降った雪が残っている。海に向かい眺めを心ゆくまで楽しみ昼食をとる。瀬戸内海は太陽の光を浴びてキラキラと輝いている。

山頂を離れてすぐに展望が広がり、岩崖上から鹿嶋神社の森が見えてくる。遠方には播磨灘が潮をみなぎらせる。印南別嬢の葬送の時、つむじ風が吹き遺骨を奪い流した加古川が高砂港に注ぐ。別嬢愛用の薄肩掛けの襦を代わりに埋葬したので、日岡山陵は襦墓と呼ばれていることを思い起こさせる。

がのびている。日陰に雪があり、滑らないように吊り尾根を上り下りして行く。別所奥山の反射板と鉄塔を通り過ぎて、百間岩の大下りに入る。繋ぎ合わされ長く垂らされたロープをつかみ、息を弾ませて展望台に降りた。

縦走路を外れて、ゴール予定の鹿嶋神社へ石段をくだる。鹿嶋神社は初詣の大群集で込み合い、拝殿へ進むとする参拝客が溢れていた。これではとても帰りのバスに乗れそうもない。曾根駅まで歩くのならば、車道歩きよりは山歩きのほうがいい。時計を見ると15時30分を過ぎたところで、もう一度、山に入っても

のコブを越えて行く。やがて、3等三角点のあるピークに登り着く。まわりに山名板は無いが、豆崎奥山と地元で呼ばれている山頂のようだ。山頂の南端に出ると、目前に曾根港が近づいている。太陽は沈みかけ、小豆島周辺の上空を赤く染めている。

この日は終日、播磨平野と播磨灘を眺めて山を歩いた。だが、いよいよ中所に登山口への下りに入る。一日恋人のようにそばにいた風景との別れだ。山陽曾根駅の西方1.5程の地点に、曾根港に注ぐ天川を隔てて日笠山が盛り上がる。白浜海浜や的形の海岸線は、古代の日笠の浦で万葉集に詠まれている。

暗くなる前に下山して、大谷山を経て、地徳山、大谷山

印南野は行き過ぎぬらし天伝ふ  
日笠の浦に波立てり見ゆ

（巻七、二七八）

私は高御位山から鹿島山へと歩いたが、同じ方向に印南野の沖合を船旅していた万葉歌である。日笠の浦を波立てて印南野を行き過ぎる時に、東から西へと太陽が天空を渡っていくと詠んでいる。旅人の明るい気分が「天伝ふ」の表現から伝わってくる。

昔の河川の流域がどのようであったか

日没までに下山するべく、豆崎奥山から急降下する。くだる途中で、豆崎と中所との分岐を見るが、縦走路の道標は中所へ矢印で導いている。

中所登山口に16時40分、JR曾根駅に降り着いたのは17時前であった。

（平成17年1月2日歩く）

### ▲コースタイム▼

- JR日岡駅（日岡山陵往復40分）日岡駅
  - （電車5分）加古川駅（バス30分）北池
  - （30分）長尾登山口（40分）成井道合流
  - （10分）高御位山（45分）鹿島山東峰
  - （15分）鹿島山西峰（55分）鹿嶋神社
  - （45分）豆崎奥山（25分）中所登山口
  - （15分）曾根駅
- △地形図V2万5千II加古川



豆崎奥山からの眺め  
ふたたび縦走路に  
戻り、地徳山を経て

大谷山



標高による山の紹介シリーズ 26 松田敏男

新ハイ関西86号  
標高△△86mの山

水晶岳	(2986m)	北アルプス
カナ山	(986m)	湖北
毘沙門岳	(1386m)	白山山系
烏ヶ山	(1386m)	大山

水晶岳

24年前の夏、黒部源流の山々の山小屋に九軒泊まって巡る山行をしたことがある。満員の山小屋には群衆して、それ以降はテント山行に切り換えしたが、荷物が軽いぶん長い日程の山行ができる良さはあった。

その九軒の山小屋のうち最も小規模な水晶小屋は、早い時間に着くと小屋番に他の小屋へ足をのばすようにすすめられてしまおうと、道中に出会った登山者から聞いたので、最も登山者の少なそうな水曜日に着くようにコースを設定し、高天

ヶ原小屋から絵を描きながら午後もあり早い時間ではない頃に着いた。食事は申し分ない質と量で、小屋の人たちの感じもよく、またすぐ前に大展望の場所があり、こんなに良い条件の揃った山小屋はめったにないと感じた。

水晶岳へは早朝に岩稜伝いの道を登り、北アルプス中央部の最高峰の大展望を心ゆくまで楽しんだ。

(昭和56年8月13日歩く)

- △コースタイム▽  
高天原山荘(3時間) 水晶小屋(40分) 水晶岳
- △地図▽昭文社「一郷・立山」

カナ山

水晶岳に登ってから5年後、その間に京都山と野に親しむ会に入会し、近郊の山に地形図を見ながら登る楽しみを覚えた時期に登った山だ。石崎さんと2人で「夜叉ヶ妹池」とも名付けられている池を目指して登った。地形図上で等高線の間隔が広がっている部分を頼りに池の位置を予測し、木々にまだ葉が茂る前でおかつ池が雪原ではなく水面が出ている頃を見計らって行った。たとえ失敗しても山菜採りに切り替えられるという二枚腰があったかもしれないが、かなり昔のことなので定かではない。

標高が低いのに、さすがに湖北の山。下はイワウチワが咲き乱れていて踏まずに歩くのがたいへんだ。上は冬だった。池にはまだたくさん雪が残る。予想以上に広い池で周囲は明るく開けた雰囲気だった。でも時季によって表情は全く変わることだろう。

そして山行の付録でも言っているようにカナ山と名付けられている三角点を往復する。池見物が第一の目的ではあるけれど、ビークらしいものを何も踏まず峠からの毘沙門岳は山スキーの初級者にとっては手頃なコースだと思っ

(平成9年2月23日歩く)

烏ヶ山

烏ヶ山の山頂近くに達した時、突然姿を現した美しく壮大な大山。それはそれは劇的な瞬間だった。

山の会4人のメンバーで前日は毛無山に登り、当日は5時10分に出発した。だから山頂には早い時間に着き、光線がまだ低い角度からだったので、大山の東壁と南壁の山稜の影が深く浮かび上がり、とても神々しかった。

山腹の深い樹林のなかの道と、樹海から突き出た岩稜の道との対比が見事な山だった。

(平成12年7月9日歩く)

- △コースタイム▽  
鏡ヶ成キャンプ場(2時間30分) 烏ヶ山(1時間30分) 鏡ヶ成キャンプ場
- △地図▽昭文社「大山・森山高原」



夜叉ヶ妹池

に下山はしたくないというのは、避けられない癖とでも言うものだろうか。ヤブ

を少し滑げば山頂だった。とても印象深く達成感の高い山行だった。

- △コースタイム▽  
二俣(3時間) 夜叉ヶ妹池(40分) カナ山往復(2時間) 二俣
- △地形図▽  
2万5千 近江川合・虎御前山

毘沙門岳

山スキーにまだ慣れていない頃に須藤さんに連れてもらった山行。石徹白へ長良川側から入るときに越える松峰の北側が大日ヶ岳、南側が白鳥高原スキー場とその奥が毘沙門岳だ。

よく晴れた日だったが、自分のスキーの足元ばかりに気をとられていて展望のすばらしさは覚えていない。いちばん鮮明に覚えているのは、スキー場の上から歩き出してしばらくの所にあっただわすかの急斜面を乗り越す時、帰りの滑走の不安が頭をよぎったことだった。

しかし晴天のおかげで雪が乾らなくなっていて案じたほどではなかった。

前日の長良川の東側にある、山頂近くまでほとんど林道の烏帽子岳と共に、松

# 「1等三角点百名山」の

## 御前岳

山田明男

奥美濃

岐阜県で最も行きにくい山で、「1等三角点研究会」の選んだ1等三角点百名山の御前岳に行ってきた。

御前岳は猪ヶ馬場山の南約4kmにあり、登山道は無い。新ハイリダーのMさんでさえここは未踏のようで、行きたいと言われていたが、仕事がらみで不参加となった。当日朝から自宅（海津市）を出ていては時間が足りないと思われたので、前夜泊で登ることにした。

白川村の道の駅には22時過ぎに着き、ひとしやべりしてからテントで寝た。

朝4時起床、天生峠に移動して朝食をとり、5時に出発。初榎山へは約2時間の予定。残雪はこれまでで一番多く（イ

年連続で入っている）、御前岳へ行くには良い条件である。

花もけっこう咲き始めていてきれいだ。が、ゆっくりとは眺められない。初榎山着は谷ルートで6時56分。

少し休み、西南の猪ヶ馬場を写真に撮る。御前岳ははるか先、南南東に見える。7時に出発し尾根を歩くが、踏み跡のわかりにくい所があった。

1720m付近ピーク手前の雪渓で休憩、Tさんは2割の水を持参していたが、手を滑らせてボトルが雪の上を転がり下の雪渓まで落ちてゆき見えなくなった。「水が無くなれば分けますよ」と言っていたTさんだが、これで自分の水まで不

足する事態となった。かなり暑い日で帰りが遅くなる一因が水不足だったが、途中で水がないぶん雪を食べたりボトルに入れて解かしたりして飲んだ。



猪臥山より御前岳～猪ヶ馬場山～初榎山の稜線

ピークは8時15分くらいに通過し、ここから未知の尾根に入る。この先は、踏み跡は全く無くササやぶの予感がした。左に谷を眺めながら行くが、右手の尾根下のほうが歩きやすそうなのでそこを歩く。次の1818m付近まではわりと早く進めたが、その後は手強い太いササ（ネマガリタケシマザサ）に行く手を阻まれてなかなか進めない。尾根が広い場所も多くあって尾根芯がわかりにくく、行く手を修正することが多かった。

遠く白山方面で雷が鳴り一時パラパラと雨が来たがすぐにやんだ。御前岳の手前500～600mから山頂が見えてきたが、山頂までの遠いこと言ったらなかった。なかなか着かない。きつかった。当初の想定エンド時間を

12時としていたが、12時ちょうどに到着。見晴らしは良いが、帰りが心配ですぐ食事にした。途中で足が痛くなったM女史も何とか到着、全員来られてよかった。写真を数枚撮り、食事後すぐに出発。

300名山と1等三角点百名山を目指すS夫妻は、この山が1等三角点の百名山の中で最も行きにくい山であることを承知で参加されたそう。私は岐阜県の1等三角点を廻りたいから登ったが、思っていた以上の激やぶに手こずり、無雪期の6月には二度と行きたくない。行くなら残雪の3月末頃がよいと思う。

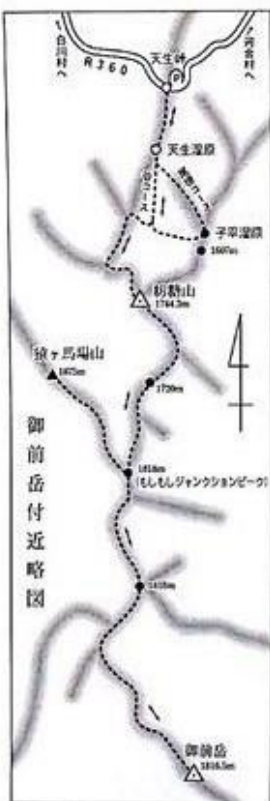
帰りはやぶに入る気力が減退して、先頭の譲り合いが何度もあった。中間の1818m付近まで長く感じた。時間も相応に過ぎていき、ピークを16時に通

過。最後の1818m付近は17時だった。

ここまで戻れば道もはっきりしていて楽になるが、暗くなってしまふ。民宿に電話して到着が20時になると伝えた。初榎山に入っていたかみさんたちからは、温泉に入りに行くというメールがあった。

初榎山頂は18時5分、まだ明るい。水場にくだって冷たい水を飲むが、冷たいからそんなに飲めなかった。500mをボトルに入れて出発。天生原で休み、駐車場まで一気にくだった。駐車場が19時35分着、宿は20時であった。

往復14時間35分で昨年の笈ヶ岳15時間30分に次ぐ長丁場になった。きついが思い出深い山で、行きよりも帰りのほうが時間がかかるという初めて経験する山行であった。（平成17年6月4日歩く）



- ▲コースタイム▼
- 天生峠（2時間）初榎山（1時間15分）
  - 1818m付近ピーク（45分）次の1818m付近ピーク（3時間35分）御前岳（3時間35分）1818m付近ピーク（1時間）
  - 1818m付近峠ピーク（1時間5分）初榎山（1時間30分）天生峠
- △地形図▽2万5千1:1平瀬

# ヤケオ山南南東尾根登高

比良

小山 誠次

写真1は平成16年秋、釈迦岳からヤケオ山に向かう途中、フジハゲに到着した手前からヤケオ山南南東尾根を撮ったもので、湖畔には内湖も見えている。この景色を撮影して以来、ぜひとも来年の比良山陰路単独行チャレンジには、まずヤケオ山南南東尾根直登から開始したいと心に決めた。

平成17年4月16日、京都府・滋賀県の降水確率は午前・午後共0%の予報である。しかし、朝方目覚めていつものように愛宕山を眺めるとほんやり霞んでいる。曇りなのか、雨は降らないはずだが……、と訝りながら朝食を済ませ、京都駅まで妻に車で送ってもらった。どうも黄砂

を含んだ春霞のようだった。

8時14分発の湖西レジャー号は溝員で辛うじて補助椅子に坐れた。比良山系に近づく、小女郎峠から蓬萊山・打見山山頂直下にかけて、所どころ雪渓が薄れゆく冬を残している。志賀駅では登山客が4人降りたが、何とこの電車は比良駅には臨時停車しないことになっている。これもリフト・ロープウェイ運行廃止の影響であろう。外に目をやると、正面谷を囲む山々では、それより南方の山々と比べて、中腹の地肌が白い点々が際立っている。これはタムシバカコブシの花による季節の証明である。

8時45分近江舞子駅に到着した。用足

しを済ませて8時51分出発。駅を出てまっすぐ湖西線の高架に沿って北上し、3分後家棟川を渡った所で左折して川沿い左岸の、今が食べ頃のヤブカンゾウの明える道を上流に向かう。途中で家棟川は国道161号線の天井川となっているが、

このあたりでは水無し川である。国道を越えてからも不即不離の距離を保って家棟川沿いの道を進むが、いつの頃からか水音がよく聞こえてくるようになった。そして、ひと汗かいたとき、いよいよ目指す南南東尾根の下端に到着した。道はまだ上流に沿って続いていて、ここ標高2500mで道を捨てる。

今から本番と、改めて登山支度を整えて、先ず尾根の下端周囲を歩いて廻り、取り付きやすそうな箇所を探した。というのも、部分的に断崖になっているからである。

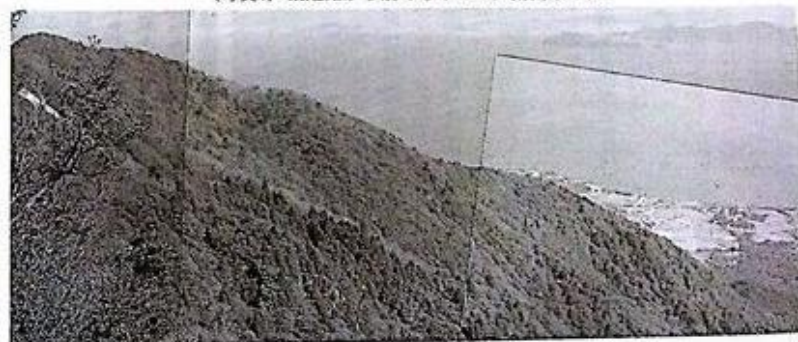
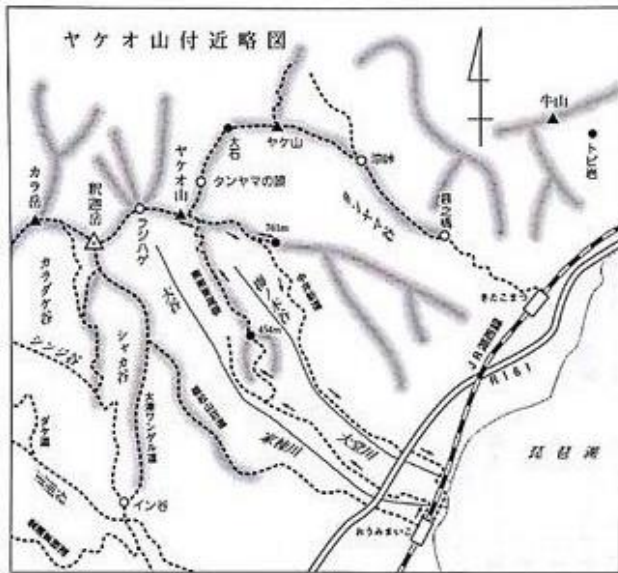
地図によれば、南南東尾根は下端で二つに分かれ、ちょうど蟹の爪のような形であり、9時35分家棟川寄りの爪状支脊の先端部より山域に踏み込んだ。こうしてしばらく登高すると、古道の跡に出合っ

た。ちょうど、筆者の意図した進行方向と一致するのでこれを利用したが、なかなか高度を稼いでくれない。古道は長い間人が踏み込んだ形跡もなく荒れ放題である。左手上方には稜線が見えるが、少しづつ高度を稼いでいるようなので、しばらく辛抱して古道と付き合うこととした。

今の時期はまだ新緑には少々早い。筆者の大好物の山菜コシアブラも新芽は1〜2割程度である。この山にはタムシバが多く、開きかけの白花からすでに落花したもので今が最盛期である。ツバキは陰地によく映え、コバノミツバツツジは日当りのいい山地に鮮やかなピンク色で咲き始めている。

10時1分標高4000mに達した所で、古道は不明瞭となったのでこれを捨て、手短かな稜線までやぶ漕ぎして登った。10時12分最初の目標であるピーク4544mに到達した。確かに地図で見ると周囲より小高くなっていてわかりやすい。ちょうど、蟹の爪の根元に位置する。

実は今回の登山計画では、標高2500m〜ピーク4544mまでを第一ステップ、ピーク4544〜標高7500m(緩傾斜地)



(写真1) 縦走路から眺めるヤケオ山南南東尾根

# 新日本山岳誌

# 世界の屋根に登った人びと

好評発売中

日本山岳会編著 菊判一九九二頁 上製  
クロス装/函入り 一八九〇〇円  
日本山岳会百周年記念出版。25支部別有余名が、  
全国約四〇〇〇の山へ実際に足を運び執筆にあ  
たった。最新・最大の山岳情報事典。

新刊

酒井敏明著 四六判並製 一八九〇円  
ヒマラヤ、アルプス、アンデス、もう一  
つの「最高峰」チンボラソ。その登頂の  
歴史と人物をいきいきと描き出す。ノシ  
ヤック峰初登頂の貴重な体験も綴る。

★表示の価格は5%税込です

ナカニシヤ出版

<http://www.nakanishiya.co.jp/>

京都市左京区一乗寺木ノ本町15  
☎075-723-0111 〒606-8161

までを第二ステップ、標高750m↓標  
高900m(ここも緩傾斜地)までを第三  
ステップとし、残りのヤケオ山頂まで  
を第四ステップと定めていた。したがっ  
て、第一ステップは無事に達成したこと  
になる。

近江舞子駅近くから南南東尾根の全景  
を眺めると、ピーク454の直上で括れ  
て見えるが、実際に登ってみて、実はこ  
こに深さ2〜3mの幅広い溝が尾根を横  
断していることがわかった。地図上では  
そこまで表現できていない。

さて、ひと休みして現在は10時18分。  
これからは正しく尾根上を登高すること  
としたが、第二ステップは登路に沿って  
の平均斜度は30度で、本日最もしんどい  
コースである。尾根上を左右に捲きなが

ら登高するが、場所によっては右手の尾  
根直下に白い地肌を見せて崖が梅ノ木谷  
まで続いている。滑りやすいザレ場では、  
生木が枯れ木かを十分確認して両手をフ  
ル稼働しながら登高する。植生上、この  
あたりはどちらかといえば疎林帯に属し、  
大木はあまり見かけない。

第二ステップではタムシバもコブシも  
ほとんど目にせず、所どころでアセビと  
シキミが目立たずに咲いているくらいで  
ある。しかし、日当たりがいいので十分  
に久し振りの比良山が味わえる。陽差し  
もやわらかく、しんどい思いも実に楽し  
い。

本日帰路は中井新道を予定しているが、  
梅ノ木谷を挟んでピーク761が右手や  
や上方に見えるようになってきた。直線

距離にして600m位である。早く目線  
の高さで眺めるようになりたいと頑張る  
が、木々の枝葉でヤケオ山頂上近くはま  
だ全く見えない。

11時29分標高720mで、略水平位置  
からピーク761が眺められるようになっ  
た(写真2)。中井新道はピーク761の  
手前で右に折れるが、帰りにピーク76  
1の様子を見てみようと考えた。予定し  
た標高750mまでもう少しだが、ここ  
は比較的平坦なので、約10分間の休憩を  
とる。人跡が見当たらないのは実に気持  
ちがいい。本日は13時までにはヤケオ山に  
到着すればオンの字と考えていたが、こ  
のぶんでは早く達成しそうだ。

腰を上げて第三ステップに向けて出発  
する。歩き出して間もなく、尾根上のや

や南側で、少し陥没した溝上に雪渓を発  
見した。もうすぐ解けてしまうだろうが、  
その上に靴跡を残した。新雪面に初めて  
足跡を残す感覚である。ここまで登って  
来て尾根の南方遙か遠くを眺めると、堂  
溝岳、鳥谷山、比良岳の裾野、打見山、  
蓬萊山が見え、いずれも北側斜面には雪  
渓が春霞のなかで白く輝いている。もち  
ろんすぐ目の前の釈迦岳は言うまでもな  
い。

11時53分標高790mで、周囲より陥  
没して何となく古道跡かと思ってい  
ると、傍らの木に古くて色褪せた布が結  
び付けてあった。どうも元々は青い布の  
ようだ。これが連続して古道を案内して  
くれているので、しばらくはこれをたど  
ることとした。場所によっては大谷側に  
まっすぐ落ち込むガレ場が展開している  
が、第二ステップのように直登すること  
はなく、斜面をジグザグに登高している  
ので、通常の山道の感覚でルンルン気分  
だった。

このあたりまで来ると、ヤケオ山頂  
の位置がはっきりとつかめる。山道はヤ  
ケオ山の裾を捲くように、左手のフジハ  
ゲ方向に進んでいる。おそらくはそのま  
まヤケオ山頂までジグザグ道になって  
いるのであろうと推測したので、筆者は  
古道を離れてヤケオ山直登コースを選び、  
一路もとの尾根上の稜線を目指した。

筆者はブッシュ・ウォーカーではない。  
登山をしていて山道を煩わしく思っ  
て意図的に離脱したのは初めてである。最も  
難路の第二ステップを無事に直登してき  
た気負いからであろう。ここから第四ス  
テップ開始となるが、もうあと残りわず

かである。

このあたりからは背の低いクマザサが  
広くゆるやかな斜面に疎らに生えている。  
登るにつれてクマザサの密度が増してく  
るのもいつもの通りである。そうこうし  
ているうちに、斜面が急に平坦になっ  
たと思ったら、中井新道に出合った。あと  
は5分間歩いて、12時33分久々のヤケオ  
山山頂に到着した。南南東尾根下端から  
休憩時間を含めて2時間58分の登高で、  
休憩時間を除くと所要2時間26分であ  
る。

昼食は山頂北面に寄り、坐り心地のい  
い石の上で、蛇ヶ谷峰から釣瓶岳の北稜  
と畑・黒谷集落とガリバー村、眼下には  
横谷尾根を眺望しながら、いつものおに  
ぎりとカップラーメンを楽しんだ。なか  
でも、畑集落の淋明寺の屋根が日光を反  
射して少し目映く印象的だった。坐った  
右手地面には可愛いシヨウジョウバカマ  
が清楚な花を咲かせて、左手の岩にはボル  
トが一木埋め込まれている。昼食中、ヤ  
ケ山方面から熊除けの鈴の音と共に、一  
組の夫婦が登って来た。聞けば、コース  
の所どころで雪渓が残っているとのこと  
である。



(写真2) ピーク761を望む

# 山歩き & ウォーキング 総合カタログ

2005年4月 ▶ 山歩き & ウォーキング  
2006年3月

お電話・FAX ご請求ください!  
お手紙にて **送料無料**

★添付の資料請求ハガキでご請求の方には新年度カタログをお送ります。

## 山歩き & ウォーキング (年間・総合カタログ) ▶

国内・海外・自然観察の旅500コース以上を掲載した総合カタログ。オールカラー! 写真も満載!

### ツアーのポイント!

- 安全・安心登山宣言。  
全コース日本山岳ガイド協会認定のガイドや、登山経験豊富なツアーリーダーが同行。
- 始めての方、中高年の方、お一人での参加も大歓迎
- 日帰りの低山から、憧れの日本百名山、世界の名峰を歩きます。



### 低酸素室設置!

高山病はこれで解決!  
「低酸素室」とは、人工的に低酸素環境をつくり、高酸素に耐性することを目的とする装置です。設定高度も3000m~4000mに調整することができます。山岳会やグループでの高所登山を計画されている方もお気軽にお問い合わせください!

●利用料(1時間標準)  
メンバー2名 ¥1,000  
非会員 ¥2,000

大阪支店オフィス内

### 2006年冬号 パンフレット(無料) 完成! ご請求下さい!

お問い合わせは... 山旅専門旅行会社

**アミューストラベル株式会社** 国土交通大臣登録旅行業第1366号  
日本旅行業協会正会員 ポンド保証会員

〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル7階

ホームページ <http://www.amuse-travel.co.jp>  
E-mail: [amtsa@amuse-travel.co.jp](mailto:amtsa@amuse-travel.co.jp)

**06-6456-3366** FAX 06-6456-3377



(写真3) 大堂川堰堤から見上げる南南東尾根

約45分間の昼食タイムの後、帰路は予定通りに中井新道を選んだ。山頂から約1000mほど下った南側では、道から垂直に落ち込むガレ場があり、コースはその直上を通過するので要注意である。

中井新道はヤケオ山東方尾根をピーク761の手前まで忠実にたどった後、そこから南斜面をくだることになるが、午前中に決めていた通り、コースをちよつと外れ、ピーク761付近を見て廻った。ここからの東斜面は尾根の延長で、午前中のコースよりもすこしやぶが深そうだが、くだれないことはない。後日改めて

の計画としたい。

さて、午前中の日当たりのいい南南東尾根とは打って変わり、中井新道はやや薄暗い日陰のなかを歩くことが多く、今の時期目を楽しませてくれたのは喬木のアブラチャンと地面のコスミレ・ショウジョウバカマぐらいである。再びツバキを目にするようになった頃、コース上に水が出てきた。水流を避けながらくたつて行くと、何と右手に大きな堰堤があるのに初めて気づいた。そういえば、ずっと昔に工事をしていた。ちよつと寄り道をしよう。

堰堤は水を満々と溜え、水中には青々とした深が茂っている。そのまま北西方向を見上げると、南南東尾根の第一ステップが間近に見え、水面にはその山影がきれいに映っている。

5分間休憩した後、大堂川左岸に沿って湖西線までくたつてきた。高梁に沿って大堂川を渡り、そのまま南方向に歩いてみると、途中で釈迦岳・ヤケオ山がはつきりと見通せる場所があり、その全景をカメラに収めた。南南東尾根もよく望め、ピーク454直上の括れも明確にわかる(写真3)。

15時21分近江舞子駅着。急いで駅の特等車でTシャツに着替え、ロングスリーブを外す間もなく、30分発の新快速が入ってきた。比良山系を眺めながら、京都駅まで満足感いっぱいの帰路だった。

ヤケオ山南南東尾根は、真夏以外ならば、明るくて所どころからは遠望もよく、なかのいいコースになるのではないかとと思われる。本日は梅ノ木谷をグルッと取り囲む周回コースを楽しんだ一日だった。(平成17年4月16日歩く)

▲コースタイム▼

JR近江舞子駅(30分) ヤケオ山南南東尾根下端・標高2500m(23分) 古道不明瞭地点・標高4000m(9分) ピーク454(1時間4分) 標高7200m(14分) 古道合出(31分) 中井新道合出(5分) ヤケオ山山頂(20分) ピーク761手前(3分) ピーク761(3分) 元のピーク761手前(44分) 堰堤(43分) 近江舞子駅

△地図▽

山と溪谷社「比良・北山東部」  
昭文社「比良山系(2003年版)」

## ブッシュウオーキング、三大ピーク登山

# クレードルマウンテンと、 エアーズロック・Mtコジオスコ

金谷 昭

オーストラリア

大平原で有名なオーストラリア大陸の登山とは意外に思われるだろうが、世界七大陸最高峰にはオーストラリア大陸の最高峰として、Mtコジオスコ(222



9日)が挙げられ盛んに登られている。しかし一部には範囲をオセアニアにまで広げ、インドネシア領、ニューギニア島のカルテン・ピラミッド(4884日)を挙げる向きがあるが、現在治安問題で登山は不可能なため、今ではどちらを登頂しても七大陸の一つのオーストラリア大陸最高峰登頂者として認められているようである。かの植村直己やエベレスト清掃登山の野口健らの七大陸最高峰登頂者もこのピークをマークしている。

その他観光客にも有名なエアーズロック(地元名ウルル、867日)登山やオーストラリア大陸の東南にあるタスマニア島の水河地形のクレードルマウンテン



前峰からクレードルマウンテン山頂



クレードルマウンテンとドウブ湖

(1545日)は、共に世界自然遺産に登録され、世界中から多くのハイカーが訪れている。

この三山を登山する(現地ではブッシュウオーキングと称する)ツアーに参加してきた。

### ①クレードルマウンテン

(第2日) 3/19  
関西空港からの最初の寄港地であるブリスベンからメルボルンへの大平原を飛

ぶ3時間半のフライトは、オーストラリア大陸の広大さを感じさせられた。メルボルンからは、大陸より南に離れた南極に近いタスマニア島のデオンポードに飛び、ここからバスでクレードルマウンテンに向かう。紅葉には少し早いが多々しい初秋の島の風景が展開する。バスの行く平原にはユーカリの樹木が多く、根幹周りに黒焦げが多く見られた。油分が多くて自然発火したものであるが、完全に燃え尽きることなく生きていると言う。平野部から高原に入ると戸隠連峰によく似た水河地形の鋸歯尾根の岩山が現れ始める。所どころに美しい池や池塘が点在する変化の多いユーカリの原生林の中へ入って行き、クレードルマウンテン



ン・ロッジに到着した。小さな池を中心としたロッジ群とレストランからなる登山基地で、各ロッジには電熱式シャワーのある快適なもので、周りは小動物も徘徊する深い森に囲まれていた。連泊したロッジの食事は味・量共満足できるものであったが、配膳間隔時間が長く、ゆっくりと談話しながら食事をとる習慣の無いせいかちな日本人にはいささか勝手が違っていた。

(第3日) 3/21  
明ければクレードルマウンテン登山の日。各自大きなランチボックスを受け取り、登山口のドウブ湖畔に向かう。昨夜の快晴がすっかり曇ってしまった付近の山々はガスがかかり、悪天候が気かりであった。バス運転手の、「自分の経験では、ガスのかかり具合は晴天になる」と言う説明に一同安堵し、登山口に向かっ

たが結果はその通りであった。湖畔までのユーカリ原生林にはハケ岳の鶏枯山のような立ち枯れ木群が現れた。酸性雨の影響かと思っていたが、聞けばこの地層の岩盤は浅くて表土が薄い。ユーカリの養分となる地表付近の苔類が、2年前の数ヶ月間雨が降らない異常気象で枯れ、そのため栄養補給が途絶えて枯れてしまったとのことである。

ドウブ湖畔でバスを降りると、美しい湖の向こうに、頂上付近はガスがかかっていたが、鋸岳の八つ峰の岩尾根によく似たクレードルマウンテンの岩峰がそびえ立っている。なお、駐車場のトイレは世界自然遺産登録地域だけに、半地下式でもちろん水洗式、付近の景観に配慮されていた。

登山道は、水河期のドウブ湖畔の左奥にそびえるクレードルマウンテンに向かって、反対側の湖畔の右側の尾根を上って行くがよく整備されており、やがて右下に可愛いリラ湖が見えてくると急登となる。これを登り切ると右側にクレイター湖、そして左側にドウブ湖を見下ろす尾根の稜線を行く。やがて尾根が広がり、ハイマツのようなパインを始めとする灌

本地帯となる。立山の弥陀ヶ原によく似た高層湿原(オーバードラック)をゆるやかに登って行くと、マリオン展望台が出てきた。頂上はガスがかかって望めなかったが、展望のよい高原の登高を楽しんでいるうちに避難小屋キッチンハットが出てきて休憩となった。小屋は木造二階建てでこじんまりとしている。二階にも出入り口が設けられていて、冬期の積雪の深さがうかがえる。

ここから見る頂上は錫岳の仙人池からの八つ峰をスケールアップした様相を呈し、中腹には頂上に向かう登山者が小さく見えている。いよいよ頂上に向かってアタックする。すぐ出てくる三差路では、掃路に使う左の捲き道を見送り、正面の道を登って行く。次第に急登となり、右にトラバースする屈折点で振り返ると今朝出発したドウブ湖畔の登山口からのルートが望め、ちょうどよい休憩地であった。

ここからは岩場の登りとなる。ルートは踏み跡と赤ベンキで明確だが、大きな岩の足掛かりに我々短軀の日本人はこずり、長軀のオーストラリア人は難無く追い抜いて行く。女性の中にはここで

タイアされ、少し屈辱を味わった。

頂上と覚しき柱状節理の岩峰の頂上に立つと、さらに上部に岩峰がそびえ立つ。やっと前衛峰で、いったん鞍部にくだり同じような柱状節理の岩場をよじ登って傾斜がゆるむと、岩のゴロゴロする頂上台地へのり、方位盤の置かれた頂上に立つことができた。

ガスはすっかり消え、クレードルマウンテン国立公園の360度の大展望が得られた。頂上で遅い昼食をとりながら西の方向を見ると、はるかかなたに二ヶ所の山火が見られた。焼畑農業の火かユーカーリの自然発火であろうか。

岩場の下山は登りより難渋したが、全員無事トラバースの屈折点に降り立ち、やっとひと息つけた。避難小屋上部の分岐は右をとり、クレードルマウンテンの鋸歯状の岩稜の中腹を捲いて行く。フェイストラックをたどってゆるやかにくだって行くと、前方にドウブ湖とこれからたどる尾根が見える展望のよいトレッキングとなった。くだるにつれ出てくるユーカーリ林にも縮枯現象による異様な風景が出現した。やがて捲き道は岩稜先端のピークであるリトルホーン(1355ft)の

山麓に向かったの急な下りとなり、降り

立った広い鞍部には避難小屋と池塘が出てきた。池塘は屋久島の花之江河によく似た高層湿原である。振り返って仰ぎ見るリトルホーンの層状節理の岩壁にガードされた岩峰と縮枯現象のユーカーリ林の取り合わせは、異様な風景であった。

鞍部からはドウブ湖の側壁の稜線を行く。ドウブ湖とは反対側(右側)にあるナウイステッド湖と背後のピークとの組み合わせはまるで人工庭園風で、一枚の絵を見るようであった。

稜線の次のハンソンピーク(1185ft)に登って振り返ると、クレードルマウンテンは身を岩壁の罅に固め、前衛峰リトルホーンを衛兵のように従えて我々を見下ろし、大きく立ちはだかっていた。ここからはドウブ湖畔に向かつてどんどんくだり、降り立った湖畔の散策路をのんびりと歩けばバスの待つ駐車場であった。

湖畔からロッジまでの帰途でムーンパットが道路に飛び出し、バスを停めて写真撮り会となり全員大満足。離島だけに動植物には珍しい固有種が多く見られるようである。

## ▲コースタイム▼

ドウブ湖駐車場9・15ーキッチンハット11・30ークレードルマウンテン12・50(昼食)13・30ーリトルホーン下の鞍部16・30ードウブ湖駐車場18・00

(第4日) 3/22

ドウブ湖を中心にボタングラスの草原地帯と立ち枯れのユーカーリ原生林の散策を楽しむ、再び湖畔に戻ったところ、湖の中の島の名前がマリッチ(ハネムーン)島となっている事に因んでか? 思いもかけずオーストラリア人の簡素な湖畔結婚式が行われていた。オーストラリアの自然と共に現地民社会の一部を垣間見られたことをお土産に、クレードルマウンテンを後にした。

## ②エアーズロック(地元名ウルル)

(第5日) 3/23

エアーズロック、オーストラリア大陸のほぼ中央にあり、荒涼とした砂漠の中に忽然と姿を現す赤肌の一枚岩はあまりにも有名である。先住民アボリジニの聖地で彼らの信仰の対象となっており、最近では彼らの言葉のウルルという名前を尊重し定着してきている。オーストラリア



エアーズロック登山口

大陸の中央部の年間降雨量は250mmで、日本の約6分の1。アカシアの一種であるマルガという灌木のみが生えている赤土の砂漠にある。高度は867ftだが、周囲地盤からは約348ft。周囲約9kmの正真正銘の赤い一枚岩で登山には往復約3時間を要する。なお、ウルルの西約45kmの聖地カタジュタ・オルガ岩峰

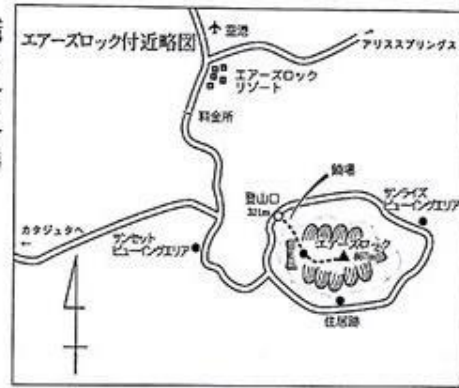
(36個の赤い岩峰群、周囲約22km、高度546ft)と共に世界自然遺産に登録されている。

メルボルンから空路でウルルに到着した時、地元ガイドから「今日の午後は少し曇っているが風が無く気温も高くないので、今から登山してはどうか」と勧めがあり、登山口に向かったところ、天気予報が天候悪化を伝えたらしく登山口は閉鎖され、明日に順延となった。

ゲートにはウルル登山について次のような登山禁止条件が掲示されていた。

- (1) 原住民アボリジニの宗教的行事の日
- (2) 3時間以内で往復できない者
- (3) 高さ250フィートでの最高風速25ノットの風の吹く時
- (4) 雲が頂上より下にある時
- (5) 気温が36度以上の予報発令の時
- (6) 救助作業中

今日の登山禁止の条件は不明だったが、原住民アボリジニは他民族の聖地への登山を好ましく思っていないようである。サンセットビューイングエリアにて赤く染まったウルルを前にしてシャランペンのサービスを受け、翌日の安全登山を祈った。



(第6日) 3/24

今朝 昨夕とは反対側のサンライズビューイングエリアでは快晴と言いつても、赤く染め上げられたエアーズロックの山肌の光景に感嘆し、登山口に向かう。午前7時のゲート開門を待って登山開始となった。

登山ルートは、何本かのびている最も長くゆるやかな尾根に付けられている。登山口から3分の1までは傾斜が急である。鎖一本が設けられその左右を登降そ

れぞれ一方通行となって往復する。赤岩にはステップが彫り込まれた石段となっているが、擦り減ってステップが不明瞭となっている。しかし、石の表面は粗く思ったより滑りにくい。視界を遮るものはなく、急傾斜のやせ尾根は高度感がある。鎖が頼りだけに高所恐怖症の者は途中で立ちすくむようである。

早朝で気温は低い。登山は快適であったがかなり風があり、頂上ではさらに風が強まる不安もあった。ただいったん取り付くと後から後から登山者が押し寄せ、否応なしに休みなしに登らざるをえなかった。鎖の終わる所は多少傾斜がゆるんだ小台地になっており、小休憩をとりながら下を振り返ると、その急傾斜に下山が思いやられた。

ここからは右に記された白ベンキに沿ってゆるい稜線を登って行く。所どころに短かいが急なアップダウンが出てくる。稜線が幅広くなり、鎖が無くても先程のような恐怖感はない。大展望のなかを白ベンキに誘導されて赤い岩稜をたどると、方位盤のある頂上台地に飛び出した。

先住民の聖地だけに何か祠らしきもの

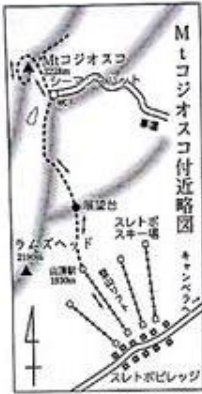
念願のエアーズロックの登山はピリオドを打った。なおウルル入山料は3日間有効で、オーストラリア25ドル(約2100円)であった。

▲コースタイム▼

6・20 | 登山口7・12 | 頂上8・00 | 30 | 登山口9・10 | 周遊道路 | ロッジ11・05

③ Mt. Jozosho

(第7日) 3/25  
エアーズロックからMt. Jozoshoへは直行する航空便は無く、空路をいったんシドニーに戻り、さらに首都キャンベラへ飛び、そこからバスに乗り換える。緑の多い美しい公園都市キャンベラの市街地を抜け、Mt. Jozoshoの麓の町スレトボに向かった。牧草地の大平原を2



時間程走ると水力発電の基地の街コオマに着き、水力発電館の見学を兼ねて休憩となった。このあたりは南極に近いだけに氷河地形と冬の降雪を含めての年間降雨量が多く、水力発電に適しているとのことであった。

休憩後、さらに1時間程走って牧草地を離れ山間部に入る。発電目的の人工湖畔にて再度休憩をとったが、その際コアラが話題となった。コアラは水を飲まず、水分はユーカリの葉から摂取する。ユーカリには毒性を含むものがあり、全200種のユーカリの約30種しか食べず、またユーカリはアルコール分を含むため、コアラの動きの鈍い原因となっている。なお衛生上の問題から観光客にコアラを抱かせる州と禁止している州とがあるとのことであった。

スレトボの街は標高1370mで日本の軽井沢のような別荘地。特にオーストラリアの南端に近いだけに冬期にはスキー場として人気のリゾート地である。街外れにはスキーリフトが多く架けられ、コジョス登山には中腹にのびているその一基を利用することとなる。オーストラリアの最高峰だけに国内では人気があり

がある予想していたが何も無く、岩全体が信仰の対象となっているようだ。360度の大展望。オーストラリア大陸の中央大平原で昨日訪れたカタジュタの岩群以外に山らしきものは一切無く、見渡す限り赤い砂漠である。ところがよく見ると、頂上からかなり離れた赤い岩の稜線に緑の樹木が認められた。おそらく雨水の溜まる窪地であろうか、生物の営みの強さを思い知らされる。次々と登って来る登山者はほとんど日本人であった。我々のグループでは登山を諦めた女性がおられたが、所要時間は早い者では45分、遅い者でも1時間強であった。

下山する頃には気温が上がってきた。心配していた風も収まり、鎖場までは展望を楽しみつつだった。鎖場からは多少岩に慣れてきたのか特に急な所以外は鎖に頼らずに降りることができた。我々は全員無事登山し終えたが、時々転落事故が発生しているとのことであった。

なお、先住民の聖地だけに山中にはトイレなど一切無く、登山口近くのトイレを使用することになっている。下山後はバスでウルル周遊道路を走り、先住民の洞窟住居跡や岩に描かれた壁画を観光し、

(第8日) 3/26

早朝、登山リフトを利用して約10分着いた中腹の山頂駅からは、山頂は見えなかった。ここから始まる登山道はゆるやかで幅約1・8mもあり3人が並んで歩け、プロック舗装されている。途中か

観光バスなら 確実第一の  
太陽観光開発株へ!!



・小型 (20人・24人)  
・中型 (28人乗り)  
・中2階 (45人乗り)  
・大型 (55人・60人)  
いずれもサロンカーからデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪府茨田本町1-20 オカダビル4F  
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983  
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372



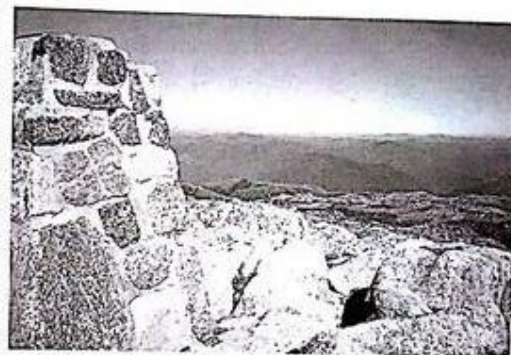
## 新ハイキング選書

- 第4巻 **一等三角点のすべて** 多摩雪雄 編  
改訂2版/上製本/B6判352頁/定価1890円 一等三角点の知識をこの一冊に収録
- 第9巻 **一等三角点の名山100** 安藤正義/市川静子/多摩雪雄/富田弘平/松本 浩 共著  
3刷発売中/B6判336頁/定価1631円 一等三角点峰100座の紀行・案内文集
- 第14巻 **百歳までの山登り** 富田弘平 著  
2刷発売中/上製本/B6判360頁/定価1835円 話題豊富な著者の紀行と随想集
- 第18巻 **一等三角点の名山と秘境** 安藤正義/多摩雪雄/富田弘平/松本 浩 共著  
2刷A5判340頁/定価1837円 一等三角点の山100座の登山コースを紹介
- 第19巻 **山との出会い** 富田弘平 編  
B6判328頁/定価1680円 山の随想集。55名が執筆の読物
- 第20巻 **一等三角点の山々** 山口ゆき子/横山隆/高柳生雄/川越はじめ/岡村美邦 共著  
A5判310頁/定価1680円 第9、18巻の山と重複しない80座の登山コースを紹介
- 第23巻 **多摩100山** 守屋龍男 著  
B6判244頁/定価1575円 多摩の山100山を選び、50のコースにまとめた案内書
- 第24巻 **山岳巡礼** 佐藤光雄 著  
B6判362頁/定価1680円 山に魅せられた一登山家の珠玉の紀行集
- 第25巻 **東京近郊里山ハイキング** 新ハイキング・ベンクラブ 著  
A5判232頁/定価1680円 武蔵野/多摩を中心に房総・三浦半島の里山歩き69コース
- 深田久弥の研究** 深田クラブ 編  
A5判389頁/定価1680円 深田久弥のすべてを丹念に研究した成果を収録
- 花と山** エーデルワイス・クラブ 編  
A5判219頁/定価1680円 山と花を愛する100人が綴った100山
- 田舎ごっこ** 中山権四郎 著  
B6判234頁/定価1680円 新ハイ掲載の田舎ごっこと蝶々雑記をまとめた、珠玉の読物

発行所 **新ハイキング社** 〒114-0023 東京都北区滝野川7-5-5 高橋ビル  
電話/Fax 03-3915-8110  
●価格は消費税込み ●振替でのご注文は送料当社負担 振替00130-9-146915

らは滑り止めを兼ねて鋼鉄製格子蓋(グレーチング溝蓋)を敷き詰めた歩道に変わるが階段はほとんど無い。なるほど乳母車での登山も可能である。

樹林地帯を抜けて、周りは立山の弥陀ヶ原のような雄大な高原地帯。所どころに湿原や池塘が出現するが、高山植物で有名なコジオスコデイジーは時期が遅く、残念ながら咲き終わりの群落のみであっ



Mtコジオスコ山頂の方位盤

た。少し行くと展望台があり、ここで初めて山頂とその手前のシューマンスハットの二峰が、昨夜の晴天による放射冷却の霜を被った白い円峰となって姿を現した。高原散策を楽しみながらたどり着いたシューマンスハットにはトイレが設置され、車道が上がってきていた。ここからの登山道は幅は変わらないが砂利道となり、コジオスコの頂上を右にゆるやかに大きく



Mtコジオスコ山頂からの展望

捲き、一廻りすると頂上に到達した。頂上は中央に方位盤と測量用と覚しき標石(三角点?)を中心にした岩のゴロゴロするゆるやかな広場で、360度の大展望である。周囲には特に目立つ鋭峰は無く、高原状のスキー登山には最適な地形で、遠くオーストラリアの台地が広がっていた。

エアーズロックと違って日本人登山者は我々以外は出会わなかった。我々が下山する頃、マウンテンバイクを担いだままリフトで上がって来る者が多い。冬のスキーコースがマウンテンバイクコースとなって、無雪期のレジャーとして賑わっている。

オセアニアの最高峰の登山としては高度差約300m、さほど労を要さない登山だけにいささか登頂の感薄いものであったが、七大陸の最高峰の一つを踏むことができた。

▲コースタイム▼

リフト山頂駅9・10―シューマンスハット10・10―コジオスコ山10・25―55―リフト山頂駅12・05

(平成17年3月19日〜3月27日歩く)

連載

# 旗振り通信の資料VII

## 柴田昭彦

【竜王山(茨木市)】  
 平成17年5月2日、岡田敏昭・岡田知子「大阪府の山」(新・分県登山ガイド26、山と溪谷社、2005年)を購入したところ、竜王山の項目に次のようであった。

「隣の阿武山とともに、昔は手旗信号で相場情報を伝達していたともいう。」

古くからの雨乞いの山である茨木市の竜王山に旗振り伝承があるというのは筆者にとって、初耳であった。今まで、他の文献に竜王山の旗振り伝承にふれたものは見当たらなかったからである。

そこで、さっそく、筆者のひとり、岡田知子氏のHPの中の「ともちゃんのゲストブック」を利用して、その出典をお

尋ねたところ、岡田敏昭氏からの返信(5月10日)で、次のような事情が判明したのであった。

「私は茨木市に、小学校の頃から17年住んでいました。竜王山と阿武山は、子供でも知っている地元のお山です。私の描写は、小学生か中学生のころ、いつとはなしに伝え聞いていたものに基づくもので、誰でも知っているようなことという認識がありました。この指摘を頂戴するまで、あまりに当然視してしまっており、実は「裏づけ」すら、とっていないかったことに気づいたほどです。」

そこで、自分なりにいろいろ調べていますが、現在のところ、ご指摘の点を要

付ける公式情報には合せておりません。」  
 「子供の頃からの『常識』が、必ずしも正しい事実を表現しているとは限りません。そういふ意味では、結果として、誤報なのかもしれません。これについては、引き続き調査します。」  
 「なぜ、竜王山と私の頭にすり込まれているのか、逆にロマンを大いにかき立てられています。時間がかかるかもしれませんが、いずれ明らかにしていきたい【謎】ですね。」

さかのばれば、岡田敏昭氏は、そのHPで、2003年12月14日の山日記において、竜王山のガイドに「隣の阿武山とともに、昔は手旗信号で情報を伝達していたともいう」と書いていて、これが、竜王山の手旗信号に関する最初の記事ということになるのだろう。

茨木市広報広聴課・茨木市史編さん室に尋ねたところ、「竜王山の旗振り場」については聞いたことがないとのことであった(平成17年5月30日の返信)。市史編さん室でも知らないということも考えると、やはり、誤報である可能性が高い。いったん活字になった記述が孫引きされて広まらなことを願う。

【阿武山(茨木市・高槻市)】

中庄谷直・木村俊之「大阪府の山」(分県登山ガイド26、山と溪谷社、1995年)には、阿武山の旗振り場について、次のような具体的な記述がある(本誌57号参照)。

「その美しい山容から美人山ともよばれている阿武山は、『旗振山』というもうひとつの名前を持っている。明治から大正初期にかけて、現在の『貴人の墓』の西側に『旗振り小屋』とよばれる小屋が建てられており、大阪で開かれる相場の状況を京都へ手旗で知らせるための中継所の役割を果たしていたという。現代のような通信手段がなかった当時、京都と大阪の間に位置するこの低山は、関西の経済になくてはならない存在だったのである。」

この記述は木村氏によるもので、大変、具体的であり、旗振り場が貴人の墓の西側であることはまず間違いないものと思われたので、筆者は、阿武山の旗振り場については、木村説を踏襲してきた(本誌57・82号)。

たとえば、HP「浮雲滝水の記」の

「のんびり日溜まり散歩阿武山」(平成10年2月16日)にも、次のようにある。

「三等三角点から、今度は西側へ降りるとT字路。案内板があり阿武山の説明が書かれている。昔はツツジなどの低木のみで大層景色が良かったそうだ。別名美人山とか。また明治の頃、南の貴人の墓の横に小屋があり、旗を振って大阪の相場の状況を京都に通信していたとか。」  
 「ところが、最近では、阿武山の旗振り場は、山頂であったように流布されているようである。まず、その現状を見てみよう。」

岡田敏昭・岡田知子「大阪府の山」には、阿武山の項目に次のようにある。

「阿武山は大正の初期までは樹木がなく見晴らしがよかったため、山頂の蕨や小窓から大阪の相場情報を手旗で伝えていたという。」

高槻市のHPの「文化・スポーツ・観光・産業」の「ハイキングコース」で、阿武山コースの案内を見ると、次のようにある。

「上がった所が標高281・1mの山頂である。かつては見晴らしがよく、大阪の米相場を伝える手旗信号を送る中継所

として利用され、旗降山とも呼ばれた。」

「高槻市ハイキングコース地図」(平成14年11月作成)は10コースを案内していて、阪急高槻市駅等、市内の行政サービスコーナーで、1セット100円で入手できるが、その阿武山コースにも同じガイド文があり、「旗降山」ではなく、正しく「旗振山」とある。

茨木市のHPの、茨木市生涯学習情報の生涯学習だより「まなびどり17号」に収録された「茨木自然歩道を歩く3」には、次のような記述となっている。

「阿武山(美人山)は海拔281m。山頂は「休場(やすんば)」と呼ばれ、『相場の旗振り場』であったようだ。現在は雑木が生え茂っているが、かつては高い樹木がなくツツジのみが生えて景色の良いところであった。大正の初期まで、ここで大阪の米相場など商都の情報を、京都へ向かって旗を振って知らせた中継所であったらしい。」

また、茨木市生涯学習情報の「いばらきこんなまち」の「ハイキングコース」で武士自然歩道を見ると、次のようにある。

【阿武山(相場の旗振り場)】

阿武山は一名美人山と呼ばれ、海拔281・1mかつては全山樹木なく、つじのみが生えて景色がよく大阪の街からも見ることができた。この阿武山の南西に「休場」という所がある。ここから手旗信号で大阪方面の情報を得ていたようである。」

これと全く同じ文がHP「きまに関西あちこち探訪記」の「初冬の摂津・萩谷コースを歩く」(2001・12・15)にあり、阿武山古墳についても詳しい。茨木市の「茨木自然歩道」のパンフレットには、次のようにあった(本誌57号)。「阿武山の南西に「休場」という所がある。ここから隠密に手旗信号で大阪方面の情報を全て頭の中に入れていたようである。」

赤松滋(調査・執筆)「京都西山」(山と高原地図、明文社、1985、2002年版)の小冊子には、武士自然歩道について次のような記述がある。

「阿武山は、休場とも旗振り場とも呼ぶ。京へ向って南都浪速の事情を旗振りで知らせていたと言う。そう言えば天王山にも同様のものがある。一直線では天王山は見えない阿武山の位置である。さらに

中継箇所が他にもあったのだろう。」

HP「きのこの神様の低山おろおろ」には、「阿武山(旗振山)」(2001・8・11)の山行記事に次のようにある。

「最高峰『阿武山』三等三角点281mをなでる。付近はブッシュに被われて展望はよくない。この山は別名・旗振山といい、明治・大正にかけて大阪の相場を京都に手旗で知らせたという由来がある。」

吉田尚「イラストで歩く関西の山行こう」(南々社、2002年)には次のような「こぼれ話」が載っている。

「阿武山異名 阿武山は別名『美人山』ともいい、かつては山中にツツジばかりが生えていたそうです。また、大阪の相場状況を手旗信号で京都に伝えるための旗振り小屋があったことから、『旗振山』とも呼ばれていたといわれます。現在のように高層ビルに視界が遮られる以前のことです。」

HP「キャンピングカーをつかい山岳信仰の山2000に挑戦」の中の「大阪府の山紀行」で、阿武山(2003・1・16)の山行には、次のようにある(本誌82号で紹介)。

「相場の旗振り場」であつたらしい。

つまり、阿武山の旗振り場は、「やすんば」にあつたことは間違いないが、その肝心の場所については曖昧で、「⑤貴人の墓の西側、⑥山頂の南西、⑦山頂の三角点」の三説が存在することになる。「やすんば」は、いったい、どこを指しているのだろうか。

また、どうして美人山というのかについて、木村氏のいう「美しい山容」ではどうも説得力がないように思われた。あるいは、「美人山」の間違いではないのだろうかという素朴な疑問も感じた。

阿武山の山頂三角点の西側にあるという案内板については、その内容から一部引用してアレンジしたらしい記述がHP等に見られることは、先に示したとおりである。しかし、その全文を示したものはどういふわけか、どこにも見当たらないのであつた。

筆者は、平成17年5月、阿武山の相場中継所がどこなのかを確認するために、「やすんば」について茨木市に問い合わせた。

茨木市総務部、広報広聴課、茨木市史

「山の解説板があり、この山は旗振り山とも呼ばれていた。昔は入会地で採草地であつたから、樹木はツツジくらいしか生えておらず、大阪から見えた。「やすんば」というところに藁葺き屋根の小屋があり、男が一定の時刻になると旗を振っていたから、旗振り山と呼ばれた。大阪で開かれる市場を京都に知らせていたという。」

岡弘俊己「関西 里山・低山歩き」(実業之日本社、2003年)には次のとおり。

「かつては米相場を伝える旗振山と呼ばれたが、いまは樹木が茂り、あまり眺望はない。」

筆者が、平成17年5月の時点で、阿武山の旗振り場について得ていた知識は、以上のとおりであり、次のように整理できる。

- ①美人山ともいう。
- ②旗振り山(旗振山)ともいう。
- ③昔は入会地で採草地であつた。
- ④山頂は、今は雑木が生い茂ってほとんど展望がないが、昔はツツジなどの低木のみで見晴らしが良く、大阪の街から見た。

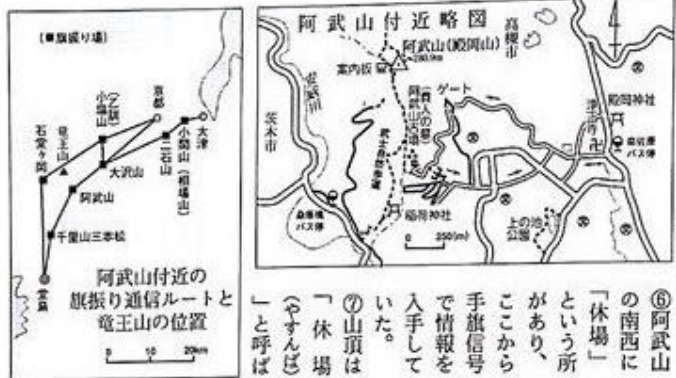
編さん室の田中裕三氏から、郷土史編集委員会編『安威郷土史』(郷土史委員会発行、平成10年、宇津木秀甫執筆・編集)に次のような記述(167頁8頁)があることを5月30日にメールで教えられ、その該当部分の写しは6月3日に届いた。

「相場通信は大阪から京都、神戸へ旗振りでおこなわれていた。大阪堂島で相場がたつと高いやぐらの上で旗をふる。それを千里丘陵で望遠鏡で見ても、また旗をふる。次には阿武山の頂上で中継して、次は島本町の大沢、そして乙訓、京都というように山頂の旗ふりの中継で送信されていた。現在、阿武山の頂上の殿岡山という地に石敷がのこされている。高槻市奈佐原領でそこは殿岡神社があつたと伝えられているが、石敷そのものは旗振り場のものであつた形跡が濃い。」

文中、堂島、千里山三本松、阿武山、大沢山(阿谷山、柳谷西山)、小塩山(乙訓郡大原野、京都、というルートが示されている。

茨木市史編さん室では石敷の現地確認はしていないとので詳細は不明であつた。

(平成17年7月17日成稿)



阿武山付近の旗振り場と阿武山の位置

連載

三角点を訪ねて ③⑧

# 唐子山から玄蕃尾城址へ

湖北

磯部 純

高島リーダーの新ハイ1月例会は「唐子山」。初めて聞く名前の山で、どこにあるのかわからなかった。地形図を広げ、案内のコースから位置を見ると、行市山の北にある2等三角点の山とわかった。この時期、福井県の山は雪に覆われているだろうが、初めての三角点に出会える期待で参加することにした。

2・3日前から冬型気圧配置が強まり、各地に降雪のニュースが流れている。前日、比良では大雪のために電線が切断されリフトが止まり、スキー場に1000人以上が閉じ込められたとか。さらに、国境スキー場では85cmの積雪とあり、こんな状態では、当然、敦賀への峠道にも雪

が残り、途中でチェーンを巻かなくてはならないと、早目に家を出た。

湖西道路へ入ると道の両側に雪が残っている。北へ進むにつれ、ライトに照らされた路面が光り気持ちは悪かったため、おそろおそろブレーキを踏んで路面状態を確認するが、凍っている様子もなくひと安心。161号線に入ると雪の量は多くはないが、予想に反して路面に全く雪は無い。国境の峠道でも通常通りの走行で、結局、2時間で集合場所へ着いてしまい、一番乗り。ファミリーマートで朝食を買って食べ、皆の到着を待つ。やがて、物集女の彼の車、守山の彼の車が到着。新ハイメンバーはいずれも知った顔ばかり。

登る尾根から唐子山山頂を望む



集合の8時30分前には、新ハイ会員13名と「つるが山楽会」会員4名の計17名が集まり、この日のルート説明があった。案内では唐子山往復となっていたが、雪が予想より少ないようなので、柳ヶ瀬山(中尾山)の玄蕃尾城址をも訪ねるとのこと。柳ヶ瀬山は登ったことがないので、思いがけない拾い物をした気分だ。この日急用が入り参加できなかった山科の大

兄が、柳ヶ瀬山まで歩いたと聞いたら口惜しがるに違いない。

8号線を東へ向かって、柳ヶ瀬トンネルに入る手前の林道を右手へ入り、送電線近くの道の広場へ駐車する。道には10cm程の雪が積もっていた。準備を整える。頭上に送電線のある「火の用心」の標識から巡視路に取り付く。急斜面に左斜めに切られた道を登り、廻り込むと浅い谷。その谷を5分も通って、左の尾根に刻まれた巡視路を登る。道には雪が10cm以上は積もっており、カモシカの足跡が点々と付いている。雪上にある胡麻を

撒いたような黒い点々は雪虫とか。言われて目を近づけると、黒い点々がうごめいている。ここから登り切った尾根で休憩する。ここで位置を確認するが、右手の谷が地形図で読み切れない。「ヒョットして送電線の位置が間違っているのでは……」とも思ったが、まさか……。それにしても納得のいかない地形だった。

谷を右下に見て杉の斜面を横切り、浅い谷を渡ると、送電線鉄塔のある斜面へ取り付く。登ってすぐ道は消え、前は杉林で、下には一面ササが生い茂っている斜面。後ろから「巡視路がここにあります

すよ！」と聞こえてきたが、先頭は近くに鉄塔を見ているので、構わずその斜面を登って行く。列の前にいた10人が引き返すのは面倒と、雪の積もったササやぶの杉林の斜面を直登して行く。ヒイヒイ言いながら鉄塔まで登り着いたら、巡視路を登った7人がすでにそこで待っていたのにはガツクリ。リーダーは参加者にやぶ山好きが多かったので、配慮してくれたのだろう。やぶを登った人の顔は生き生きとしているようにも見えたが、私1人だけは「ハアハア」言い放し。鉄塔広場から北の展望が開けていた。遠くに大黒山が横たわり、その左に稲村ヶ岳、西方ヶ岳も見えている。東の尾根の上には玄蕃尾城址が広場のように雪で白くなっていた。

ここから、つるが山楽会の人達が先頭に立ち、尾根に沿って巡視路を登る。右は低木の雑木林の斜面だが、左は枝打ちされた杉林。登るにつれ木々の間からあたる山々が姿を見せてくれる。背の大黒山はもちろんのこと、すぐ後に妙里山が。下には茶臼山や朝影山も全容を現してくる。雪は次第に多くなるが、まだワカンを着ける程でもない。ゆるい登りと

唐子山・玄蕃尾城址付近略図





妙里山を見る

中まで、道を切り開いている最中です」と、リーダーが言っていたが、南の尾根に道らしき空間がのびていた。このルートも一度は歩いてみたいので、道が行市山まで通じたら、例会に採り上げていただくようお願いしたら、律儀なリーダーは、早速7月に柳ヶ瀬山から行市山へ縦走する例会を組んでくれた。

左杉林右雑木の奥境尾根を妙里山の方向へ1時間もくだって行くと、下り切った鞍部が「刀根越」。別に「倉坂越」とも「久々坂峠」とも呼ばれている峠で、北国街道の柳ヶ瀬から越前の刀根へ越える峠である。峠の東にはコンクリート造りの小屋があり、峠の西へ30分もくだると、北の斜面の石造りの社の中に、赤い前だれをした地藏尊が一体祀られていた。今でも参る人がいるのか、供え物が置かれていた。

この峠から北の尾根をジグザグに登ると、登り切った右手の小さな広場に柳ヶ瀬山三角点がある。この広場も雪に覆われていたが、広場の中心の雪をかくと、小さな三角点が姿を現した。点名「中尾山」、4等三角点である。朽ちたトンボが木の上に残っていた。さらに道を奥へ進むと、玄蕃尾城址と呼ばれる城跡がある。この城は織田信長亡き後、主導権争いで豊臣秀吉と柴田勝家が争った賤ヶ岳の合戦の時、柴田勝家の本陣が置かれた場所である。城の名前は勝家の勇将佐久間玄蕃盛政に由来している。

杉林の側を抜けると、前方に疎林が見える。南虎口から入り、本丸跡へ行くと広い平坦地。すぐ近くに妙里山、楯坂、新谷山が見る人を圧倒するように迫ってきている。この時期は雪に覆われ、寒々



玄蕃尾城址へ

山頂は40分程度の雪で、三角点は覆われて見えない。「ここで早いが昼食にする」との声に、皆坐り込んで食事の準備を始めるが、三角点柄にかかっている2人だけはその気になれない。まずは心を静め、地形図を確認して、ここぞと思う場所の雪を掘る。掘り始めて間もなく、まずは杭を見つけ、その回りを順次掘ってゆくと、やがて標石にぶち当たった。唐子山三角点、点名「奥麻生村」、2等三角点が出てきた。標石を頭から5分程度出し、写真撮ってホッとひと息。これで心置きなく食事に取りつける。

山頂の木は疎らで、360度の大展望。北には大黒山、その左に稲村ヶ岳があり、すぐ前に妙里山が大きく迫っている。下の茶臼山の左には溝を挟んで蝶ヶ岳、西方ヶ岳が横たわり、原子力発電所の煙が烽火のように昇っている。西には野坂岳から乗鞍岳までの連なりに雪が斑にはらまかれ、その左前に東山が……。南方の送電線の行く手には三方ヶ岳があり、その奥に琵琶湖が光っている。天気予報では「雨か雪になるかも知れない」だったが、その気配を全く感じさせない上天気である。

三角点の回りの穴に足を入れ食事にとりかかる。目の前で炊いているラーメン鍋に、持って来たインスタントワタタンを入れさせてもらい、その何倍も量をつまむ。私は、「やはり寒いときには炊いて食べるのが最高!」と言っはいるが、荷物になるのでバーナーは持って来ず、いつも他人のつまみ食いばかりで、ちよつとばかり気がひける。この日はアルコールは持って来ておらず、守山の彼の焼酎、金粉酒をほんの一口だけ含んで身体を温めた。

12時30分、ワカンを装着して出発。向日市の彼女の孫は、子供用のパドミントンラケットを改造した手造りのワカンを着けている。到着した時は穏やかな空だったが、1時間30分も経つと天気が崩れ始めたのか、遠くの北の山をガスが覆い始めている。まずは鉄塔の東の鞍部まで戻り、杉林の尾根を東南へ進む。小さなピークを二つ越え、登り切った平坦地が方向を変える地点。あたりは杉の林で、いやにタラの木が目につく場所だった。

東へ小尾根をくだり、鞍部から登り返すと、行市山から北へのびる福井・滋賀の奥境尾根。「現在ここから行市山の途

とした光景だったが、春になれば、リョウブの多い林に緑が芽吹き、緑一色に変わるに違いない。

峠まで戻り、そこから西へくだると、すぐ林道へと降り立つ。そこには2、3台の駐車スペースがあるので、玄蕃尾城址だけを見るつもりなら、福井側から来たほうが歩かないですむ。林道を15分もくだると、車を置いた広場へ戻った。時刻はちょうど15時、ここで解散となった。

帰る前にもう一度、朝登った巡視路を地形図と照らし合わせて確認したが、やはり地形図と地形が合わない。ルート図は送電線の位置を信じて、送電線に沿って登ったことにするしかないようだ。

(平成16年1月17日歩く)

#### △コースタイム▽

柳ヶ瀬トンネル西林道送電線下(40分)  
第一鉄塔(1時間20分)唐子山△点名奥麻生村▽(30分)行市山への尾根分岐(1時間)刀根越(15分)柳ヶ瀬山△点名中尾山▽(10分)玄蕃尾城本丸跡(20分)刀根越(20分)林道送電線下  
△地形図▽2万5千Ⅱ中河内・木之本

## 特集

関西にある「大峰山」の

# 山上ヶ岳「女人禁制」を考える

さんじょう

だけ

にょじん

さんせい

村田 智 俊

はじめに

関西の岳人で大先輩の、故仲西政一郎氏は「近畿の山」(アルパインガイド、昭和51年版、山と溪谷社)の中で、「山上ヶ岳は大峰山脈全体からいえば、北端に位置する一峰だが、山頂には修験道の本山ともいへべき大峰山寺があるほか、いわゆる表と裏の行場があるところから、参道には女人結界を設け、今なお女性の登山を禁じている。国立公園として、全国にも例を見ない特異な存在というものの信仰か観光かの悩みはこしはらく続くものと思われる。」と述べている。

昭和51年(1976)当時から、「女

たい何なのかを考えてみたい。

また、開放に向けて登山する者として、私の個人的な願いを込めての提案も紹介してみたい。

たまたま、「大峰山」の山上ヶ岳「女人禁制」の特集記事を掲載しようとしていた矢先の、10月に「女人禁制」Q&A(源淳子編著、解放出版社、2200円)が出版されたのを知り、早速入手した。

「大峰山」の「女人禁制」について私が疑問に感じていたこと、知りたいと思っていたことに触れ、詳しくてわかりやすいので大変興味深く読め、「女人禁制」について多くのことを教えられた。

編著者の源淳子氏にご了解をいただいたので、この本に書かれている内容を参考に要約しつつ紹介し、私なりに論述してみたいと考える。

## 「女人禁制」の歴史と開放への動き

修験道は、開祖といわれる役行者(役ノ小角)が活躍した平安後期(八〜九世紀頃)に始まり、「大峰山」はその根本道場として今日まで1300年間の歴史を

人禁制」については「こしはらく続く」と(近い将来に開放されるだろうとも読み取れる)と記しているが、30年後のいまなお問題を抱えながら「女人禁制」は現在にいたっている。当時は「信仰か観光かの悩み」とあるが近年では、観光よりも「女性蔑視」の観点からの開放を望む声が強くなっている。

山上ヶ岳は、山岳独特の美しい自然と岩峰の山で、山頂からの展望の良さにおいて、当新ハイキング関西においても「近畿の名山100選」として推奨する山である。また、深田久弥は、「日本百名山」の中で山上ヶ岳のことを「大峰山の代表と見なしていいだろう。」と記し

刻んでいる。「山には、神霊・祖霊がすまう」という古来の山岳信仰からきているが、やがて山岳宗教として発展し、山岳に立て籠もって山伏修行することになる。これらの山岳は江戸時代には霊山と呼ばれ、民衆の間にも霊山登山が盛んに行われていたという。当然、登山できたのは当時も男性に限られていたが、これら霊山と呼ばれる山には、「大峰山」以外に日本全国に存在する。富士山を始め、私たちが登ったこともある、出羽三山(月山・羽黒山・湯殿山)・日光山・白山・立山・石鎚山……などが有名である。関西においては、高野山・比叡山などがある。

しかし今日山上ヶ岳を除いて、それら霊山のはほとんどは女性にも開放されて登られている。このことは、明治政府によって、明治5(1872)年、大政官布告第九八号「神社仏閣ノ地ニテ女人結界ノ場所ハ、自今廃止候、登山参詣等勝手ノ事」が布告され、この「神仏分離令」による「修験道廃止令」や、「廃仏毀釈」によって、同年には富士山・比叡山、また多くの霊山も次々に「女人禁制」の開放を余儀なくさせられたからである。

「大峰山」山上ヶ岳の「女人結界門」



ている。関西の、いや全国の登山者が一度は登ってみたいとあこがれる一級の山である。

しかし、昔から男性は登られても女性は「女人結界」によって一切の立ち入りが禁じられている。「女人結界」にはどのような意図があり、その歴史的な背景はなにか、いろいろな論議を経ていままなお「女人結界」を堅持する理由とはい

(高野山の開放はやや遅れて明治39(1906)年になる)

「大峰山」においても同明治5年には、翌年の5月の山開きから開放しようとの動きがあったようだが、洞川地区の反対決議で否決されている。

他の霊山と同様に、当時すんなり開放が決まっていれば、今日のような複雑な問題は起きなかったことと悔やまれる。

「大峰山」の女人開放の機運はその後幾度となく起こる。

昭和11(1936)年2月1日、「大峰山」一帯が「吉野熊野国立公園」に指定され、早速、2月24日には洞川区民大会が開催され、開放を決議している。しかし、大峰山寺の三本山の一つ京都聖護院や大峰講社や吉野地区からの反対によって、洞川地区も譲歩せざるをえず、そのまま「女人禁制」は守られてきた。

昭和33(1958)年には「稲村ヶ岳」が「女人禁制」地区から解かれ、昭和35(1960)年には、奈良県が観光開発推進の名目で開放に向けて、関係寺院・地元・講社と意見交換をしたが、結局実現しなかった。

最近では平成9（1997）年、大峯山寺三本山・護持院側が「2000年の大祭」（役行者千三百御遠忌年）を節目に、「女人禁制」を解くと宣言したものの、大峰講社・洞川地区によって時期尚早として結局見送られ、現在はそのまま継続審議となっている。

そして、平成16（2004）年7月、この「大峰山」を含む広大な地域が「紀伊山地の霊場と参詣道」として「世界文化遺産」に登録が決定することになる。世界文化遺産登録の推定決定のなかで、「女人禁制」について、各方面において議論が行われたと聞くが、この間も結局開放されることなく今日にいたっている。しかし、登録の決定によって、今再び「大峰山の女人禁制の開放を求める」運動が活発化していることは確かである。つい最近の平成17（2005）年10月9日には、奈良市において「大峰山女人禁制」の開放を求める会「シンポジウム」が開催され、同年11月3日には、同一性障害を持つ人たちのグループが、登山を決定しようとして、地元洞川住民と一悶着を起している。

85）年には世界の「女性差別撤廃条約」が日本でも批准され、同年「男女雇用機会均等法」が成立。平成11（1999）年には「男女共同参画社会基本法」が公布、施行された。

このような男女平等の現代社会にあつて、「女性禁制」の掟が「大峰山」で堂々とまかり通っていることに異を唱え、反対する声は高い。

### 「女人禁制」を解かない理由

「女人禁制」は、1300年にもわたる歴史ある修験道の「戒律」であり「伝統」であるから、一般社会の（行政でいう）男女平等の観点とはまるで次元が異なると言ふ。一方、地元洞川地区は、修験道の基地として長い間機能し、栄え続けて今日にいたっている。「女人禁制」を開放して登山や観光を優先すれば修験道の根本道場としての山上ヶ岳の聖地観が薄れ、山上ヶ岳はただの山になり、修験者が来なくなると言ふ。いわば開放は地元住民の死活問題でもあるのだ。

先に述べた通り実際、大峯山寺の三本山の寺院は、平成9（1997）年に開

### 「女人禁制」はどうしてつくられたか

役行者が修行を始めた当初（七、八世紀頃）までは、必ずしも女性の入山を排除していなかった。「女人結界」を設けたのは平安時代の九世紀初頭、密教の天台宗（最澄・比叡山）・真言宗（空海・高野山）・修験道などの山岳宗教が定着してからである。

山岳修行は、山岳に立て籠もって、ひたすら自然に宿る神仏を祈り、おのれの身心を浄めるための厳しい修行である。山中で修行するということはまるで世俗とかけ離れたものである。このように世俗と完全に隔離された修行は女性を必要としない。むしろ、女性が共にいては修行に専念できない。欲望に迷ってしまうから。やがて仏教の教義・修法がつくられ、五戒律（①不殺生戒（生きものを殺してはならない）②不偷盜戒（盗んではならない）③不飲酒戒（酒を飲んではならない）④不邪淫戒（性交渉をもってはならない）⑤不妄語戒（へうそをついてはならない））の、④によって女性の立ち入りを禁じたことから始まる。また、その後は、

放を宣言したものの、このような理由によって今でも「女人結界門」は立ったままで、その横には「登山者へのお願ひ」の看板までが、大峯山寺の名で平成16（2004）年5月に設置されている。

修験者達によって長い間恩恵を受けてきた地元は、正面きって反対できないのが実情であろう。女性が入山しようものなら、真っ先に駆けつけて苦言を呈するのは、大峯山寺の警護・監視を任されている地元洞川の区長であるという。

国（国立公園内である）や奈良県（参道は公道である）は、反対者からの禁制を解くようにとの申し入れには、宗教的な問題になるべくなら介入したくないと避けていて、あくまでも関係の諸機関で話し合せて決めて欲しいと言ふ。

### 私の提案

日本のよき「伝統」文化は、いつまでも守られなければならないが、この修験道の「伝統」はよいとは思わない。なぜなら、はたして女性を入山させたからといって修験道の聖地が穢されていくものだろうか。根本道場の山としての価値観

「女性は血で穢れている」（血穢・産穢）との不浄観、及び触穢（穢れに染まること）によって清浄な聖地が穢れると、男性修行者の視点によって「女人禁制」が確立されてきたものと考えられる。

特に近世においては、女性が不浄の身であるとする不浄観は、封建制身分制度下での男尊女卑思想や家父長制的「家」制度が定着すると、社会通念化し、女性の、神社禁忌・登拝禁止・祭礼排除などが公然となっていたのである。

今日においてもこれは、「伝統」「慣習」だからと、女性を排除する行事・場所・しきたり等に部分的に残っているが、多くのことは徐々に正常な（女性をよめる）姿に戻っている。

この山上ヶ岳の「女人禁制」だけは、いまだに当時を象徴する顕著で特異な例として捉えることができよう。

### 今日の女性問題

第二次大戦後、日本は新しく生まれ変わり、「個人の尊重と両性の本質平等」を定めた新憲法制度の下、すぐに「女性参政権」が実現し、近年、昭和60（19

が損なわれるであろうか。

一方、今では女性の修験者・信徒も多くと聞く。また、一般の男性登山者が勝手に入山しているからといって修験道の聖地としての山が損なわれたという話は聞いたことが無い。

ただし何事においても、議論の異なる見解の相違を主張しあっても一氣に解決できるとは考えられない。こうしていつまでも開放しないまま今日にいたっていることが証明している。

私の提案は、一つの解決策として、5月～9月の大峯山寺戸開け中は、修験の参拝期間と定め、男女のいずれを問わず、修験者以外の登山者を含めて一般の入山を禁止する。まさにこの期間の山は修験者・信徒だけの世界にする。そして、戸閉め中の10月～4月は、登山者を含め入山を希望する者には男女等しく開放する。これによって「女人結界門」は取り外し、代わりに戸開け期間中に限って「修験者以外の入山お断り」の門を立ててはどうだろうか。

こうすることによって、我々登山者は、秋から冬・春と山上ヶ岳に男女のグループでも登られるし、女性もいままで見

ことのない山上ヶ岳のすばらしい自然に接することができよう。また、「世界文化遺産」の奥駈け道を女性も完全に踏破できるし、「日本百名山」を目指す女性も完登できることになる。そして自由に山上ヶ岳への雪中登山も楽しめることになる。

戸開け中は信徒たちで賑うが、戸閉め中はわりと静かな洞川地区に、関西はもとより全国から登山グループが集まって来るだろう。また「日本百名山」ツアーの活気で洞川住民も大いに潤うこと請合である。

一定の期間をこのような漸次的な形で実施してみて、様子を見ながら次の解決策を模索していく。このような施策をしばらく続けていけば、やがて円満な全面開放へ向けての理解が深まるのではなからうか。

## 結び

私たち登山者の世界では、性別によって差別することはしないし、してはならないと考えている。山岳宗教や修験道の成立は、古来より、男女別なく人が等し

できません。

「伝統だから」というのも理由になりません。伝統とは、過去の何時かに誰かが作ったもので、それ以前には無かったものです。都合な伝統なら、元の状態に戻せるはずで、迷信に基づいた伝統は他にも多くあります。

ところで、主宰が「女性からのご意見を特に歓迎」と書かれた意図も不明です。「女人禁制反対」に賛同を得るためでしょうか。

現状では、「登れる男」と「登れない女」のように、意見を述べる立場が既に違うので、制限している男性側の意見をこそ求めるべきでしょう。もっと言えば、この議論は、まず寺や地元の人（地権者）の考えを掲載してから始めるのが筋かと思えます。私が登った時、入山禁止の事実説明はあっても、禁止理由は明示されていなかったからです。仏教に限らず、他宗教にも性差別といえる禁忌はあります。しかし、元来我が国は、男尊女卑の国ではなく、祭神が女性格の社多く、参拝を性差で分けるようなことは、していません。

私は、役小角が、その点で狭量な人だっ

く自然のすばらしさを求めて山に登ったことが原点にあることを忘れてはならない。それがいつの間にか、「山には神がすむ」と信じられ、神聖な山が修行するのに格好の場所であることから、宗教学や修験者が修行の障害になるからと言って女性の入山を嫌う。いわば人間が勝手に「女人禁制」という修法をつくって今日にいたっているのである。

私たちは、登山を通じてあるときは山の神秘さ神聖さを体験してきた。ただし、それらはすべて自然現象のなせる不思議さを体験したのであろう。自然は、人間の能力では理解し難いほどに大きくて深い不可思議な世界である。人間のなせる境界の小さなを思い、自然にしたがって共に生きていかねばならない。この意味では、修験道の「伝統」を高く評価する。だからと言って山を一部修験道の人たちが自由勝手にしてよいことにはならない。山は、何びとが、いやいかなる動物が立ち入ろうと、いかなる植物が根を張ろうと、いかなる鳥が上空を飛ばうとも決して拒むことは無い。

山上ヶ岳も、地球の地殻変動によって自然のままそこにただ聳え立っているだ

たとは思いません。今なら、修行のために登る人、それ以外の人、万人を受け入れられるのではないのでしょうか。修験道の本質は、そんな所（性差別）にあるのではないはずで。

もし、真に神仏がおわすと考えのなら、女人を遠ざければ修行ができぬなどという浅慮など、突っついておいでになるでしょう。

「性」を理由に入山を禁じるのなら、三輪山のように「飲食」を禁じたり、「飲酒や喫煙」を禁じたりしたほうが、理に叶っています。

戸籍上「男」ならよいのか、性同一性障害のある人は、どう扱われるのか、両性具有の人は、どうなのか。「女人禁制」は、今や、全くナンセンスです。なぜ今に至っても頑なに続けられているのかを、当事者の方々に、まずお訊きたいものです。（松阪市 藪木伸人）

## 禁優す女人の吾に贈高音

数年前、この禁を破ったひとりである。私が高から得ていた情報は、積雷期入山の山友の話等のほか、扉閉め後寂かに入

けである。そして自然のままにこれからも聳え続けていくただの山なのである。そこに人間が、この山は聖地だから女性が入るなとか、あれやこれやと介入する余地は全く無いと考える。

修験道の歴史1300年の「伝統」だからと騒いでみても、山上ヶ岳が聳え立ってからの地球の膨大に長い年月を考えれば、ほんの瞬間に過ぎない。また、人類が地球上に誕生してからの長い年月を経て、今に生かされているのは、男女の和合があったからこそである。今後も永遠に人類の存在を願うのであれば男女の性は、いつまでもお互いに尊重し合わなければならぬと考える。

## 読者からの寄稿

山上ヶ岳にたった一度でも登った者として、議論百出を承知のうえ、独断的私見を述べます。

まず、なぜ女人禁制なのかわりませぬ。「女人を穢れている」とするならば、明らかな「性差別」です。読者が男であれば、「男は穢れているから登るな」と言われて、承服できるでしょうか。私は、

山すればお咎めは免れるのでは、程度のものであった。

雨具を紺色のものにするなど装備はなるべく目立たないよう整えた。行者還トンネル西口を入山口とし山中一泊、柏木側阿弥陀ヶ森から入り洞川清浄大橋下山と企て決行。

紺色の秋天下、来し方を振り仰ぎ行方的高峰を愛でつ奥駈道。幾重にも波打つように谷へと流れる山肌は紅葉の盛り。大普賢岳を過ぎたあたりからの山中は誰も踏まないきれいな落葉のなか、鳥獣たちのみの世界を想わせる寂けさ。やがて結界門の建つ阿弥陀ヶ森。

## 結界を侵す奥駈落葉徑

錠に背くという緊張感のなかこの門をくぐる。南面は針葉樹、北面は落葉樹のなかの禁制ルートはなだらかで快適ではあるが、気持ちは何とも複雑。このルート唯一の水場となる流れを聴くと小笹の宿。岩肌添いに碑、行者像が祀られ側に避難小屋が建つ。

山上に建物を仰ぎ見る頃、1人の登山者に会いテント場を尋ねられた。小笹の宿のことを手短かに伝える。詳しく伝えたいが何しろ禁制の身。間もなく本堂前





山上ヶ岳「女人結界」図

を経て山頂展望地へ。地図を拡げ一度きりの山望に酔う。

踏みて来し嶺々際立たず秋夕日  
まっ紅な夕日が嶺々を引き立て別世界の  
ような佳景が展開する。しかし秋の日  
はつるべ落とし、山中にて日没となるが、  
ヘッドランプに勝る月明りに助けられ下  
山、門外へ。結局、入山者の少ない柏木  
側より午後の入門だったこともあり、禁  
制区域で会ったのは吉野より入山の男性  
1人であった。(匿名希望)

大峰山は古くから修験道の道場として  
信仰登山が行われ、女人禁制の最後の山  
として知られている。女人禁制の思想的  
背景としては、A法華経V提婆達多品  
(だいばだつたばん)からの仏教説とは別  
に、古来日本固有の神祭行事でも女人禁  
制の風習がある。

戦後、「アメリカ化」と「男女平等化」  
の波に押されて、大峰山が「男性本位の  
山」として有名になり、特に最近の「山  
歩きブーム」に便乗した安っぽい女人禁  
制反対の声に直面している。最近流行の  
「男女共同参画」が歴史と伝統を誇る大

峰山にそのまま適用できるとは思えない。  
日本文化を否定し、伝統を否定した後  
に、何が残るのか。最早、大峰山は信仰  
の山でもなく、単なる山歩きブームの波  
に呑まれた「奈良県の山」の一つでしか  
なくなるのは必定である。

世界遺産登録II女人禁制解禁という短  
絡した考えや、文化・伝統を否定するが  
如き軽佻浮薄な考えには断固反対せざる  
を得ない。ちょっと考えてみるがよい。  
世界遺産登録が貴重な文化財を保存する  
ということなら、「世界遺産に登録され  
たので、近いうちに女人禁制もとかれる  
でしょう」という問題提起自体論理矛盾  
ではないのか。

日本文化・伝統のシンボルとしての大  
峰山を女人禁制最後の牙城として守りた  
いと考える。(匿名子)

大峰山の女人禁制については、世界遺  
産になるまでは仕方ないと思っていまし  
たが、なったからには開放するべきだと思  
います。世界の人は女人禁制があるの  
を知らないのではないのでしょうか？  
関西百名山と近畿百名山を目指してい

る私にとっては迷惑な話です。でも私は  
信仰心もあり、西国三十三ヶ所参り・四  
国八十八ヶ所参りと神仏を尊んでいます  
が、山上ヶ岳は登りたいと思っています。  
仏を敬すのではなくただ山に登りたいか  
らです。

高野山など女人禁制だった山が次々と  
開放されているのですから大峰山も開放  
すべきです。地元のタクシーの運転手さ  
んも開放したほうがいいと言う人もいま  
した。また関西と近畿も山上ヶ岳を百名  
山に選んだ編集も問題だと思いません。女  
性は山に登らないと思いい編集したのでは  
ないでしょうか？(匿名希望)

山では「女人禁制」はもう古いのでは  
ないと思います。日本百名山完登の女性は多  
くいますが、大峰山は行ってないのでは  
すか？。黙って登っていたのでしょうか？  
わたしの聞いた百名山完登の女性から  
は隣の山で代用していると聞きました。が、  
やはり行かれないのは辛いところでは  
しょう。

「女人禁制」が解除されることを望み  
ます。(山田明男)

しもこうや  
下高野街道(上)

してんのうじ  
四天王寺から布忍へ

松永恵一

下高野街道

人々を救済するべく信仰の道に生き、「お大師さま」と慕われる弘法大師空海は、平安初期の弘仁二年(811)、紀州の高野山に金剛峰寺を建て、同地で入定された。10世紀後期から11世紀初頭頃にかけて、生身の大師が入定しておられるという話が世に信じられるようになり、お大師さまを尊崇する人々は、高野詣でをするようになった。

戦国期の日本に布教のため滞在し、信長の信望を得ていた宣教師ルイス・フロイスが本国に送った報告書には、「紀の国(Guano-gu)と称する他の国があり、ことごとく悪魔を崇拝する宗教に献ぜられていた。この国に45の宗派があり、各々

一大共和国の如きもので、宗旨の古い為同国は常に不可侵で、戦争によって亡くすこと能ず、多数の巡礼が絶えず同地に赴いている。此の宗派又は共和国の一は高野(Gohe)と称し、坊主約4、5千人が同所に居住している。同所には女子も家畜も一切入れず、諸宗派中最も嫌悪すべきものである。」と記されている。

京から高野山に詣でるルートは何本かあった。淀川を下り天王山麓の大山崎や大阪の天満橋、あるいは堺から露山を指した。東高野街道、西高野街道、下高野街道、中高野街道。京都九条の教王護国寺(東寺)から大阪府の東側、生駒山地西麓を南下し河内長野から紀見峠を経て高野山に至る東高野街道。旧国道1



70号線として残る。

堺方面からは国道310号線に発達している西高野街道が河内長野に走る。この東・西高野街道に挟まれるかのように平野を起点とする中高野街道、四天王寺を起点とする下高野街道が走る。下高野街道は府道大阪狭山線として名残をとどめている。下高野街道と中高野街道は、大阪狭山市で合流する。四つの道は河内長野で一つになり高野山に向かう。

法楽寺

法楽寺は治承二年(1178)、平清盛の嫡子重盛の創建と伝え、紫金山小松院と号す。翌三年、熊野参詣の途中に立ち寄り落慶法要を営まれ、宋から伝来した佛舍利と平治の乱に滅んだ源義朝の念持佛如意輪観世音菩薩を安置し、平家・源氏の菩提をあつく与われたと伝える。

元亀二年(1571)織田信長の兵火により灰燼に帰した。「絹本着色不動明王二童子像」(重要文化財)・「蔵王権現立像(大阪府有形文化財)・樹齡約七百五十年の楠の大木(大阪府天然記念物)は焼失をまぬがれた。江戸時代中期の復興に際して大和大学院松山藩の殿舎を譲り受けた。松山藩は織田信長の子孫、因果の不思議を感じる。山門・本堂が残る。

山岡鉄舟をして「日本の小釋迦」と言わしめた正法律の開祖慈雲尊者欣光は、享保十五年(1730)法楽寺に入り得度出家した。

法楽寺はいつの頃から「たなべのお不動さん」と親しまれるようになった。毎月28日のご縁日は参詣者で賑わう。みほとけの御法楽しむこの寺にあしやらのうたの誓いのたのまん

絹本着色不動明王二童子像

昭和53年10月2日月曜日、読売新聞朝刊は日本佛教美術史に於ける一大ニュースを新聞史上朝刊初のカラー写真で報じた。法楽寺の倉から偶然発見された驚くべき名画「絹本着色不動明王二童子像」は、重要文化財に指定された。

縦1・19尺、横0・784尺の絹本の中央に黒青色の不動明王が描かれている。後背に炎を噴き上げたような燃えさかる紅蓮の炎を負う青く沈む不動明王の怒りの相、岩座に左足をさげて半跏坐の姿に表している。左右には袴纏羅と制陀迦の二童子像が侍立し、絵の下半分に岩石・波・波頭などを描いている。

大津市園城寺(三井寺)の黄不動尊像、高野山明王院の赤不動尊像、京都青蓮院の青不動尊像は、「天下の三不動」と呼ばれる。法楽寺の不動明王は、青蓮院の青不動尊像とよく似た表現があると指摘される。京都の醍醐寺に残るたぐさんの圖像の中に同一の形相の図がある。平安中期に活躍した飛鳥寺の玄朝が描いたものを写し取ったと墨書されている。玄朝作を伝える見事な法楽寺の不動明王は、平安時代末期の作と考えられている。

阿麻美許曾神社

大和川の左岸、近鉄南大阪線が大和川を渡った西側、天美丘にうっそうと茂る森が目に入る。阿麻美許曾神社のシンボル樹齡約五百余年の楠は大阪市の保存樹林に指定されている。

社伝によると、平安時代の大同年間創建された古社で延喜式内社。「阿麻美」は「記紀」に「依羅池」の名を残す朝鮮半島から渡来した依羅連に由来し、「許曾」は新羅の言葉で、「様」や祭祀や神社の森を意味するという。

御祭神は素戔嗚神命、右殿に天兒屋根命、左殿に事代主命を祀る。別名「七郷の宮」の由来ともなった七郷の氏子地は、宝永元年(1704)の大和川付け替えによって右岸と左岸に分断された。松原市天美地区、大阪市東住吉区矢田地区となったが、神社境内と参道は大阪市で松原市域に冒瀆のように入り込んでいて、地に描かれた歴史がある。

境内に「行基菩薩安住之地」と刻まれた石碑があり、大和川には「行基大橋」が架かる。民衆の絶大な信仰を集めた行基の伝説が残る。明治の廃仏毀釈までは真言宗の神宮寺があり、山門が残る。



阿麻美許曾神社

コース概観

平安時代、高野詣でや熊野詣でに出かける皇族や貴族は大阪・四天王寺に参詣した。京の下鳥羽から舟で淀川を下った一行は渡辺津(天満橋付近)に上陸し、上町台地の脊梁を南に向かって旅のスタートを切った。四天王寺から市街地をひたすら南へ南へ。残念ながら当時の道は一部失われ、たどることはできないが、意外な発見を求めながら訪ねてみた。

JR天王寺駅・近鉄阿部野橋駅下車。四天王寺に向かう。昔、熊野詣でや高野詣での人々は四天王寺をお参りしてからそれぞれの道を歩いた。西門から境内に入ると弘法大師像が立っている。熊野遙拝石は南大門近くにある。南大門を出るとわが国最初の庚申といわれる四天王寺庚申堂、清水地蔵を過ぎるとおはぐろ地蔵。往時の面影を都会の町並の中に探してみる。JRの線路を地下道と階橋で越える。横断歩道を渡り都ホテルと新宿ごちそうビルの間のエスカレーターを上る。左折して、駐車場の階段を庚申街道へと下る。近鉄地下コンコースからは東口(松崎口)から地上に出る。

四天王寺の橋を走る国道25号線には大道の名が残る。「日本書紀」は推古二十一年(612)「難波より京に至るまでに大道を置く」と記す。難波宮から松原市と堺市の境界あたりを通り竹之内街道に通じていた。環状線寺田町駅南出口前の道路は旧下高野、狭山街道また田辺街道とも呼ばれていた。奈良街道より分岐して田辺方面に通じている。

阿倍野区役所横の大阪市立工業高校の右の道に入る。工業高校の本館棟は大阪

の歴史的建造物。19世紀の芸術様式を表すアールヌーヴォーの巨匠ヴァン・デ・ベルデがドイツのワイマール工業学校をモデルとして設計し、大正十三年に竣工した。細く曲がりくねった道を歩いて桃が池公園に出る。頭上を阪神高速道路が走る。

JR阪和線の南田辺駅から、たなべのお不動さんと親しまれている法楽寺へ導かれる。真言宗泉涌寺派大本山。近畿三十六不動尊霊場第三番、大阪十三佛霊場会第一番、役行者霊蹟札所。山門をくぐると真新しい三重塔がそびえる。平成八年落慶。三手先の木組み、金色に輝く相輪が美しい。右側に二里(約800m)先からでも眺められたという巨大な楠が枝を張り巡らしている。法楽寺開基の頃より静かにそして激しく揺れ動く時代を見つめてきた。本尊は不動明王。右脇陣に、釈迦牟尼佛・如意輪観世音菩薩・地藏菩薩を、右脇陣に大聖歡喜天を奉安。「田辺大根ゆかりの地」の碑が建つ。「まぼろしの大根」と呼ばれたたにわの伝統野菜は、近年地元熱意により復活した。情緒ある町並を楽しみながら南へ歩いて行くと山阪神社、天穂日命を祀る。住

吉神社の神馬を飼育し日々住吉神社へ曳いていた。緑とスポーツのメッカ長居公園に出る。広大な敷地に大阪市立長居植物園、花と緑と自然の情報センター、市立自然史博物館、セレッソ大阪の本拠地長居スタジアムや球技場、長居プールなどの施設が集中している。浪速の冬の風物詩「大阪国際女子マラソン」は毎年1月の最終日曜日に行なわれる。白バイの女性警官に先導された色鮮やかなウェアのランナーたちは、長居公園通を東に向かい、湯里6丁目交差点から今里筋を北上し大阪城でUターンして戻ってくる。

地下鉄谷町線田辺駅前の「天然温泉田辺」、大和川の近くに「ふれ愛温泉矢田」、大阪市の運営する大型スパ&フィットネス施設「ラスバ大阪」がある。

長居公園通の矢田二北交差点の「あきんど」の横の道が下高野街道。大和川まで直進している。六地藏や延命地蔵に手を合わせながら街道歩きを楽しむ。右手にリニューアルした「ふれ愛温泉矢田」が見える。泉質はナトリウム・カルシウム塩化物泉。少し黄色味をおびた微褐色透明で、微かに温泉特有の匂いがする。

大和川に架かる下高野橋を渡る。下流に行基大橋が見える。行基は奈良時代の僧。民衆救済に生涯をささげ、菩薩と讃えられた日本最初の僧正。大仏を造る勅進をしたり、狭山池などの溜池や橋や道や寺院や餓死する人々を救うための布



施屋を造ったり、社会事業に尽力した。下高野橋の右下の細い道を入ると阿麻美許曾神社。大きな楠がうっそうと茂る。両手を広げて開んでみる。古代朝鮮との交流、行基菩薩、そして大和川付け替え、優しく教えてくれる。

阿麻美許曾神社の参道となっている道歩く。右に松原市、左に大阪市の住所表示を見る。天美小学校を左に見て、西除川に沿って布忍神社前を通り近鉄布忍駅に出る。西除川には遊歩道が設けられていて、布忍神社近くには神社に奉納されている布忍八景の説明がある。

▲コースタイム▼

JR天王寺駅(10分) 四天王寺(1時間)  
法楽寺(1時間30分) 阿麻美許曾神社(30分) 近鉄布忍駅

▲地形図▼2万5千11大阪東南部・古市

▲費用▼

近鉄布忍駅〜大阪阿部野橋駅 250円

(問い合わせ先)

法楽寺 06(6621)2103

阿麻美許曾神社 072(331)0123

〈山のレポート〉  
山の地名を歩く②  
**地名はなぜ片仮名で  
表記されるのか**  
西尾 寿一

日本の現在地名の多くは漢字で表記されている。このことはその土地が歴史的にすでに開墾され開かれた土地であることを意味する。つまり安定的に人の住む土地と化したという意味とほとんど同義である。

これに対して片仮名地名も僻地を中心にとたくさん見られることは、山歩きする我々はよく知っている。

それなら、漢字の地名と片仮名の地名はなぜ混在するのか、どのような理由で使い分けられているのか、その間に一定の法則といったものがあるのかを考えてみる。例外、その理由は思いがけない結果を引き出してくれるかも知れない。

日本語の複雑さは外国人は無論のこと、我々日本人にとっても難物である。一生かかっても全てをマスターすることはと

うてい不可能なのだ。その複雑さの源流は「無文字」社会にあったと考えられる。

その昔、文字で記録することなく「語り部」たちによって語り継がれたものが歴史だったようである。地名も口頭で伝えられる日常語で十分だった。語り部たちが分担して過去を伝え、未来は「予言者」が託宣していた。やがて中国から漢字が伝えられた。これは革命で、多くの「語り部」たちが失職するほどすごい変化が起きたはずである。現実に使っている言葉を漢字に表す作業が始まる。一字一音の「万葉仮名」が使われ、やがて、片仮名が生まれ、平仮名が女性によって使われるようになった。

しかし、無文字社会(古代文字は存在したと主張する説もある)から漢字を使って万葉仮名が生まれたのに、なぜそれで満足せずに次々と片仮名や平仮名が生まれていったのだろうか。そのあたりに日本語の複雑さを解く鍵があるように思われる。

小生の仮説を述べるとすれば、おそらく次のような理由があったと思われる。まず、この国の自然の変化の妙と同じ

く、一般に使われていた日本語(ヤマトコトバ)は、かなり複雑な物事の差異をも表現する精度をもっていたようだ。それを中国に習って一字一音の漢字で表現するには、意味が正確に伝えられない場合が少なからずあったとみる。つまり、漢字の意味と日本語の意味とが噛み合わない場合が生じたはずだ。

一例をあげれば「並」という漢字は元は「竝」で立の字を横にならべて二者が並立している形であるが、この漢字を「並」として受け入れる際には随分悩んだのではないかと推測する。二者並立と多数(平等?)では根本的に異なるからだ。

並の漢字の字義は「双」とも同様の意味をもつものであって、日本語の「ナミ」の意味とは一致しない。日本語のナミは、漢字ならば「波」が本来の意味なので、これを「並」にまで拡大した理由が謎である。

ナミは波のように意味からすれば「川面のシワ」状の起伏なので、漢字の二者並立よりも多数の群を表現している。川並・山並などと使用される場合、いつの間にか並に波の役割をさせてしまっている。

る。本来は山波・川波なのだが、なぜか現在では二者(二通り)は並行して使われている。

並を波・群と同様の意味に使うことは万葉集以来続いているが、この解釈は当然のこと、中国と日本とは異なるはずである。

以上はほんの一例にすぎないが、漢字を日本語に習合させる作業は難行を極めたはずだが、あえてこれを実行させたエネルギーは先進文化への畏敬の念と先端技術を獲得して富国の条件を満たすべきあくなき努力であったと言わなければならない。

国字(和製漢字)を作っても追いつかない場合には、別の方法を考えなくてはならなくなる。そこで文字の記号化へ突き進むことになる。漢字に対して和訓(ルビ)を付して日本語のなかに漢字を取り込む作業に移る。その記号が片仮名で、「カナをふる」という意味であった。

片仮名を漢字に付した文書がたくさん残っている。それだけではない。漢字に和訓を付すほかに、接続詞に片仮名を用いて音読しやすくする工夫がみられることだ。

片仮名を基調とする文章に慈円が比較

山にて保元の乱について述べた「愚管抄」があり、平仮名を基調とするものに「保元物語」や「平治物語」がある。当然のこと片・平の両仮名を同時に使ったものも現れている。仮名ははじめ漢字を補助する役割から次第に自立したよう。特に平仮名は女性専用というより毛筆に適応しており、しかも速記が可能だったので片仮名より普及した。

こうしてこの国には三種の文字とその組み合わせによる七種の表現法によって見事な文学作品や芸術作品が生まれた。さらに外国語を加えることで多様性は拍車がかかる。これを非論理的で文学に対する無節操と批判する人もいるが、むしろ言葉に対する貪欲なまでの好奇心と追求心の表れであり、日本語のもつ細やかな心象を正確に表そうとする努力として評価すべきだと思う。

古文書の多くは万葉仮名から次第に三種の文字の混交へと進む。戦国時代の武将の書面は、漢字・平仮名の混交が多いが、中には秀吉がねねに送った書状のように平仮名ばかりのものもある。身分の上下や貴賤の差なく文字が書けたのは、仮名の発明による功績にはかならない。

ところで片仮名と平仮名の役割はどうなっていたのだろうか。少なくとも江戸時代までは毛筆の特性から平仮名優勢だった。それが明治になって再び片仮名が復活する。これはなぜか、復活したのは、法律・軍隊・学校・外来語・音声などであるが、どうやら時代の変化が片仮名の再登場をうながしたのである。

先にあげたものは、いずれも時代の節目で大きく変化したものばかりである。その特徴は、大きく声に出して読み上げる形をとっている。書面を目で追いつけて理解する独学の形ではなく、多数の人の集まる場所で見聞きし、口頭で伝えるための教本なのである。

この形式は明治以前にもあった。いわゆる「宣命体」といわれる文書である。これは天皇などが出す命令を書き記した書で、使者が部下の者にこれを読み上げる。この形は祝詞なども同じで、個々に文書を渡さずに声に出して伝える形をとる。こうすると天から降る神の声に近くなり、効果は抜群となる。文書の配布では有り難味は薄れてしまうのである。また誓約書、訴陳状・告訴・証言控などもこれに当たる。罪人の取り調べに際



の物知り古老(すでに足すぎるが)を探し訪ねて、聴き取り作業を行ってきた。その膨大な資料の中には原形を失ったものや、のちの時代を反映したものが含まれている。それでもなかには光り輝く宝石のような地名にぶつかるときがある。そしていつものことながら意味不明の言葉にも出会うのだ。

それらの雑多な地名などは、まず慣例として片仮名で表現する習慣が我々にはある。その理由を知らぬまま老人の習いとして受け継いだものではあっても、やはり、それには十分すぎるほどの理由があったことを知る。

地名には当初から漢字表記される鳥帽子・地蔵・八幡・矢舌など意味のはっきりしているものは別にして、片仮名のものにはアイヌ語や外来語の変化したものが含まれるが、大部分の片仮名地名には意味を理解できないまでも土着の音声をそのまま片仮名表記したものがあつた。これらの地名こそは源意がそのまま保存され記録されているものとして大切に扱い、源意を読み解くことに努めなくてはならないのである。

地名の採集者こそは土地の発音を可能

〈山のレポート〉  
十二支の山  
成年の山  
生駒 登峰

今年のととは戌(犬)である。戌は十二支の十一番目で、時刻では現在の20時頃を、方位としては西北西を示す。

犬は古くから人類に飼われ馴らされた動物で、主人に忠実で家の番や狩りをさせるが、今はペットとしても可愛がられている身近な動物である。

「犬も歩けば棒にあたる」「思いがけない幸運や災難に遭う」「犬猿の中」(仲が悪い)「犬も食わない」(ばかばかしくて相手にしない)「犬の遠吠え」(影で虚勢を張る)などの諺のほか、「犬」(スバイ)「犬侍」(武士道をわきまえぬ侍)「犬食い」(うつむきだまって一心に食べる)「犬畜生」(のしりの言葉)「犬神」(人に害をなす霊)など、あまりよい意味の言葉には使われていない。しかし、牧畜には欠かせないし、アルプスのセントバーナード犬は人命救助に活躍し、主人に忠実な事から民話に

な限り正確に聴きとる努力はもちろん、片仮名で記録する際にも手抜きすれば後には修正のきかない事態に至ることを念頭に置くべきものと考えらる。

最後に漢字と片仮名・平仮名の用法に明確な方針を打ち出して、それを忠実に実行した例として『日本山嶽志』をあげておきたい。

日本山岳会の創立当時に出版され、すでに百年近くを経てなお資料としての価値を失わない本書には、全く敬服すべきものがあるが、出版に際しての基本方針が徹底して守られていることはさらに重要である。

本書の凡例のなかに次の部分が付されている。「山嶽及び郡村名称呼傍音傍訓法」とあって、この部分を要約すると、次のようになる。

編者(高頭氏他)が正確と判断した文献又は实地踏査により判明した地名には片仮名のルビを付し、多少不安が残る疑い場合は、平仮名のルビを付す。またよるべき根拠の薄き場合には「傍音傍訓ヲ避ケ、決シテ自己ノ憶測ヲ以テ之ヲ為サズ」と述べているのである。これによって本書の精度及び信頼度をより一層高め

もしばしば登場する。渋谷駅前の「忠犬ハチ公」は有名である。

わが家でも親の代から、雑種犬・三河犬・柴犬・ヨークシャテリアと、何年も犬を手放したことが無かったが、山に降りだしてからは不在がちで、最後の犬の死を機会に飼わなくなった。

犬の付く山名を標高順に記載してみる。

名称	標高(約)	県名	2万5千図
(1)犬ヶ岳	1593	新潟	小川温泉
(2)大倉山	1408	岩手	松川温泉
(3)犬涼山	1210	静岡	富士山
(4)犬ヶ岳	1131	福岡	下河内
(5)犬目丸	861	山梨	上野原
(6)犬頭山	853	岩手	小佐野
(7)犬伏山	791	広島	生田
(8)大仏山	767	福島	竹貫
(9)犬牛別山	746	北海道	幌加内
(10)犬岩山	639	福井	板取
(11)犬ヶ丸山	620	広島	稲草
(12)犬ヶ尾	618	岐阜	雲仙山
(13)犬鳴山	584	福岡	脇田
(14)犬頭山	554	岩手	世田米
(15)犬鳴山	527	山口	長門新市

たことは言をまたない。

信頼できる地名に片仮名、疑わしきは平仮名を使うことは当時の一般的慣例であったのか定かではないが、ここでも片仮名の使い方のルールのようなものが存在したことが読みとれよう。片仮名を上位に位置付ける風習があつたのかも知れないが、明らかに両者の使い方には特定の差が見い出される。このことは今後にもっと研究される必要があるだろう。

(図C)のなかに出ている山名にはいずれもルビが無い。同書の73頁の「称呼索引」の所には同じ漢字であるが読みが異なるものが多数散見される。例えば「雲仙山」又は「雲山」をとっていても「リウウとレイ」が混在している。明らかに、漢と呉との音異であつて、これを「リウウゼンザン」と呼称する場合には漢呉の混同利用が生じているが、これを誰も不思議としないのである。

この国では「同字異音」は当然のことなので称呼の差異は論議の対象とはなりにくいのである。ただ約束ごととして、どれを使用するかの問題だけなのであつて、正疑の対象ではないのである。

(16)犬ヶ丈山	522	和歌山	川原河
(17)大森山	444	岡山	総社東部
(18)大田布岳	417	鹿児島	伊仙
(19)大山岳	412	鹿児島	宮之元
(20)大山岳	342	佐賀	武雄
(21)犬ヶ森	295	岩手	南昌山
(22)犬御山	280	長崎	岐宿
(23)犬ヶ城山	253	宮崎	鶴戸
(24)犬蔵山	223	岡山	総社東部
(25)犬吠山	124	愛媛	三津浜

以上、見てみると、標高の低い山が多く、著名な山は無い。大阪の犬鳴山は天狗岳や灯明岳の総称で、特に犬鳴山という山は無い。

また、狗の文字を頭に持つ山は、  
(1)狗留孫山 616 山口 小串  
(2)狗留孫山 544 山口 堀  
が見られる。

十二支の登頂山名には  
◎犬伏山 791 広島 生田  
◎犬ヶ丈山 522 和歌山 川原河  
◎犬鳴山 584 福岡 脇田  
等の名が見られるが、特に有名な山は無いよう、私も一等三角点の犬山岳(佐賀県)くらいしか登っていない。  
総じて犬の山は、活気が感じられない。

### 静かな山歩きが楽しめる 行者山・城山(八木山)

一般コース(★)

長宗 清司

JR山陰本線亀岡駅の次並河駅で下車。昔は、田園地帯に点在する集落群と園道沿いだけ建物立ち並んでいたのだが、並河駅前付近はすっかり変貌した。

駅前を横切る道路を越えて南下すると、東西に一直線にのびる道路がある。右折してこの道を西の山麓に向かって、行者山を含む山並を正面に見て歩く。

京都縦貫道のガードをくぐって、北、南金岐を振り分けるT字路で左へ南下して、山裾に建つ臨済宗妙心寺派の「竜潭寺」の境内に入る。蓮池のある情緒豊かな寺域である。

寺伝によれば、石庭で有名な竜安寺の開祖雪江が、当地に大徳寺を創設した

かな小尾根を最後まで追った。

千代川と神前を結ぶ峠道(府道)に出て東にくだり、ほどよい距離に北側の谷に入る草深い古道(残土捨て場)を見つけて谷筋をつめる。やがて、右の支尾根に取り付き、町境の主尾根に出て、城山(八木山)山頂(344m)、八木城の本丸跡に着く。

八木城は、八木町南西部に位置し、京街道(山陰道)を眼下に望む口丹波随一の要害である。丹波国内では、八上城・黒井城と並んで三大城郭の規模を誇る。丹波守護代内藤氏の居城と伝えられ、十五、六世紀には丹波地方の中心として機能した。文献によれば最高所の本丸は四方を野づら積み石組で、本丸の南西端には「金の間」という一段と高い部分がある。



行者山・城山付近略図

の始まり、のち雪江の弟子特芳がここに住み、丹波守護細川氏の家老松井越前守宗信の外護で堂宇を再建し、「竜潭寺」と改名した。本尊は聖観音で秘仏。  
この寺の真山(太田山)の丘陵地に中世の太田城跡がある。郷土史「桑下漫録」には、家老松井越前守宗信が隠退して、代々館があると記されているので、おそらく松井氏が城主だろう。  
太田山へは、竜潭寺本堂左脇の渡り廊下をくぐり、石段が続く道から入る。ササの生い茂るなかに点在する岩塊上には石仏が列在する。  
やがて、竜潭寺の寺領域から離れ、ゆるやかな勾配の尾根に一筋踏み跡が続く。以前はマツタケ山だったのか? 松の倒木が目立つが手入れされた様子はない。  
286付近には城郭の名残か、崩れた石垣の跡が見られた。304、340、350と、小さなコブを忠実に踏み越えて、高みに向かって移動する。  
尾根道は時々風が通る疎林のなかで、下界の景色はほとんど見えない。小鳥の声もなく小動物の姿も見えない。静かな山歩きするには絶好のコースである。  
行者山2等三角点(431m)付近は、

張り出している。これはおそらく天守閣の祖形と考えられる。現在は、石垣の一部や尾根伝いに曲輪跡が残るのみだが、当時の雄大な様子を伝えてくれる。  
県境尾根は神前峠へ向かうが、途中標識に従い右へ下降する妙見宮に詣でる。久しく人が入らないのか境内はひどく荒れていた。ただ、裏の谷川でめずらしいものを見つけた。滝水の流れ落ちる一枚岩に一本の柱を立てこれを小柱二本で逆V形に固定し、橋は、材木に深い溝を掘って水を流す方式。おそらく竹材より長持ちさせる工夫からだろう。  
再び、トラバース気味に北行して、途中鞍部状の所にしっかりした袖道があり、西山墓地に出る。縦貫道をくぐり本郷の集落に向かう。手前に臨済宗妙心寺派の「竜興寺」があった。創建は、宝徳二年(1450)6月とあるが、寺伝には細川勝元が享徳元年(1452)建立、竜安寺二世義天玄紹を開山とするという。一説には、八木城主内藤氏が菩提寺として建立したともいわれる。

行者山山頂



小広く明るい所である。この山には水晶でも産出するのか、あちこちに点在する岩塊の表面にはカットした跡があった。踏み跡程度だった袖道が、この地点からは東と北へしっかりとした登山道があり、オリエンテーリングのコースでもある北への尾根道に入る。  
独結地観音への道とも左右に分かれ、途中から探標コースからも外れて、かす

鎌倉時代以前、大堰川は八木村の北半部をほぼ西から東に貫通していたらしい。現在の八木町の人家密集地域は、昔は河床かその近辺だったので、村の中心は、現在社寺、墓地が並ぶ西側の、このあたり山麓部地域だったようである。地理的なせいかわ八木駅近くに鉄道の踏切が無いので、小学校近くにまで大廻りして、いったん園道に出て、八木駅に向かった。  
(平成17年7月22日歩く)

#### △コースタイム▽

- JR並河駅(30分) 京都縦貫道下(10分)
- 竜潭寺(20分) 太田山(1時間30分) 行者山(10分) 独結地観音との分岐点(50分)
- 府道△北神前▽城山南谷(45分) 城山△八木山▽(40分) 妙見宮(20分) 西山墓地(10分) 竜興寺(10分) 本郷集落(30分) 園道(10分) 八木駅
- △地形図▽2万5千 亀岡
- (問い合わせ先)
- 亀岡市商工観光課

- ☎0771(25) 5034
- 八木町地域活性化推進事務局
- ☎0771(42) 2300
- ☎0771(42) 2466
- 竜興寺

2等三角点のある山

大徳山・牛ヶ峰山・大空山・瀬川山

山形 歳之

今回は20万分の1図「鳥取」の中で、但馬の山々を訪ねる。10山余りに登ったが、地形図に山名が無い山は除外して、いくつか記載してみる。

大徳山(555・8峰、2等 点名広谷) 初級コース(★)

中国山地の養父市にある大徳山は、私の手元には全く登山資料が無い。「点の記」は古いものだが、やぶを漕いで登るとある。どこかに道があるだろうと、道探しから始める。山の所有が中腹の満福寺となっていて、まずお寺を訪ねる。木の香も新しい山門が迎えてくれる。今どきこんな建物を建てたら大変な金額に

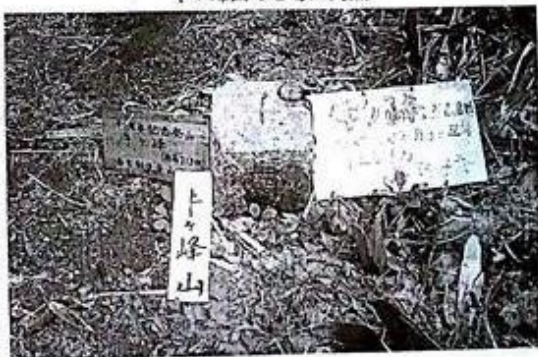
なるだろうといらぬ心配をする。ところがお寺の人は、寺領のはずの山に全く登ったことがないらしい。山を知るといっせいの老人にも電話してくれたが、その老人も登ったのは何十年前も前でよくわからない。隣村の左近山から登れるらしいというので、左近山を訪ねると、山火事の時に消火のために登ったが、道が悪くて難渋した。ここからでは大変、北側の米里からは登れると、「点の記」のルートを教えられた。

いつも「点の記」のルートを先に調べたのだが、大阪からお寺のほうが近かったので先に訪ねたが、かえって大廻りをしたことになった。

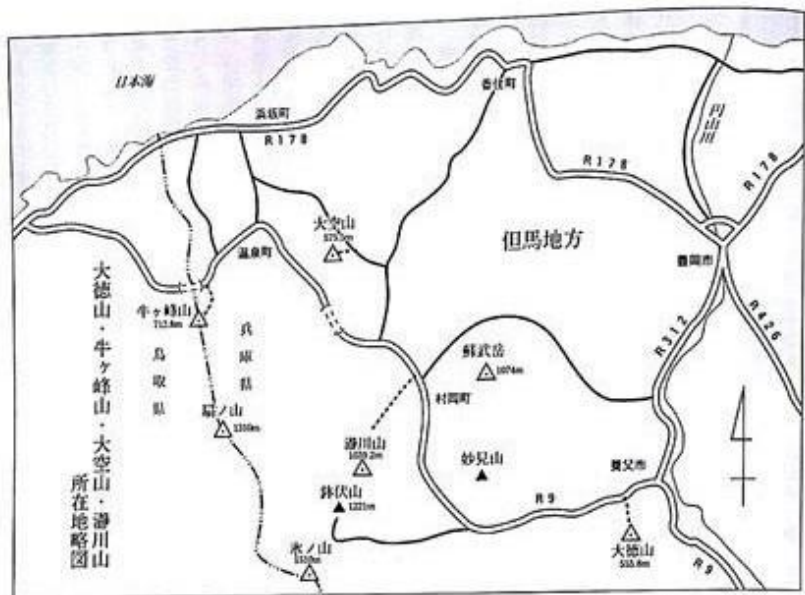
米里に行くと、「点の記」のやぶ漕ぎの道には林道がつくられ、山頂近くまで登れるとの話である。もっとも今は荒れているので車では無理とのことであった。道が確認できたなら登頂は半分成功である。

八鹿園の手前で右に分岐すると、少しで舗装が切れる。車を置き、少し荒れた林道をたどる。最初の分岐は左上に向かい、次の分岐は右にとる。地形図をよく確認し、分岐で間違わないように注意

牛ヶ峰山の2等三角点



する。路面が良いが各所で倒木が道を塞ぐ。根元が土に定着しているので青々と繁り、潜るのに苦労する。林道はジグザグを繰り返しながら緩やかに登り着く。南の寺側からの道は見当たらないが、山頂の登り口らしい所に黄色テープが見える。しかしその先はやぶになっている。林道はさらに山頂下へのびているので先に進むと、山頂あたりを通り過ぎて西側に廻



り込んで行った。荒れた林道が合流する。行き過ぎてはいけないと登りやすそうな植林を稜線に登ると、すぐに三角点に到着した。林道からわずか10分とは最短距離を登ったようである。

少し欠けた北向きの標石と小学校の登頂記念の石碑が立っていた。樹林に囲まれて展望はあまり無い。

下山時に地元の中高年の男女に会ったが、「こんな山に大阪から登りに来たのですか」と不思議がられた。

(平成17年5月4日歩)

▲コースタイム▼

登山口(2時間)大徳山

▲地形図▼

5万11出石

2万5千11八鹿

牛ヶ峰山

(712・8峰、2等 点名牛峰) 初級コース(★)

属ノ山の北方、温泉町の西端にある山で、山頂に牛ヶ峰神社がある。国道9号線の温泉町千谷から南下し、内山を経て越坂に到る。村落を通り過ぎて登りにかかる。登山口の道標が立っていた。特に駐車場は無く道路脇に駐車する。参道に入り鳥居を潜り、良い道を登って行く。山頂には古い石灯籠や荒れた小屋が建つが、社殿には名板も無く祭神も不明で、廃棄されているようである。

社殿裏から5分程で標石に到着する。雑木林で展望は無い。牛の付く山なので、十二支会や京都熊笹会の登頂板が立っていた。

山名は、山頂が牛の寝たような形をしているところから名付けられた。

(平成17年5月8日歩)

▲コースタイム▼

登山口(45分)牛ヶ峰山

▲地形図▼5万11浜坂 2万5千11湯

大空山(575・5峰、点名槍尾)

温泉町から浜坂町に到る県道から熊谷



に入り、大熊から南下して槍尾峠に登る。

舗装はされているが狭い道である。峠の手前に荒れた林道が分岐している。車で登れるかと少し思案したが、結局行ける所までと乗り入れてみた。しかし、荒れた路面は車の底を打ち、結局回転できそうな所に駐車する。林道の4分の1くらいはのりである。林道を登ると山頂下で廃棄された牧場に到着した。林道はこの牧場のためであった。しかしピークに登る道が見当たらない。仕方がないので無理やり斜面に取り付き、稜線のササを分け山頂を目指した。広葉樹の雑木林で、展望はあまり得られなかった。

牧場に戻ると、軽トラックが登って来ていて、農夫が薪を積んでいた。峠から村岡町に通ずる県道は、前年の台風以来不通のままであった。

(平成17年5月8日歩く)

#### △コースタイム▽

林道中間駐車地点(45分) 大空山  
△地形図▽5万Ⅱ香住 2万5千Ⅱ味取

#### 潜川山

(1039・2峰、2等 点名高尾)  
ハチ北高原スキー場の背後にそびえる

潜川山は、山頂下に林道が通じている。以前鉢伏山に登った時に、この林道から登ろうと思ったが、荒れていて車の通行は不可能だった。今回も美方町の観光課で尋ねたら、野間峠からは無理と言われた。「一点の記」も北側の兎野高原から入っている。

村岡町で潜川山と尋ねたら、潜川観音まで良い道がありますよと教えられた。何も考えずに林道を登って行くと、潜川観音で行き止まり状態になる。改めて地形図を見ると、谷を隔てて一山違った稜線に観音堂があった。地元では潜川山より潜川観音のほうが有名で、潜川と言えば潜川観音になってしまう。

潜川山は荒れた林道を予測していたが、良く整備された砂利道は、展望台もあり、ドライブウェイになっていた。登山口には道標もあり、10分程で山頂に登り着く。幾筋もの残雪を残す氷ノ山がひととき大きく、さすがに百名山の貫禄である。前にはアンテナやリフトに埋まった鉢伏山が広がる。目の下のハチ北高原は箱庭のようであった。ともかく展望はすばらしい。山名のルーツは、山から流れる川に淀んだ所(潜)があることからきている。

#### 特選コースガイド③

鈴鹿

一統・近江側から登る鈴鹿の山々③  
最終回  
神崎川に沿う

### 羽鳥峰から水晶岳

中級コース(★★★)  
環部 純

鈴鹿山系における滋賀・三重の県境尾根を歩く山行は、三重県側からだと比較的簡単にできるが、滋賀県側から登るとなるとアプローチが長く、特に八風峠と御在所岳の間などは、以前はよほどの健脚でないといえなかった。それが、八風谷林道や神崎川林道が奥にのびてからは、八風峠から釈迦ヶ岳の間や、中峠から釈迦ヶ岳・猫岳を踏んで白流谷分岐まで(新ハイ誌30号54頁)も、滋賀県側から比較的簡単に歩けるようになった。

今回は、さらにそこから南の県境尾根、三重県側から登れば簡単に歩くことが出来る白流谷分岐から水晶岳を踏んで根ノ平峠までを、近江側から登るルートとし

て紹介する。このルートは一般ルートではあるが、比較的距離が長くアップダウンがキツイので、日の長い時期を選んだほうがよい。

紅葉尾の奥、神崎川橋から神崎川林道を南へ入り、出発点となる瀬戸峠登り口に駐車する。舗装林道は広く、駐車スペースは十分にある。手摺まで付けられ、きれいに整備された階段の道をつたう。この道は紅葉尾から風越谷へ入り、瀬戸峠を越えて神崎川や朝明へ向かう釣り人や柏人に利用されていた古い道だが、今では舗装林道がここまでのびているので、瀬戸峠を越えてここへ来る人は余程のマニアックな登山者以外はいなくなった。階段をくだると静かな雑木林の斜面を切るように進み、尾根を一つ越えようと神崎川へとくだる。深く切れ込んだ道の両側にはアスナロが立ち並んでいる。道が谷へくだると、そこから谷に沿って上流へと向かう。雑木林の斜面を登り降りたり、崖を下降りしたりする歩きだ。あたりは林に遮られて見えない。ウソクラ谷・ジュルミチ谷を渡り、変わり映えのしない谷沿いの道を進むと、白流谷合に出る。橋が無いので水量が多い時には神崎

(平成17年5月5日歩く)

#### △コースタイム▽

登山口(10分) 潜川山  
△地形図▽

5万Ⅱ村岡 2万5千Ⅱ氷ノ山

\*山以外にも、猿尾滝(村岡町)雨滝(園分町)天滝(天屋町)の名滝や、岩井温泉・浜坂温泉・温泉町の湯を訪ねる。但馬は観光名所が多くあり、山と共に楽しめた。

潜川山の2等三角点にて



縦走路から羽鳥峰を見る



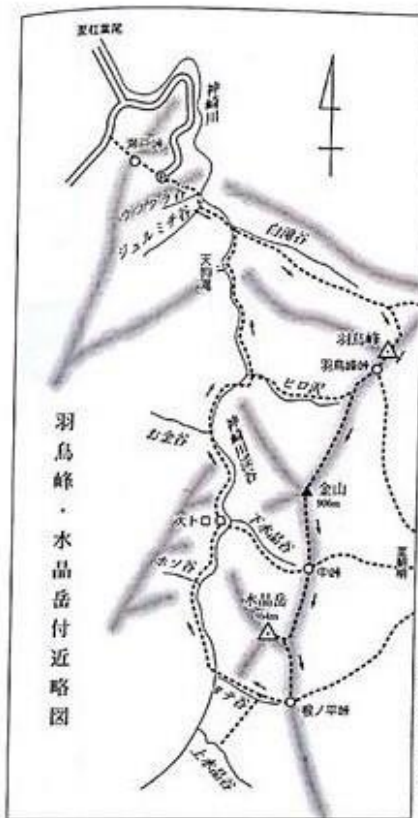
川を渡るのに苦労する所だが、石を伝って右岸へ渡ろう。ここから神崎川と離れて白流谷左岸の道を登り、県境尾根を目指す。

檜林のなかの道を登る。谷道といっても、道は谷のかなり上の斜面に付けられていて、谷の様子は全く見えない。急勾配の道を登り、途中で滑滝を見て、少し登ると飯場跡。そこを過ぎたら、すぐ谷

を左岸から右岸へ渡る。谷の上流を見る  
と、美しいナメが遠く上まで続いている。  
傾斜はゆるくなり、谷も広がりあたりに  
は二次林が広がる。15分も登ると、再び  
谷を渡り返して左岸へ。谷はさらに広く  
なるが、林に遮られて谷奥は見えない。  
もう一度谷を渡るとすぐ谷分岐。古い地  
形図の破線はここから左段に付いている  
が、道らしいものは無く、踏み跡に従っ  
て歩くと右の谷へと導かれる。谷は浅く  
なり、尾根も近づいてきているのに意外  
と水は豊富だ。次の谷分岐を右の谷に入  
り、潤沢を右に見て尾根を左へ捲くよう

に登ると、奥境尾根縦走路へ飛び出す。  
ここから縦走路を南へくだって行くと、  
すぐに羽鳥峰に着く。  
古い地図には羽鳥峰の南のピークを  
羽鳥峰と表示していたと聞かされたが、現在で  
は風化した花崗岩の岩塊を載せたピーク  
を羽鳥峰としている。このピークからは  
360度の展望で、登山者人気の場所  
である。標高908mのピークと猫岳  
眼下に広がる朝明の谷、遠くの園見岳か  
ら御在所岳の姿が間近に見えてすばらし  
い。

羽鳥峰へくだり、縦走路を南へ登る。



羽鳥峰・水晶岳付近略図

登り着いたピーク(昔の羽鳥峰)には東  
海高校ワングル部木村先生の追悼碑が岩  
に嵌められている。7年前、単独で釈迦  
ヶ岳から水晶岳へと歩いた時、私は知ら  
ずこの側で弁当を広げ、食べ終わって  
からこの碑に気がつき、気味悪くなって  
慌てて出発したことを思い出した。いっ  
たんだって急勾配の道を登ると金山。  
以前はやぶで入り込むことができなかった  
が、今ではササが刈られ道が出来てい  
る。山頂は5m四方位ササが刈られ、北  
方が見渡せるようになっていた。

金山からゆるくくだると中峠。鈴鹿に  
は中峠の名前がほかにもあるが、この中  
峠は羽鳥峰と根ノ平峠の間にあること  
から付いたとされており、昔は鉾山関  
係者が神崎川や御金明神の方へ向かうの  
に利用した峠だといわれている。先程の  
金山も鉾山に由来する名なのだろう。こ  
の峠からの登りは、金山の登りに比べれ  
ばゆるかったが、それでもキツイ。やっ  
と登り切った西へ向かうと、「水晶岳ま  
で5分」の標識を見る。ここから西へ入  
るとすぐ水晶岳山頂へ着く。

水晶岳三角点は永源寺ダム御在所雨量  
局の小屋の東に立っている。標石西側の

土が崩れ、今にも倒れてしまいそうにグ  
ラグラしている。標高954・1mで、  
点名は「千草越」。山頂からは南方の山々  
を見る。園見岳から御在所岳、イブネ・  
クラシの左奥には雨乞岳が、右奥にはダ  
イジョウがそびえている。

ここからは根ノ平峠へくだる。時間が  
無い時には中峠まで引き返し、下水晶谷  
をくだったほうがよい。ただその折には、  
下水晶谷出合の吊り橋を注意して渡らな  
くてはならない。

根ノ平峠に着いたら西へタケ谷をくだ  
る。途中で千草越の上水晶谷へ向かう道  
を分け、右の道をとる。タケ谷はゆるく  
て広い谷で、雑木のなかの小川のように  
な谷である。根ノ平峠から20〜30分で神  
崎川、タケ谷出合へ着く。

タケ谷出合から左岸へ渡り、谷沿いの  
道を下流に向かう。二次林のなかにはしっ  
かりとした道が付いている。左から来る  
クラシ谷、ワサビ峠へ向かうオソ谷と渡  
り、炭焼き釜跡をいくつも見てくたっ  
て行くと、やがて、中峠から降りてくる道  
の下水晶谷の出合で、その少し下が大ト  
ロだ。広場から大トロへの降り口には、  
何のためか、真新しい地藏尊が一体安置

されている。

同じような光景の二次林の道を北(下  
流)へ歩くとお金谷。以前は無かった御  
金明神への標識が下がっている。左から  
来る谷を二つ渡って、アップダウンを繰  
り返す高捲き道を進み、谷へ出るとヒロ  
谷出合。「ここまで戻ればもう安心」と  
思うのは初めての人だけで、これから白  
滝谷出合までの捲き道は距離は短いがキ  
ツイ。

谷を右岸に渡って、なぜこんなにも登  
るのかと思うほど、急な斜面を切って登っ  
て行き、やっくとくだると天狗滝。ゴウゴ  
ウと聞こえる音は、水が少なくても買椀  
十分。初めての人には見る価値のある流  
である。そこからさらに斜面をへつって、  
1〜2分もある岩を何度も越えてくだる  
と、やっと白滝谷出合へ戻った。ここか  
らは朝に通った道に戻るだけ。戻るときに  
水量が少なければ、途中から河原を歩い  
たほうが楽だが、谷を離れて瀬戸峠へ登  
る地点がわかりにくいので、アップダウ  
ンがあったも来た道を帰ったほうがよい  
だろう。(平成17年6月19日歩く)

▲コースタイム▼

瀬戸峠登り口(40分) 白滝谷出合(1時  
間30分) 羽鳥峰(35分) 金山(30分) 水  
晶岳(20分) 根ノ平峠(30分) タケ谷出  
合(30分) 大トロ(35分) ヒロ谷出合  
(1時間) 白滝谷出合(40分) 瀬戸峠登  
り口

△地形図▽2万5千御在所山

岩野明さんが紹介された「近江側から  
登る鈴鹿の山々」(本誌20〜40号)の続編  
として、岩野さんの例会で歩いたルート  
やその他私の歩いたルートを、本誌60号  
から27回にわたって紹介してきたが、今  
号で連載としての筆を置きます。

一部の山城で書き漏らしたルートはあ  
りますが、今後その都度紹介するつもり  
です。

これまで紹介したルートをいろいろと  
組み合わせて、鈴鹿の山歩きを楽しんで  
くださることを願ってやみません。長い  
間ご愛読ありがとうございます。

(磯部)

# あせらび

## 題字・小林玻璃三

8月27日、舟伏山へ行った。今年4月に三回行っただけで四回目。

昨年は8月23日に行ったが、昨年よりも花の咲き具合は遅れていた。しかし、オオキツネノカミノリが大群落で見られたし、フシグロセンノウ・シキンカラマツも群落で見られ、花と実合わせて80種余が確認できた。

9月3日御池岳、4日御池岳の隣の茶野へ久しぶりに行った。御池岳では開花植物と結実植物合わせ90種を確認したが、夏過ぎなので花と実は半々くらいであった。中には私が鈴鹿で初めて見る花が2種あった。ミツモトソウ(雲仙山にはあるそうです)と、ルリソウ。

## (海津市 山田明男)

花の伊吹山  
8月27日、山頂駐車場から西遊歩道を上り東遊歩道をくだった。

晒菜升麻は蕾も多かったが、大群落近くでは見応えがあった。瑠璃虎の尾が結構残っており、九蓋草・伊吹虎の尾さえわずかに見られた。尾花・我亦紅・撫子・竜胆には秋を感じ、逆に小鬼百合に下界の残暑を想起させられた。

印象的だったのは、所どころに群れ咲く丹群草。紅雀が吸蜜していた。  
初見の巴草は道から遠く残念。他に、大雛の白蓋・黒花引起しが初見で、これらは開近で見られた。

ドリリーネの伊吹鳥兜は少しずつ移動しているのか、遠くにくさん咲いている。蓼人參も顕在。最後は丸葉岳路を見て、周遊を終えた。

妻は、禅庭花(日光黄萱)の花が見たいそうなので、来年は7月初めに行くかと思っている。(松阪市 藪木伸人)

## ○新ハイ関西サービスチェーン

名神二岐登山 小倉山 1名で山頂(甲子・那須)への縦走(約1名でも縦走可能) (要予約) 高天原と内宿  
福島・二岐温泉  
日蓮連 大和館  
〒9662106621  
福島県福島市天栄村二岐温泉  
電話 0244814121021  
F 0244814121021

富士登山 京十五湖  
東海道自然歩道  
(石朝山・ハリモ・純林)  
三國山の麓  
ペンション コットンテール  
〒40110502  
山梨県南都留郡山中湖村平野  
電話 0555516518515

大宮市東区中津川を松尾根分岐点  
開通。ハイウェイあり  
山梨県山梨市下中津川140分  
バス20分登山口(車後徒歩)時時  
山小屋 福ちゃん荘  
〒4010022  
山梨県山梨市上坂原8882  
電話(自宅) 0535133146639  
(山小屋) 0301141792115

尾瀬 平ヶ岳探訪と釣りの山小屋  
尾瀬 山只目温泉(山内)  
露天風呂と手打そばの  
清四郎小屋  
〒94610000  
新潟県魚沼市湯沢(魚沼山)  
0901255810028  
期間外(11月14日)は  
025791215026

ハイカーの宿・池の平温泉  
ナガサキロッジ  
百名山を二つ登れる山小屋  
黒沢池ヒュッテ  
〒94912100 新潟県中  
頸城郡妙高高原町池の平温泉  
電話 0255186122261

休憩飲食入浴も歓迎  
10名以上マイカーバスで送迎  
箱根仙石原温泉  
福島 島 館  
〒25010631 神奈川県足  
柄町箱根町仙石原139  
電話 04601419041

尾瀬登山ハイキング入山口  
天然温泉で山の疲れを  
水芭蕉の湯  
ウ・マ・風花(KAZAHANA)  
〒37810411  
群馬県利根郡片品町片倉445  
電話 027815817051

四季織りなす乗鞍高原のハイク  
上宿院・乗鞍岳へ 冬はスキー  
けやき造りと味の宿・日蓮連  
温泉旅館 けやき山荘  
〒390115000  
長野県南安曇郡安曇村乗鞍高原  
電話 0266319312555

石川・富山・岐阜の三県境付  
近には三方の名の付く山が多い。  
口三方山、三方岩山、奥三方山、  
三方山、三方崩山と一気に登っ

9月下旬、東北の岩木山と八甲田山へ登った。晴天の日を選んだので、すばらしい山歩きが体験できた。  
1日目は岩木山、大阪からの夜行列車が大幅に遅れたため、横温泉から八合目へのシャトルバスは最終便しか利用できず、登頂は本峰に限定された。岩木山は最終便しか利用できず、30分しか滞在できなかった。岩木山神社奥宮に参詣し、八甲田山や七里長浜の遠望も楽しめた。それにしても風鳴ヒュッテからオミ坂の厳しい登り下りは予想外だった。

帰途、石坂洋次郎文学碑と青い山脈歌謡碑のある岩木山総合公園に寄り、夕陽を浴びて輝く津軽富士の秀麗な山容を眺められたのは大収穫だった。  
2日目は、八甲田ロープウェイ山頂から歩き出し、赤倉岳・井戸岳と縦走し、最高峰の大岳へは大岳避難小屋から往復、そして毛無岳温泉の木道を進んで酸ヶ湯温泉へ下山するコースをとった。

岩木山は累々たる岩石に覆われていて歩き難かったが、八甲田山の大岳頂上は砂礫の広がる

平坦な台地であり、自由に歩き廻って360度の展望を楽しんだ。  
上毛無岳温泉に出ると、これまで進んできた縦走コースをぐるりと眺め渡せし、大岳の全容が目に見えられた。急階段をくだると、下毛無岳温泉が広がっており、これまでの北八甲田連峰に対し、南八甲田連峰が間近に眺められた。また、温泉での木道歩きは、かつての尾瀬歩きを思い起こさせた。

思いがけない収穫は、終始岩木山を遠望できたこと。特に帰路においては、バスの車中から、真赤な落陽とその左に深い陰影を示す岩木山を眺めたことは忘れ難い。  
心残り、酸ヶ湯温泉のヒバ千人風呂に浸れなかったこと、明治陸軍の雪中行軍遺跡碑を訪ねることができなかったことである。(枚方市 東谷 宏)

前日の快晴をうけて、10月1日朝一番、単独で岩木山へ向かった。京都駅から清滝までバス、表参道をとる。最初から、聞きし

に勝る石段道である。「自分で登り、自分で下山する他、手段はなし」の立看板どおり、おのれの足で一步一步登山者に追いつき、手なれた登山者に追いつき、越されてゆくなか、早くも14丁の「お助け水」で小休止。結局、ガイドブックが示す所要時間の倍を要して愛宕神社に到着。参拝後、890・1丁の三角点を目指す。点標はそっけない金属プレート。一気にガクンと疲れが出た。

帰路は、2万5千の地図にもない小径をとり、くだりにくだったJR保津駅に到着する。  
翌々日の新聞。「男女6人がスズメバチに刺されて救急ヘリも出動」の記事を読む。そういえば、六・七合目の左手に、バチに注意なる警告板があった。事故は、多分、その付近。秋の低山歩きはしらずし下りきでなければと、我が胸をなぞり下りした。(伊賀市 高田優久)

石川・富山・岐阜の三県境付  
近には三方の名の付く山が多い。  
口三方山、三方岩山、奥三方山、  
三方山、三方崩山と一気に登っ

た。このようなことは酒の一気飲みと同じで身体によくない。口三方山は、河内千丈温泉から奥へびる林道途中に登山口があり、頂上まで4.3時間と書いてある。高度差930m。靴を履き替えていると、蜂が顔の前60cmでホバリングしてこちらを向いている。黄色に黒縞のどでかいやつで親指ほどもある。時々スッと前へ出てまたもとの位置に戻る。威嚇をしているのだ。黒い髪を熊と間違えて攻撃するという話を聞いていたので、シャツをめくり上げて顔から頭へ被る。しばらくすると羽音が遠のいた。見ると、近くの小屋の方へ飛び去る後ろ姿がでかい。まるで串ダングが飛んでいるようだ。

山おやじの話ではこの蜂はジンショウバチと言うそうで、ジンショウおじさんがこの蜂に刺されて死んだことからその名が付いたそうだと。手で払っていたらやられていただろうとも言われた。

急坂を10分程登ると稜線に出てそこから山頂までは稜線歩き。中ほどに見事なミズナラの林が

あり、そこを抜けたあたりに水場がある。水平に歩いて30分で冷たい水が得られる。そこから先はササユリ街道で山頂下に池がある。池の上の枝に多くの蛙の卵が泡状にぶら下がっている。水は真っ黒だ。

山頂展望は360度。大岡山・奈良岳・大笠山・笈ヶ岳の立ちはだかる様がよく見える。

(大里町 山形 明)

やぶ好きな方にお勧めの山をご紹介します。2万5千圓「鳥ヶ原」の片倉山、4等、点名地獄谷(629・661)はその名の通り地獄だった。

諏訪集落から南西に1.5kmの372に駐車し、西に破線の道を行く。下生え濃く道は死んでた。663から北にアツブグウンを繰り返す。

所どころにすすかな踏み跡があるくらいで、道標・山名プレート等一切無し。境界杭がせめてもの慰めだ。4等、点名地獄谷は標石も展望も無い。山頂から東に下山予定だったが深いやぶに危険を感じ、往路を戻ることにする。

予定外なのでテープを付けていなかった。663から復雑に派生す尾根をくぐり間違えてきた。さらに植林帯に林道が出てきてそのままだれるのかと思いついた。これが間違いのもとで現在位置を完全に見失い、濃いやぶに阻まれる。ようやく車道を目の前にしたが、ズブズブと足が沈む湿地帯が待ち構えていた。

登り返して尾根を探ったが結局くぐれず時間も遅くなる。再び湿地帯に戻り、巻いて深いやぶに突入し、ヘトヘトになったが無事、車道に出られた。

(向日市 湯浅康夫)

今病院のベッドで書いているといっても、皆さんがお読みになる頃には、ハイキングに出かけていると思うが。

昨年末頃から、昼間、特に午後3時頃に耐えられない眠気がくるようになり、かかりつけの医師から専門医受診をすすめられ、とうとう入院、手術ということになってしまった。

病名は、睡眠時無呼吸症候群、扁桃腺を摘出する手術も終わり、

さわやか信州 露天風呂 山吹の湯 湯田中温泉 (穂波) 日野屋旅館 〒381-0400 長野県下 高井郡山ノ内町湯田中温泉穂波 電 0269-3313578	標高2000m 雲上の温泉 湯の丸高峰自然休養林 ハイキングにXCSキー 高峰温泉 〒384-0000 長野県小諸市高峰高原 電 0267-2512000	ハイキングにノースキーにノ 志賀高原 石の湯ロッジ バス 熊の湯線並床下車 電 0269-3412421 東京本社・東京都新宿区新宿3 12015 (新光ビル) 関スポーツザビエス 電 03-3341-0211	塩の道 千田街道 百八十七体「観音原」 ホテル 白馬ブランシェ 〒399-9300 長野県北安曇郡白馬村いわたけ 電 0261-7214452
--	---	--	---

久々に落ち着いた入院生活を送っているところだ。

病室の窓からは、湖南アルプスの緑深い山々が望まれ、もう一度あの山々に登りたいなあ、と思っている今日このごろ。

多分、10月には職場にも戻れ、少しずつウォーキングやハイキングにも出かけてみようと思っている。

来年の夏山シーズンには、再び日本アルプスの峰々を目指して登りたいと思う。新ハイ山行に参加した際には、皆さん、どうかよろしく願います。

(安土町 杉本 高)

山行短歌

8月19日 南紀三ツ森山  
わが熱き胸の想いを雲に乗せ  
乙女の寝顔の峰につたえてよ  
8月27日 奥越三ノ峰  
雲湧きて雲は流れて夏つづく  
花の海ひろがる主稜線の果て  
9月2日 美作檜ヶ山 屋山  
天狗の森にひそやかに時は流れ  
概のように巨木朽ち果てる  
9月9日 若狭多田ヶ岳  
登美子の歌が小波となり光る  
海を見ているあこがれもあり

9月14日 丹後多瀬寺山  
森と海との境を驟雨通り過ぐ  
われらの前途見えないままに  
9月23日 伊勢堀船山  
恥ずかしすぎて峰の頂き隠れ  
会いに行き伊勢富士は霧の中  
9月29日 伊勢白猪山  
ワーズワスの草原の輝きのよう  
丘にむらさき色の小花群れ  
10月6日 北摂千丈寺山  
無彩色の林相展が沢めければ  
尾根には明るい木々そよぐ  
10月9日 鈴鹿電ヶ岳 静ヶ岳  
巨竜寝そべるササ原をまたぎ  
君帰りをたれと呪文唱えよう  
10月12日 北摂深山  
きみに希望ばくち整傷よびよせ  
風は牧場を抜け草原を走る  
(吹田市 木村太郎)

女関横の松の下に、琵琶湖畔から拾ってきた、丸や四角・平らな石を組み合わせ、手製の石灯籠を建てた。その記念に根元にヒトリシズカを植えた。所を得たのか年ごとに増え、今では群落をつくっている。

「吉野山みねの白雪ふみわけて、いりにし人のあとぞ恋しき。しずやしず賤のおだまき

くりかえし 昔を今になすよしもがな」鎌倉八幡宮でとらわれの身の静御前は、憎き頼朝の前で一途に想う義経への慕情を胸に滾と響かした。

ヒトリシズカはセンリョウ科センリョウ属の多年草。小柄だがすらりとした茎の上部に四枚の葉を付け、中央に白い花穂を立てた姿で、清純で美しく舞う静御前になぞらえて命名されたという。

芽生えの時は艶やかな緑の両手を高々と上げ、恥じらうように白い花穂を支えている様は可愛らしい。花弁も萼も無い、一本の花茎から粗いブラシのような白い雄しべが付いているだけで、目立ちたがらない奥床しさに惹かれる花だ。群れて咲いていてもなお、ヒトリシズカという名が似つかわしいのは個として独立した美しさがあるからだろ。

同じセンリョウ属のフクリンズカには二本以上の花茎があるが、姿も大きく艶めいたところがない。

庭ではそのほか、フクジュソウ・エヒネ・イカリソウ・シユ

予定外なのでテープを付けていなかった。663から復雑に派生す尾根をくぐり間違えてきた。さらに植林帯に林道が出てきてそのままだれるのかと思いついた。これが間違いのもとで現在位置を完全に見失い、濃いやぶに阻まれる。ようやく車道を目の前にしたが、ズブズブと足が沈む湿地帯が待ち構えていた。

登り返して尾根を探ったが結局くぐれず時間も遅くなる。再び湿地帯に戻り、巻いて深いやぶに突入し、ヘトヘトになったが無事、車道に出られた。

(向日市 湯浅康夫)

八ヶ岳南麓 長閑な中心地。高山植物の宝庫。神風岳・水鏡・トイレ、美味い名物料理「小屋」 オーレン小屋 (SHC会員500円割引) 〒391-0213 小平町大 茅野市 2472-1279 電 0266-721279 http://www.oren.jp http://www.pondok.com	北八ヶ岳の登山基地。冬はスキー JR茅野駅・北八ヶ岳登山口まで送迎します 要料別 プチホテル カナール 〒391-0301 茅野市北山薬料高原菅丸平55 13の1 電 0266-6712258	日本百名山の宿 信州戸隠山 森の宿めるへん 高梨山・黒梨山登山口まで送迎 クラコ・コースご案内 〒381-4100 長野県戸隠村緑水ヶ原 電 0266-2542081	日本唯一の女人禁制の山「大 橋山」(百太郎)の登山口 橋村ヶ岳女人コースもあり 温泉・名水の里 旅館 紀の国屋 甚八 1泊2食付 7,000円から 〒638-0431 奈良県吉野郡天川村高川 電 07476-410309
---	---	--	--

ラン等、四季に咲いていろいろな草花を育てて楽しんでる。  
(近江八幡市 岩野 明)

歩きたいのに行く山が決まらずによく困っていました。で、京都の山友達と「あ・い・う……」が頭に付く山を順に歩こう！出来ればお互いがまだ歩いていない山を選び、2人で往ける範囲の山とすることで決めました。

地図と本から山を探す作業が始まりました。こういう決め方ではなかったら絶対に歩かないだろうという山もたくさん歩けました。冒険をしたり思いがけない花に出会ったり、本当にどの山も思い出に残っています。

途中から男性がメンバーに加わってくださり心強く、山の範囲も広がりました。都合がつけば周りの山友達も誘って賑やかに、そうは言っても夏山の時期や別行動……と。平均すると年12山、今年で丸4年です。

あと「ろ」「わ」で達成します。何とか今年中に歩き終え、4年間の思い出の写真をまとめ

て一冊のファイルにしたいと考えています。一つの山を二倍三倍と楽しんだ気分です。

また、新しいテーマを考え、次の目標にしたいと思っています。(姫路市 熊田千夜子)

白山加賀禪定道の起点となる勝山市の平泉寺白山神社は、本社周辺の杉の巨木と苔が一面に広がる境内の景観が見事です。昨年の9月上旬、地元ハイキングクラブのメンバーと、この平泉寺白山神社から三頭山を歩きました。予定していた山のアプローチの林道があまりの悪路で進入できず、そのため急ぎょコースを変更したのですが、谷沿いの禅定道には花も多く、短時間のわりにはけっこう楽しめました。

その折、秋の花が咲き続く谷を登っていると、上から登山帽を振りしゅらッバックを掛けた男性がくだって来ましたが、その時の光景は、まるで映画のワンシーンをしているような錯覚を覚えたのですが、近づいてみると、華奢でどこか涼し気な面差しの青年でした。

だが、一方では悲しいこともあった。皆さんも存知の因幡園境に位置する三室山。その山麓にある三室高原外活動センターに住むクマの「千太」が26歳の夭寿を全うし9月15日に昇天した。人間の年齢にすると95歳ぐらいに当るそうである。「千太」が来たのは子供のころで、何處か山へ放したのがすぐセンターへ帰ってくるので仕方なく世話することになった。

端コース、須磨アルプスを坂宿まで歩いた。  
1月ともなると山肌は冬枯れで明るくなり、いつもと異なる景色が見られ、冬の樹木観察もまた楽しい。

カクレミノ・ウバメガシ・ヤマモモなど、ふだん植栽で見ているものが自生で出会え、感動ものだった。結局35種もあって驚きの山であった。

冬の樹木観察のポイントとして私なりの注目を挙げてみた。

- ① 幹・枝ぶり・樹高・樹皮などの樹形
  - ② 鱗芽・裸芽など冬芽の形態
  - ③ 葉痕や樹の形状
- このような見方で、新ハイソールでも冬の樹木観察を採り入れていきたいと考えている。
- なお、参考文献として、「冬の樹木」(養育社)「落葉広葉樹類冬の樹木学」(共立出版)などを利用している。
- (長岡京市 田中 明)

今年はずまさんが町へ出たとの連絡が無いので、彼らが命を落とさなくて済みそうなのでう

青年は私と目が合うと、何か話しかけたような素振りを見せたので「どこまで行ってきたの?」と声をかけると「三頭山です」と答え「この先、険しい所が続きます」と教えてくれました。

「ああ、そう。ありがとう」と応じ、ふと聞いてみました。「どこから来たの?」すると、なんと広島から来たというのです。「広島から!」と驚く私に、青年は卒論のためだと説明しました。

「ああ、卒論ね。じゃあ植物だね」と聞く私に「ええ」と笑顔を送りましたが、私はさらに「ちょっと教えて。ここに咲いている花はハグロソウでしょ」と続けました。キツネノマゴ科のハグロソウは初見だったので、確認するつもりでした。「すみません。ぼく……植物といたっても苔をやってるんです」とすまなさそうに答え、青年は私の前を通り過ぎて行きました。

「そうかあ……蕨類か」とつぶつぶ言いながら、青年を見送る私の胸には、一陣のさわやかな風が吹き抜けていました。そして、あの若さで自然相手の

会報85号随想欄の「十二支の植物」を拝読させていただいて、「十二支の山」には年度が変わる度に、その年の干支を冠する山に一度や二度は登って来ましたが、「十二支の植物」とは考えも思いもしませんでした。同じ花でもきれいだ可愛いなとただ見ているだけでなく、十二支の結びつけて見るのもまた、格別の趣があるように思いました。

「未」これには困りました。その名もヒツジグサ(睡蓮科)は、なかなか見られませんが、「と書いてありました、以前夏の尾瀬に行った時、木道をはさんだ水の深い湿原にたくさんヒツジグサ(白色の小花)が咲いていたのを思い出してペンをとりました。」

はたしてあの白い花がヒツジグサと書いていて間違いないのでしょうか?

(京都市 前田幸子)

10月10日、近畿百名山の例会で高峰山へ登った。林道を長時間歩いて行く矢ノ川峠からの往復ではおもしろく

(姫路市 須磨岡 糖)

御在所登山に  
愛知川深谷沢歩きに  
山好き仲間集う宿  
朝明茶屋  
朝明茶屋  
山小屋  
〒510-1251  
三重県三重郡菟野町千草  
電話 0593-993-1789

那岐山山麓の菟野に百名山安山  
二百名山の水ノ山・上野山などあり  
三百名山 那岐山のふもと  
岡山県 那岐山荘  
〒708-1307  
岡山県勝田郡奈義町高門  
電話 0868-3614154

九州の最高峰・日本百名山  
宮之浦岳に一番近い宿  
屋久島安房登山口  
屋久島グリーンホテル  
〒891-4311  
鹿児島県鹿毛郡屋久町安房  
電話 0997-41613021

今年冬の冬、六甲全山縦走の西

ないと思ひ、地形図を見て他のコースを探してみると、尾鷲の小野原地区から檜尾峠に上るコースが記載されていた。下記に小野原地区を訪ねてみると林道の奥に民宿があり、ご主人に尋ねると、道があると言う。登山口まで案内してもらい、山に取り付いてしばらく行くと高峰山への道標があり、随所にテラスがある。地図で調べたコースとは少し違うようだが、急登2時間で稜線に出て、後は尾根伝いに檜尾峠まで1時間、檜尾峠から1時間30分で山頂だった。

この小野原コースは聞いたことがなかった。きっと地元の人だけに歩かれているのだろう。高峰山へは、この民宿を基地にして往復すればすばらしい。民宿「イワナの里」は健康によい「東紀州の水」の出荷元で、サービス満点で料理もおいしくおすすりである。頼めば登山口まで案内してくれる。収容30人まで、1泊2食7500円、8000円、弁当も用意してもらえる。☎0597(22)8106

(本部 村田智俊)

**山行計画**  
(1・2月)  
新ハイキングクラブ専属

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によっても必ず山行日の7日前までに到着するよう、申込み先を確認のうえ申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加名簿代その他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなかった場合は必ず係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。

例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救済対策費日額50円合計100円(夜行日帰りの場合は2日になり200円)を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。(株式会社損害保険ジャパンと契約)  
死亡・後遺障害保険金額 1000万円  
入院保険金 5000円  
通院保険金 2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合(詳細は本部まで)

(記入例)

(往復ハガキを使用)

**山行き申込み書**

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 〒

氏名

会員番号  
(会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL  
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所氏名に「様」を必ず記入しておいてください。

**山行計画の実施と申し込みについて**

① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込んでください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要があります。また、山ではいかなる事態が発生するかわかりません。緊急時の連絡先、および生年月日も必ずご記入ください。

② 返信の案内は、実施日の10日前頃からです。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはっきりしないからです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。

③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信をいたしますのでご了承ください。

④ グレードは、次のように決めています。

(初級向き) 初心者でも安全に歩けるコース(3〜4時間コース)  
(一般向き) 日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山(5時間コース)  
(中級向き) かなり経験を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース(6〜7時間コース)  
(やや健脚向き) 距離は中級だが危険な所があり、登り・下りが長く続くコース(6〜7時間コース)  
(健脚向き) 距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉やぶ滑きの連続など、ハードなコース(7時間以上)

⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜(18時以降)の当地の気象情報を見て、返信案内の判断基準により各自で判断してください(リーダーから連絡はしません)。雨降りの嫌いな方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まれないようお願いいたします。

28	26	25	24	22	21	21	17	15	14	10	8	8	8	7	7	4	4	4	4
28(出)	26(休)	25(休)	24(休)	22(出)	21(出)	21(出)	17(休)	15(出)	14(出)	10(休)	8(出)	8(出)	8(出)	7(出)	7(出)	4(休)	4(休)	4(休)	4(休)
敦賀・野坂山	三重・堀坂山	京都北山・八丁尾根・神護等	東山36峰・第12峰・第19峰	鈴鹿・綿向山	美濃・天狗山南西尾根	尾鷲・安谷山	曾爾・大梅山・清水山	鈴鹿・御在所岳	鈴鹿・八風大明神安全祈願	愛宕山・地蔵山・竜ヶ岳・ツツジ尾根	播州・明神山	播磨・高御位山	鈴鹿・ヒヨノ杉坂山・アミダ峰	河内・一徳防山	飛騨下呂・湯ヶ峰	丹沢・塔ノ岳・鍋割山	三重・経ヶ峰	西播・とんがり山	西播・とんがり山
	25	18	*	20	*	*	20	20	20		20		*	20		10		15	
高島	木村	呉山	仲谷	岩野	鷺見	稲垣	田中賢	山田	筒井	仲谷	古賀	木村	岩野	鷺見	村田	田中明	筒井	山田	須磨岡

\*ハイマーカー山行

28	26	25	24	23	22	21	19	19	17	12	10	8	7	7	5	5	4	4	4	
28(休)	26(出)	25(出)	24(休)	23(休)	22(休)	21(休)	19(出)	19(出)	17(休)	12(休)	10(休)	8(休)	7(休)	7(休)	5(出)	5(出)	4(出)	4(出)	4(出)	
大峰・鷲負塚山	比良・蛇ヶ峰・富坂尾根	参詣道・富田坂越・仏坂越	敦賀・福村ヶ岳	中宿・湯ノ丸山・鹿沢高原	西播・三濃山	京滋・山科・達坂山・長等山	東山36峰・第20峰・第27峰	湖西・寒風山・赤坂山	鈴鹿・雲仙山西南尾根	鈴鹿・釈迦ヶ岳	高野・弁天岳・高野三山	比良・堂淵岳	愛宕山・中尾根谷道・水尾分岐・清滝	高見山地・坂本谷・三峰山	台高・三峰山	北八ヶ岳・天狗岳	比良・権現山・蓬萊山	美濃・貝月山	鈴鹿・静ヶ岳・竜ヶ岳	鈴鹿・能登ヶ峰
*10	22	20	25	18	40	15	*	15	20	20	*	15	*	20						
田中賢	秦	村田	高島	鷺見	木村	呉山	仲谷	森脇	山田	岩野	西上	田中明	鷺見	田中賢	木村	仲谷	村田	山田	岩野	筒井

冬期(1・2月)の登山道は積雪があり、凍結しています。各山行計画欄に特記してなくても、ロングスパット・軽アイゼン・ストックかビッケル・サングラスなどの雪山を歩く装備で、また手袋・下着・靴下は防寒・防湿用のものを、登山靴は防水してからお出かけください。

恒例の初歩き  
西播・とんがり山(辛煮会)  
(一般向き)  
期日 1月4日(休) 日帰り  
集合 JR姫路駅北口神姫バス待合所9時20分  
コース 姫路駅(バス)石倉一橋荷神社とんがり山→大黒岩峰相寺跡→行者堂→石倉(バス)姫路駅(解散16時頃)  
費用 500円(交通費各自)  
地図 2万5千円鹿野  
係 ◎須磨岡 輯  
申込み 〒671-1262  
姫路市余部区上余部50の2の11 須磨岡 輯まで

『播磨風土記』の稱種山で、先鋒がすばらしい。雨天中止  
展望の山12  
三重・経ヶ峰(中級向き)  
期日 1月4日(休) 日帰り  
集合 JR関駅8時50分/桑名駅8時00分  
コース 関駅(車)登山口→仲の郷道→経ヶ峰(往路)登山口(車)関・桑名駅  
費用 交通費各自(車代1000円)  
地図 奥村さんの絵地図を配布  
係 ◎山田明男  
申込み 〒503-0535  
海津市南濃町松山624の19 山田明男まで  
\*定員15名程度  
\*集合駅を明記ください  
06年の初山行は三重の山で、伊勢湾が一望できます。雨天中止  
鈴鹿遊山16  
飛騨下呂・湯ヶ峰(中級向き)  
期日 1月4日(休) 日帰り  
集合 JR岐阜駅7時23分発(美濃太田・高山行きに乗車)  
コース 岐阜駅(電車)下呂駅

(タクシー)下登山口→湯の平→湯ヶ峰(新井会)→湯の平→下登山口→故郷歴史記念館→下呂橋大風呂→下呂駅(電車)岐阜駅(解散19時40分)  
費用 交通費各自(青春18きっぷ可)参加費200円  
地図 2万5千円宮地・湯屋  
係 ◎筒井克治  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで  
新年会を兼ねて登ります。ゴチよろしく。雨天(雪)決行(悪天時はコース変更あり)  
花巡り山行26(富士見山行)丹沢・塔ノ岳と鍋割山  
(一般向き)  
期日 1月4日(休)夜6日(休)前後発1泊2日  
集合 (4日)JR大垣駅23時05分(23時19分発ムーンライトながら乗車)  
コース (5日)松田駅(電車)小田急奈良野駅(バス)箕毛→ヤビツ峠→三ノ塔→塔ノ岳→仏山荘(茶泊り)→(6日)宿・鍋割山→後

沢薬師二保(大倉)バス(小田急奈良野駅(解散)小田原駅(電車)京都駅(解散17時頃)  
費用 約17000円(18きっぷ3回分・茶泊り代等)  
地図 昭文社『丹沢』  
申込み ◎田中 明  
HPからメールのみ受付  
http://hana04.hp.infoseek.co.jp  
\*定員10名  
\*12月20日まで  
お正月の富士山を手にとるように見て、今年一年の山行をスタートします。\*茶泊りについての詳細はHPをご覧ください。雨天決行  
河南・一徳防山(一般向き)  
期日 1月7日(休) 日帰り  
集合 南海・近鉄河内長野駅9時00分  
コース 河内長野駅(タクシー)南ヶ丘→一徳防山1等三角点→一徳防山→中野野→奥天野温泉茶花の里(入浴・バス)河内長野駅(解散16時頃)  
費用 約3000円(大飯から)  
地図 昭文社『金剛・真城・

紀東高原  
◎村田智俊 ○呉比呂美  
◎安全止勝  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで  
展望とスリルあるガレの一徳防山。下山後入浴します。雨天中止  
自然観察山行196  
スノーハイキング  
奥美濃  
見当山と白尾山と大日ヶ岳  
(一般向き)  
期日 1月7日(休)9日(休)  
2泊3日  
集合 (7日)JR岐阜駅9時15分  
コース (7日)岐阜駅(バス)郡上高原ホテル付近→見当山→郡上高原ホテル付近(バス)石徹白宿(泊)→(8日)宿(バス)白尾スキー場(リフト)リフト終点→白尾山→リフト終点→スキー場(バス)石徹白宿(泊)→(9日)宿(バス)高鷲スノーパークスキー場(ゴンドラ)山頂駅レ

トハウス→大日ヶ岳→山頂(ゴンドラ)スキー場(バス)岐阜駅(解散)約5300円(岐阜駅からバス・宿泊・資料代等)  
地図 2万5千円那智・大鷲・石徹白・二ノ峰・新瀬  
係 ◎鷲見守康  
申込み 〒504-0828  
各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷲見守康まで  
\*定員20名  
\*12月19日まで  
厳冬の奥美濃の展望の山をリフト等を利用して登ります。スノーシューかカンジキ必要。  
雨(雪)天決行(コース変更あり)  
鈴鹿を歩く231  
ヒヨノ・杉坂山・アミダ峰  
(中級向き)  
期日 1月8日(休) 日帰り  
集合 多賀町栗栖神社前(県道17号)8時30分  
コース 神社前(車)四手林道広場→P443→ヒヨノ→杉坂山→アミダ峰→杉坂旧道→栗栖(解散)  
費用 交通費各自

昭文社『御在所・富樫・伊吹』  
◎岩野 明 ○山田景三  
◎後藤康幸  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行  
四手林道から東の尾根の巡視路を登り、ヒヨノ、杉坂山、アミダ峰と巡って多賀大社の杉の神木から旧道を八重纏にくぐります。雨天中止  
ファミリィハイク74  
播磨富士・高御位山(一般向き)  
期日 1月8日(休) 日帰り  
集合 JR加古川駅4番バスのりば9時40分  
コース 加古川駅(バス)北池→北山鹿島神社→長尾登山口→高御位山→高御位山→百間岩→展望台→豆崎奥山→中新山山→JR曾根駅(解散)  
費用 約2800円(青春18きっぷ・バス代)  
地図 2万5千円加古川  
係 ◎木村太郎  
申込み 〒565-0854

吹田市桃山台1の2のB12の209 木村太郎まで  
播磨灘の輝きに新年の幸福を折り、播磨アルプスの岩尾根を胸弾ませ縦走する。雨天中止  
播州・明神山(中級向き)  
期日 1月8日(休) 日帰り  
集合 JR姫路駅前バスターミナル8時00分  
コース 姫路駅(バス)前之庄→大明神尾根→小明神→明神山→夢やかた→前之庄(バス)姫路駅(解散18時頃)  
費用 交通費各自  
地図 2万5千円前之庄  
申込み ◎吉賀慶一 ○岡田 昇  
〒675-0112  
加古川市平岡町山之上684の33-17A403  
古賀慶一まで  
\*定員20名  
長めのハイキング。雪があれば尚楽しい。秋祭新年会。雨天中止  
火曜ハイク14  
愛宕山シリーズ8  
地蔵山・電ヶ岳からツツジ尾根  
(一般向き)

期日 1月10日(祝) 日帰り  
集合 JR八木駅9時20分  
コース 八木駅(バス) 原一地域  
山一反射板一竜ヶ岳一社  
務所一ツツジ尾根一保津  
峠(解散16時20分頃)  
費用 交通費各自  
地図 2万5千 京都西北部  
係 ◎伊谷礼司 ○沖 伸  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10

雪の風景を羨しみますが、起  
伏の多いコースです。雨天中止  
鈴鹿遊山17  
八風大明神安全祈願(中級向き)  
期日 1月14日(出) 日帰り  
集合 三坂大安駅8時10分(マ  
イカーも当駅に集合)  
コース 大安駅(車) 八風射撃場  
一八風峠(安全祈願会)  
仙香池一南峰一八風射撃  
場(車) 大安駅(解散)  
費用 参加費200円  
地図 2万5千 御在所山  
係 ◎筒井克治  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

鈴鹿を歩く232  
樹水の綿向山(中級向き)  
期日 1月22日(日) 日帰り  
集合 熊野登り口葛王ダム広場  
8時30分  
コース 広場(車) 熊野バス停一  
水無山一綿向山一北峰一  
ブナの木平 P992一  
塩の道峠一滝山谷一熊野  
(解散)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社「御在所・霊仙・  
伊吹」  
係 ◎岩野 明 ○山田景三  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行

雨(雪)天決行  
鈴鹿百山78  
御在所岳(中級向き)  
期日 1月15日(日) 日帰り  
集合 近鉄湯ノ山温泉駅8時40  
分  
コース 湯ノ山温泉駅(車) 旧料  
金所一中道一御在所岳一  
裏道一旧料金所(車) 湯  
ノ山温泉駅(解散)  
費用 交通費各自(車代500  
円)  
地図 奥村さんの絵地図を配布  
係 ◎山田明男 ○高原芳彦  
申込み 〒503-0535  
海津市南濃町松山624の19  
山田明男まで  
\*定員20名程度  
雪の御在所に初めて登ります。  
雪決行

曾爾・大桐山から清水山  
(二級向き)  
期日 1月17日(日) 日帰り  
集合 近鉄栢根が丘駅南口9時  
00分/香澄淡路台9時40  
分  
コース 集合地(車) 布引谷林道  
終点一登谷一清水峠一太  
尾鷲・亥谷山(健脚向き)  
期日 1月21日(出) 日帰り  
集合 国道42号線滝原神宮駐車  
場8時00分/道の駅「海  
山」9時15分  
コース 道の駅(車) 賢田小学校  
(車) 林道入口一登山口  
一稜線の鉄塔一太石一亥  
谷山一ヒヨ山一タノヒラ  
峠一林道(解散16時頃)  
費用 1500円

町柳駅今出川改札9時00  
分  
コース 集合地一吉田山一紫雲山  
一明神山一太白山一南峰  
寺山一若王子山一梅ヶ峰  
一大豊神社(解散15時30  
分頃)  
費用 交通費各自(資料代別添)  
地図 1万 国土地理院の京都  
御所使用  
係 ◎伊谷礼司 ○沖 豊  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員18名(会費に際)  
低山歩きですが、神社巡りも入  
りますので疲れた歩き方になりま  
す。14峠は前回済んでいます。  
\*集合場所を①②で明記ください。  
雨天中止

北山ちよと歩き74  
八丁尾根から神護寺(二級向き)  
期日 1月25日(日) 日帰り  
集合 清滝バス停9時10分  
コース 清滝一梨の木谷林道一八  
丁尾根一神護寺一高滝バ  
ス停(解散15時30分頃)  
費用 約1000円(京橋駅か  
ら)

三重の山83  
尾鷲・亥谷山(健脚向き)  
期日 1月21日(出) 日帰り  
集合 国道42号線滝原神宮駐車  
場8時00分/道の駅「海  
山」9時15分  
コース 道の駅(車) 賢田小学校  
(車) 林道入口一登山口  
一稜線の鉄塔一太石一亥  
谷山一ヒヨ山一タノヒラ  
峠一林道(解散16時頃)  
費用 1500円

野坂山(数賀市)(二級向き)  
期日 1月28日(出) 日帰り  
集合 JR数賀駅9時40分(マ  
イカー可)  
コース 野坂山一高倉の森から野坂  
山冬山コース往復  
費用 交通費各自  
地図 2万5千 数賀  
係 ◎高島伸浩  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

平白ふれあいハイク56  
京都北山・大杉谷ひぐらしの滝  
から愛宕山 (二級向き)  
期日 2月2日(日) 日帰り  
集合 清滝バス停9時10分  
コース 清滝一梨の木谷林道一太  
杉谷一ひぐらしの滝分岐  
一水尾分かれの上 愛宕  
神社一月輪寺上 ひとく  
らしの滝一空也の滝一清滝  
(解散15時30分頃)  
費用 約600円(京橋駅か  
ら)  
地図 昭文社「京都北山」  
◎寺井恒夫

自然観察山行197  
スノーハイキング  
美濃・天狗山南西尾根  
(二級向き)  
期日 1月21日(出) 日帰り  
集合 JR大垣駅9時00分  
コース 大垣駅(バス) 坂内川赤  
い吊り橋一登山口一P7  
99一天狗山(往路) 登  
山口一赤い吊り橋(バス) 大垣  
駅(解散)  
\*帰路に入浴します。

長大な南西尾根を行ける所まで  
進みます。スノーシューかカンジ

手持参。荒天中止

火曜ハイク15  
私の東山36峰(第3回)  
第12峰(第19峰)(一般向き)  
期日 1月24日(祝) 日帰り  
集合 ①「北白川」バス停南側  
路上9時20分(京阪)出

町柳駅今出川改札9時00  
分  
コース 集合地一吉田山一紫雲山  
一明神山一太白山一南峰  
寺山一若王子山一梅ヶ峰  
一大豊神社(解散15時30  
分頃)  
費用 交通費各自(資料代別添)  
地図 1万 国土地理院の京都  
御所使用  
係 ◎伊谷礼司 ○沖 豊  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員18名(会費に際)  
低山歩きですが、神社巡りも入  
りますので疲れた歩き方になりま  
す。14峠は前回済んでいます。  
\*集合場所を①②で明記ください。  
雨天中止

吹田市桃山台1の2のB  
12の209 木村太郎まで  
\*定員25名(会費に際)  
古くから伊勢参りの人々に崇拜  
され、船乗りから目印にされてい  
た信仰の山へ登る。雨天中止

野坂山(数賀市)(二級向き)  
期日 1月28日(出) 日帰り  
集合 JR数賀駅9時40分(マ  
イカー可)  
コース 野坂山一高倉の森から野坂  
山冬山コース往復  
費用 交通費各自  
地図 2万5千 数賀  
係 ◎高島伸浩  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで



申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで  
大杉谷をまっすぐつめます。下  
りは月輪寺上の小尾根からひぐら  
しの滝にくだります。雨天中止

週末ハイク71  
京都北山・天ヶ岳から竜王岳

期日 2月4日(日) 日帰り  
集合 JRR京都駅中央口7時50分

コース 京都駅(バス)大原一寂  
光院一天ヶ岳一三又岳一  
竜王岳一ノノ瀬駅(解散)

費用 約1000円(京都から)  
地図 昭文社『京都北山』  
係 ◎狩野東彦 ○瓜阪利明  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで  
大原から鞍馬へ雪を踏みながら  
歩きます。雨天中止

自然観察山行198  
スノーハイキング

期日 2月4日(日) 日帰り  
集合 JRR大塚駅9時00分

駅(解散17時頃)  
費用 約2000円(堅田駅か  
らバス代等)

地図 昭文社『比良山系』  
係 ◎村田智俊 ○呉比佐裕美  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10

比良の雪山ニ縦走です。  
雨天中止(雪決行)

火曜ハイク16  
愛宕山シリーズ9

期日 2月7日(火) 日帰り  
集合 JRR保津駅9時00分

コース 保津駅一中尾根一谷道  
一七丁目合一水尾分れ  
一抽道一表参道一清滝パ  
ス停(解散15時30分頃)

費用 交通費各自  
地図 2万5千JRR京都西北部  
係 ◎仲谷礼司 ○沖 伸  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで  
谷道にチャレンジします。雪が  
あれば最高です。雨天中止

コース 大垣駅(バス)揖斐高原  
スキー場一ふれあいの森  
公園一貝月山(往路)揖  
斐高原スキー場(バス)

費用 約4000円(大垣駅か  
らバス代等)

地図 2万5千JRR横山・美東  
係 ◎鷺見守康  
申込み 〒504-0828  
各務原市蘇原村雨町1の  
19の5 鷺見守康まで

\*定員20名  
スノーハイクの定番となった貝  
月山に今年も登ります。スノーシュー  
かカンジキ持参。雨天中止

鈴鹿遊山18  
静ヶ岳・竜ヶ岳(健脚向き)

期日 2月4日(日) 日帰り  
集合 宇賀深谷合橋駐車場8時  
00分

コース 駐車場一竜ヶ岳根一クラ  
一静ヶ岳一遠足尾根一落  
合橋(解散)

費用 参加費2000円  
地図 2万5千JRR竜ヶ岳  
係 ◎筒井克治  
申込み 〒610-0121

高見山地  
坂本谷から三峰山(中級向き)

期日 2月7日(火) 日帰り  
集合 近鉄桔梗が丘駅8時15分

コース 集落地(車)駐車場一弓  
木谷一弓木のコー一坂本  
谷一三峰山一北尾根一弓  
木のコー一駐車場(解散)

費用 交通費各自  
地図 2万5千JRR萱野  
係 ◎田中賢治 ○岡平くみ子  
申込み 〒518-0626  
名張市桔梗が丘6の2の  
18 田中賢治まで

\*定員10名  
\*マイカー山行(5名ま  
で乗合い可能。希望者は  
その旨明記ください)

静かな坂本谷から樹木の三峰山  
へ。雪が多い場合は不動滝一般コー  
スをくぐります。小雨決行

ファミリーハイク76  
台高・三峰山(一般向き)

期日 2月8日(水) 日帰り  
集合 JRR新大阪駅一階北出口  
7時40分

コース 新大阪駅(バス)登山口

城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

\*マイカー山行  
雪山は総合観です。カンジキ必  
携。大型スコップあれば便利。  
悪天中止(コース変更あり)

鈴鹿を歩く233  
能登ヶ峰(中級向き)

期日 2月5日(日) 日帰り  
集合 大河原「かもしか荘」8  
時30分

コース かもしか荘(車)鮎河一  
能登ヶ峰林道一能登ヶ峰  
一鹿の交匯一P696一  
P758一ウグイ川林道  
一鮎河(解散)

費用 交通費各自  
地図 昭文社『彈在所・雲仙・  
伊吹』  
係 ◎岩野 明 ○山田景三  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行  
真冬の能登ヶ峰の雪原をのんび  
り歩いて楽しみます。  
小雨(雪)決行

登り尾道一三峰山一八  
丁平一不動谷道一登山口  
(バス)みつえ温泉(バ  
ス)新大阪駅(解散)

費用 約3500円(バス代)  
地図 2万5千JRR萱野  
係 ◎木村太郎  
申込み 〒565-0854  
吹田市桃山台1の2のB  
12の209 木村太郎まで

\*定員20名(全員に際)  
ツアーク客が少ない静かな平日に  
霧水を求め、八丁平からは雄大な  
山岳展望を楽しむ。雨天中止

自然観察山行199  
スノーハイキング

期日 2月10日(金)夜12日(日)  
前後夜1泊2日

集合 (10日) JRR岐阜駅23時  
00分

コース (10日) 岐阜駅(バス)  
(11日) (バス) 白樺湖  
畔ホテル(飯・朝食後  
バス)メルヘン街道車止  
め一日向木山展望台一麦  
草峠一白駒池一高見石一  
中山一黒百合ヒュッテ  
(泊)

展望の山13  
伊賀・雲山(一般向き)

期日 2月5日(日) 日帰り  
集合 JRR柘植駅(車)9時15  
分/桑名駅8時00分

コース 柘植駅(車)名阪伊賀イ  
ンター一東海自然歩道一  
雲山(往路)名阪伊賀イ  
ンター(車)柘植駅・桑  
名駅(解散)

費用 交通費各自(桑名からは  
車代1000円)  
地図 奥村さんの絵地図を配布  
申込み 〒503-0535  
海津市南瀬町松山624の19  
山田明男まで

\*定員15名程度  
\*集合駅を明記ください  
2月の展望の山は1等三角点の  
雲山です。雨天決行

比良・権現山から蓬萊山  
(中級向き)

期日 2月5日(日) 日帰り  
集合 JRR堅田駅8時40分

コース 堅田駅(バス)平権現  
山一ホッケー山一少女郎峠  
一蓬萊山一打見山(コン  
ドラ)山麓(バス)志賀

黒百合ヒュッテ  
東天狗岳一西天狗岳一  
東天狗岳分岐一八方堂分  
岐一淡の湯温泉(バス)

費用 約3700円(岐阜駅  
からバス・宿泊代等)

地図 昭文社『八ヶ岳・霧  
』  
係 ◎鷺見守康  
申込み 〒504-0828  
各務原市蘇原村雨町1の  
19の5 鷺見守康まで

\*定員20名  
\*12月31日まで

厳冬の北八ツ、天狗岳に登りま  
す。白樺湖畔で半泊し、夜行疲れ  
を癒します。スノーシューかカン  
ジキおよびアイゼン必携。

雨(雪)天決行(コース変更あり)

花巡り山行27(雲中山行)  
比良・堂満岳(一般向き)

期日 2月12日(日) 日帰り  
集合 JRR比良駅8時15分

コース 比良駅一イン谷口一青ガ  
レー一金養峠一堂満岳一ノ  
タノホーリ一別荘下山口一  
比良駅(解散17時頃)

費用 約1400円(京都から)

地図 昭文社「比良山系」

係 ◎田中 明

申込み HPからメールのみ受付  
http://hana.04.hp.  
infoseek.co.jp

\*定員15名  
降雪の常識を期待して目いっぱい雪中山行を楽しみましょう。  
小雨(雪) 決行

高野・弁天岳から高野三山

期日 2月17日(日) 日帰り

集合 南海高野山駅バス停9時

コース 高野山駅(バス)大門一

弁天岳→女人堂→高野七

口→女人道→転輪山→子

峠→楊柳山→黒河峠→摩

尼山→奥の院御願→奥の

院(バス) 高野山駅(解

散)

費用 約3260円(難波駅起

点)

地図 2万5千11高野山

係 ◎西下利和

申込み 〒61010121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

高野山の雪景色を見ながら弁天

岳から縦走します。標高差も少なくて手軽に冬山が楽しめます。  
雨天中止(雪決行)

鈴鹿を歩く234

雲仙山西南尾根(中級向き)

期日 2月19日(日) 日帰り

集合 河内線甲頭倉入口広場8

時30分

コース 広場(車)今畑→落合→

汗ふき峠→雲仙山→最高

峰→西南尾根→笹峠→今

畑(解散)

費用 交通費各自

地図 昭文社「御在所・雲仙・

伊吹」

係 ◎岩野 明 ○山田景三

○後藤康幸

申込み 〒61010121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

マイカー山行

毎年恒例の真冬の雲仙山西南尾

根の山行。セブソウ・フクジュ

ソウは咲いているでしょうか。

小雨(雪) 決行

鈴鹿百山79

釈迦ヶ岳(健脚向き)

期日 2月19日(日) 日帰り

集合 新大阪駅(バス) 難波の

里→三瀬別れ→求道教寺

→三瀬山→難波の里(バス)

→相生白龍温泉(バス)

→新大阪駅(解散)

費用 約4000円(バス代)

地図 2万5千11二本

係 ◎木村太郎

申込み 〒56510854

吹田市桃山台1の2のB

12の209 木村太郎まで

瀬戸内海を望み、三瀬千坊とし

て栄えた歴史ある山へ登る。瓜生

羅漢も訪ねます。雨天中止

近鉄湯ノ山温泉駅8時20

分

コース 湯ノ山温泉駅(車)尾高

高原→尾高山→東尾根→

釈迦ヶ岳(往路)尾高

原(車)湯ノ山温泉駅

(解散)

費用 交通費各自(車代500

円)

地図 奥村さんの絵地図を配布

係 ◎山田明男 ○高原芳彦

申込み 〒50310535

海津市南濃町松山624の19

山田明男まで

\*定員15名程度

雪の東尾根を再度登ります。雪

が多ければ途中で引き返します。雪

決行

湖西・寒風山から赤坂山

(中級向き)

期日 2月19日(日) 日帰り

集合 JR京都駅八条口団体バ

スのりば7時20分

コース 京都駅(バス)マキノ高

原→寒風山→P8201

→赤坂山→マキノ高原(バ

ス) 京都駅(解散16時頃)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千11海津・駄口

係 ◎鷲見守康

申込み 〒50410828

各務原市蘇原村雨町1の

19の5 鷲見守康まで

\*定員20名

\*12月19日まで

標高2000以上の湯ノ丸山では

本格的な冬山の一端を感じることが

できます。旅館で半泊し、夜行

疲れを癒します。スノーシューは

レンタル(1000円程度)もあり

ります。希望の場合はその旨明記

◎森崎貞哉 ○中西信行

申込み 〒61010121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

\*定員40名

昨年ほど大雪で寒風山までがやっ

とでした。リベンジ山行です。

雪決行

火曜ハイック7

私の東山36峰(第4回)

第20峰(第27峰)(一般向き)

期日 2月21日(火) 日帰り

集合 円山公園四谷通鳥居下9

時30分

コース 円山公園→知恩院→長菜

寺→双林寺山(双林寺)

→東大谷山(本願寺御願)

→高台寺山(高台寺)

→正法寺→雲山→長菜寺山

→南禅寺山→粟田山→粟

田神社(解散17時30分頃)

費用 交通費各自(食料代別途)

1万1千円(土地理院の京都

御所使用)

係 ◎伊谷礼司 ○沖 伸

申込み 〒61010121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

\*定員18名

低山歩きですが、神社巡りも入りますので変則な歩き方になります。雨天中止

北山ちよっと歩き75

山科から逢坂山・長等山

(一般向き)

期日 2月22日(日) 日帰り

集合 JR山科駅9時00分

コース 山科駅→里沙岡寛路大

文字山分岐→小関越→逢

坂山三角点→長等山見晴

台→柳丸神社(解散15時

30分頃)→京阪大谷駅

費用 交通費各自

地図 2万5千11京都東北部・

京都東南部

係 ◎呉山敬三

申込み 〒61010121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

京滋をまわって歩きます。琵琶

湖の見晴しがよい。雨天中止

コース 新大阪駅(バス) 難波の

里→三瀬別れ→求道教寺

→三瀬山→難波の里(バス)

→相生白龍温泉(バス)

→新大阪駅(解散)

費用 約4000円(バス代)

地図 2万5千11二本

係 ◎木村太郎

申込み 〒56510854

吹田市桃山台1の2のB

12の209 木村太郎まで

\*定員25名(全員に履き

て来た歴史ある山へ登る。瓜生

羅漢も訪ねます。雨天中止

自然観察山行200

スノーハイキング

期中 2月24日(日) 26日(日)

前後発1泊2日

集合 JR岐阜駅22時

00分

コース (24日)岐阜駅(バス)

(25日)バス 鹿沢温

近鉄湯ノ山温泉駅8時20

分

コース 湯ノ山温泉駅(車)尾高

高原→尾高山→東尾根→

釈迦ヶ岳(往路)尾高

原(車)湯ノ山温泉駅

(解散)

費用 交通費各自(車代500

円)

地図 奥村さんの絵地図を配布

係 ◎山田明男 ○高原芳彦

申込み 〒50310535

海津市南濃町松山624の19

山田明男まで

\*定員15名程度

雪の東尾根を再度登ります。雪

が多ければ途中で引き返します。雪

決行

湖西・寒風山から赤坂山

(中級向き)

期日 2月19日(日) 日帰り

集合 JR京都駅八条口団体バ

スのりば7時20分

コース 京都駅(バス)マキノ高

原→寒風山→P8201

→赤坂山→マキノ高原(バ

ス) 京都駅(解散16時頃)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千11海津・駄口

係 ◎鷲見守康

申込み 〒50410828

各務原市蘇原村雨町1の

19の5 鷲見守康まで

\*定員20名

\*12月19日まで

標高2000以上の湯ノ丸山では

本格的な冬山の一端を感じることが

できます。旅館で半泊し、夜行

疲れを癒します。スノーシューは

レンタル(1000円程度)もあり

ります。希望の場合はその旨明記

◎森崎貞哉 ○中西信行

申込み 〒61010121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

\*定員40名

昨年ほど大雪で寒風山までがやっ

とでした。リベンジ山行です。

雪決行

火曜ハイック7

私の東山36峰(第4回)

第20峰(第27峰)(一般向き)

期日 2月21日(火) 日帰り

集合 円山公園四谷通鳥居下9

時30分

コース 円山公園→知恩院→長菜

寺→双林寺山(双林寺)

→東大谷山(本願寺御願)

→高台寺山(高台寺)

→正法寺→雲山→長菜寺山

→南禅寺山→粟田山→粟

田神社(解散17時30分頃)

費用 交通費各自(食料代別途)

1万1千円(土地理院の京都

御所使用)

係 ◎伊谷礼司 ○沖 伸

申込み 〒61010121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

冬しか楽しめない山。琵琶湖や

敦賀市街を東から展望。下山後の

温泉が楽しみ。\*カンジキ必須。

雨天決行

紀伊山地の巻指道を歩く7

大辺路1

係 ◎高島伸浩

申込み 〒61010121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

冬しか楽しめない山。琵琶湖や

敦賀市街を東から展望。下山後の

温泉が楽しみ。\*カンジキ必須。



村田紀生 小林桂 ○吉村昭  
○磯部純 ◎金谷昭 昭計19名

鍋尻山(鈴鹿白山74)  
9月10日(出) くもり

(集合) JR米原駅8・15(車)  
あけんばら8・55・9・10(だけ  
の畑10・30) 鍋尻山11・00・10  
保月11・40(昼食) 12・25(五倍  
分岐) 13・25(桃現) 14・15(駐車  
地) 14・45・15・00(恵) 米原駅15・  
30(解散)

鍋尻山では多くのヤマビルが出  
て半数は噛まれた。明日は保月の  
八幡社の秋祭りで氏子さんに大  
太鼓を見せてもらい、お札に台風  
で落ちた杉の枝を皆で集めた。

(参加者) 竹内正子 光川一美子  
光川伸史 春見重美 小山誠次  
林 正義 吉田峰子 平塚明美  
北村 正 木戸五郎 佐藤としえ  
栗本敏夫 原 光一 原 幸子  
山田妙子 ◎山田明男(計16名)

美濃・伊吹北尾根  
(自然観察山行187)  
9月10日(出) くもり

(集合) JR大垣駅9・00(バス  
国見峠10・15・20) 国見峠11・30  
大赤山手前ヒートク12・00(昼食)

尾根取付10・10(支線) 11・40  
(昼食) 12・20(大所山) 12・30(下  
多古下) 降点12・50(駐車場) 13・  
50(車) 榛原駅15・35(解散)  
蛇腹尾根を急登。岩場の上から  
は涼しい稜線となり、岩場の上から  
クナゲ林に囲まれて昼食。あとは  
ゆるやかな稜線をたどれば、静か  
な大所山頂に着いた。

(参加者) 大村俊子 前川和佳子  
吉橋孝次 村本俊弘 佐古田文字  
筒井克治 ◎岡平くみ子(計8名)  
◎田中賢治

丹後・多福寺山  
(ファミリアハイク66)

9月14日(出) 晴れ一時雨

(集合) JR新大阪駅7・30(バス)  
赤野10・00・10(多福寺) 10・  
45・11・00(西コース登り口) 11・  
10(立江地蔵) 11・20(30) 多福寺  
山12・00(昼食) 12・45(大浦ハ  
イランド前) 13・55(14) 05(バス)  
五老ヶ岳・御嶽かんの宿14・35  
(入浴) 16・00(バス) 新大阪駅  
18・40(解散)

石仏の道が多福寺山へ登ると若  
狭湾は曇っていたが、東舞鶴湾の  
絶景が待っていた。  
(参加者) 塚本忠次 松井明忠

12・40(大赤山) 12・55(御座) 13・  
25(30) 鶴ヶ原13・05(飯又) 16・  
15(バス) 池田温泉17・20(入浴)  
18・00(バス) 大垣駅18・35(解  
散)

北尾根では初めてヤマビルの被  
害に遭った。ヘビもヤマカガシ・  
ジムグリ・ヒバカリなどたくさん  
出会った。予定のイブキゴメグ  
サやマネキグサ・エンシノウツリ  
フネツツを観察できた。

(参加者) 朝倉松雄 藪野美穂恵  
石田高教 亀井悦子 加藤真佐子  
志水明美 堀田輝子 水谷陽子  
本沼幸夫 森 瑞代 米山尊子  
若松朝子 若松 寛 渡辺かつこ  
◎吉橋孝次 ◎賢良寺康(計16名)

雲谷山(若狭町)

9月10日(出) 晴れのちくもり  
(集合) 田三方町役場9・25(車)  
三方右衛門登山口9・35(第三展  
望所) 10・35(車) 北上前ヒートク12・  
00(昼食) 12・37(雲谷山) 12・55  
・13・05(第三展望所) 14・10(離  
流) 14・40(三方右衛門) 15・10(解  
散)

第三展望所からは三方五湖や青  
葉山までの展望。頂上は東が伐り  
開かれ、野坂山や西方ヶ岳・蝶蝶

渡部和美 岩城豊子 山本千鶴子  
岩本彩子 村上嘉子 中澤みず子  
冨田満子 前田一代 田中三恵子  
川原富子 長沢佑美 石倉真佐子  
中谷孝子 尾正 山根崇美  
栗橋崇吉 栗橋君子 藤原くに代  
岡本佳子 小林博子 堅田 弘  
◎西條良彦 ◎木村太郎(計20名)

大峰・白倉山から佛ヶ峰  
9月15日(出) くもり時々晴れ

(集合) 近鉄大和上市駅8・50・  
55(バス) 西河9・25(登山口) 9・  
40(五社峠) 10・30(白倉山) 10・50  
・15(五社峠) 11・25(佛ヶ峰) 11・45(王  
崎) 佛ヶ峰三角点ヒートク13・50(王  
聖大ノ窟) 窟へ蟻の滝14・50(西河  
15・30・16・39(バス) 大和上市  
駅17・00(解散)

山頂へ急登が続いたが、大蛇窟  
のミニ版みたいな展望台からの眺  
望にしばし足をとめた。聖大ノ窟  
付近で、数人が蟻に刺されるアク  
シデントがあった。  
(参加者) 奥田剛夫 大園加代子  
木村 豊 西脇辰夫 竹田勝英  
馬籠忠男 原 幸子 荒木光雄  
若林文夫 堀内預智 前川和佳子  
藤本桂吉 沖 伸 伊藤正延

長 敦賀湾まで望めた。  
(参加者) 矢野 稔 高木忠夫  
◎高橋伸浩(計3名)

御所平から臼杵岩  
(鈴鹿連山12)

9月10日(出) くもり一時雨  
(集合) 石水溪望仙荘前8・00(白  
粉林) 8・15(藁谷) 風ノ峰9・  
30(御所平) 豊元平11・00(昼食)  
12・00(舟石) 臼杵岳13・00(白  
粉林) 14・00(望仙荘) 14・15  
(解散)

風ノ峰は風が通り生き返るよう  
だ。結構な登り下りで御所平、腰  
元平へ。雨のやみ間に早目のお昼  
大行を歩いて早めに帰った。

(参加者) 堤 良男 池田隆一  
永谷鉄治 今国民代 岡平くみ子  
米倉 哲 波谷光雄 波谷美知子  
丹羽泰彦 伊藤弘隆 ◎筒井克治  
(計11名)

京都市北山・シンコボ(永倉)

9月11日(出) 雨のちくもり  
(集合) JR京都駅八条口7・20  
(バス) 生杉ブナ原生林駐車  
場9・40・55(地蔵峠) 10・18・25  
(枕谷分岐) 10・36(野田畑) 分岐  
10・52(トチの大木) 11・10・18(

岩本彩子 藤原栄寿 東中次夫  
岩村春子 山根弘美 志水明美  
白鳥孝子 大内明子 ◎東山登夫  
◎西上利和(計24名)

南島・高山(三重の山80)

9月17日(出) 晴れ  
(集合) 伊勢自動車道東城インター  
前9・00(車) 度会(車) 道方  
(車) 徳納10・25(ハクラクさん  
洞) 10・50・11・00(高山) 11・  
40(昼食) 12・40(ハクラクさん  
13・30(林道) 駐車場13・45(解散)  
イノシシが餌をあさった跡が随  
所に見られた。斜面を逃げてゆく  
その姿をも確認。頂上付近のウバ  
メガシの群落が見事だった。  
(参加者) 永戸鉄治 岡本美千子  
山本雅子 筒井克治 石田真由美  
平 龍一 平 幸子 川村政和  
中森義信 林崎 功 ◎稲垣逸夫  
(計11名)

北アルプス・乗鞍岳と西穂高岳  
(展望の山8)

9月17日(出) 18日(出) 1泊2日  
(17日) 晴れ(集合) JR西岐  
阜駅6・55(新幹線) 岐阜羽島7・  
10(車) 朴の木平10・30(バス)  
豊平11・10(乗鞍岳) 12・20(昼食)

杉尾峠11・47・12・05(底根) 12  
・20(昼食) 12・50(シンコボ  
13・38(50) 野田畑) 14・25(40  
野田畑) 15・00(10) 地蔵峠  
15・36(ブナ原生林) 駐車場16・12  
(バス) 京都駅19・00(解散)

杉尾峠で雨になり、昼食もそこ  
そこにシンコボへ。ブナ・トチ・  
ミズナラを見ながら歩いた。

(参加者) 青木一雄 野末あや子  
岩城豊子 竹内正子 中村佳津子  
和田輝子 村井寿和 繁田広美  
三井敏一 塚本忠次 白鳥忠子  
松尾誠子 岩崎健司 岩本彩子  
小池一郎 川田洋子 中川光郎  
渡部和美 朝倉松雄 蓮井洋子  
楠原良彦 林 正義 荒木光雄  
山岸勝雄 若林文夫 中川節子  
宮野哲郎 宮野敏子 武部美美子  
佐野健二 西村三枝 松沢美子  
三野 旭 多賀久子 松村雅子  
栗橋崇吉 栗橋君子 中井ひろみ  
岩田育士 ◎中西信行

大峰・大所山  
9月13日(出) 晴れ

(集合) 近鉄榛原駅8・10(車)  
下多古川林道井天岩駐車場9・20  
・25(登壇) 展望台9・50(蛇腹

12・50(大目) 13・05(乗鞍) 13・  
25(登壇) 15・30(バス) 朴の木平  
16・30(車) 新穂高温泉・民宿17・  
00(泊)

(18日) 晴れ(民宿) 8・00(車)  
網走駅8・30(ロープウェイ) 西  
穂高口駅8・45(西穂高山) 9・35  
・10(独) 10・30(西穂高山) 11・20  
(昼食) 12・10(独) 13・05(西  
穂高山) 14・00(西穂高山) 15・30  
(ロープウェイ) 網走駅16・00  
(車) 西穂高駅19・55(解散)

高山病の恐れがある人が遅れた  
が、全員大目岳まで行けた。西穂  
高岳へは12人が行き、体調不良の  
4人は独りで、西穂高岳で初め  
てプロクセン現象を見た。  
(参加者) 久米孝子 北村つねみ  
島居信吾 春見重美 成瀬みち子  
佐藤文枝 光川伸史 光川一美子  
朝倉松雄 多賀久子 長坂佐知子  
竹内正子 馬場輝子 内田康夫  
山田妙子 ◎山田明男(計16名)

細川から武奈ヶ岳  
(比良を歩く43)

9月18日(出) くもり時々晴れ  
(集合) JR堅田駅8・40(バス)  
(バス) 細川9・55(武奈ヶ岳) 登  
山口10・03(直登) 迂回路合流

点10・38―三谷目立札11・05―P  
706付近11・15―大目立札12・  
15―武奈ヶ岳13・00(昼食)13・  
35―コヤマノ岳分岐13・47―イブ  
ルキノコバ14・08―八雲ヶ原14・  
23―33―北比良峠14・50―15・00  
―大山口16・22―イン谷口手前の  
広場16・32―40(解散)―イン谷  
口16・45―比良駅17・20  
武奈ヶ岳からの下りは、通常ル  
トの谷道を避けて尾根筋の冬道を  
とったが、けっこう踏まれており  
歩きやすかった。  
(参加者)林 正義 小椋きめ子  
馬籠忠男 堀田輝子 平田和子  
山崎柳子 塚本忠次 木本恭子  
菅井克己 山田尚子 小川富士雄  
妹尾公代 本間 隆 市井ユリエ  
松尾麗子 平塚明美 水本加津榮  
前田初雄 運洋子 松井明忠  
山原道一 仲谷社司 前田喜久子  
渡部和美 中川光郎 中島 隆  
金森節子 福井清之 山野志保江  
○青木一雄 ○南 利聖  
◎泰 康夫 (計32名)

大峰・みたらい溪谷と観音平  
(花巡り山行22)  
9月18日(日) 晴れ  
(集合) 近鉄下市口駅9・10(パ  
ス) 天川川合10・30―みたらい溪  
谷11・30―観音峰登山口12・10  
(昼食)12・45―観音峰第一展望  
台13・10―30―登山口13・50―湖  
川温泉15・30―55(バス)下市口  
駅16・55(解散)  
お目当てのハガクレツリフネ・  
シユウカイドウ・イヌシヨウマは  
満開だったが、アキギリはほとん  
ど終わりを告げていた。  
(参加者)和田純子 野末あや子  
上山正二 岩佐 修 道平きわみ  
清川英三 清川陽子 田中三恵子  
松田和恵 下村啓子 高木和子  
川戸せつ 瀧美知子 ○西原辰夫  
○岩根健司 ◎田中 明(計16名)

磐石の丘・衣掛山・日本コバ  
(鈴鹿を歩く224)  
9月18日(日) 晴れ  
(集合) 道の駅「マーガレットス  
テーション」7・50(車) 大秩  
一(四車) 衣掛山登山口9・20  
―磐石の丘10・30―衣掛山10・50  
―衣掛の泉11・00―日本コバ11・  
20(昼食)12・15―P89712・  
40―明神宮13・00―地蔵堂14・  
20―大秩14・20(車引取)15・00  
(解散)  
昔は護摩供養が行なわれた磐石  
の丘で展望を楽しみ、衣掛山から  
泉にくだって日本コバへ。下山に  
道を間違えて埋ま谷へ降りたが、  
初秋の真日本コバを堪能した。  
(参加者)矢野 稔 堀江房隆  
小谷和子 堀野香織 岩本彩子  
福岡 章 武村千鶴 藤村勝彦  
服部 飛 三上伸夫 高原芳彦  
栗本敏夫 谷 久雄 奥野太一郎  
小林 修 村田紀生 谷 守  
大西節郎 一芝義雄 一芝美知子  
木下朝子 神野孝允 石田真由美  
西村文男 磯部 純 ○山田景三  
○後藤康幸 ◎岩野 明(計28名)  
奥播磨・三宝山  
(近畿百名山に登る83)

9月19日(日) くもり  
(集合) JR新大阪駅正面口7・  
40(バス) 三雲高原野外活動  
センター駐車場10・05―20―林道  
登山口10・50―11・00―山頂まで  
60分の道標11・45―大岩11・55―  
クサリ道標12・05―三宝山12・20  
(昼食)13・10―大岩13・30―谷  
渡峠14・05―15―野外センター  
駐車場14・45―15・00(バス)エ  
イア千種15・15(入浴)16・15  
(バス) 大阪駅19・10(解散)  
山頂からは水ノ山などの大展望  
に恵まれた。  
(参加者)朝倉俊雄 卷田 晃  
太田裕幸 林 信男 野末あや子  
吉越孝次 高橋寿治 木村 豊  
澤田高治 磯野純治 大嶋加代子  
岩根健司 柳川常雄 中嶋日出男  
村井寿和 繁田広美 若林文夫  
北本 泰 川俣高子 伊東ナナ子  
宮野哲郎 宮野純子 武部美美子  
川田洋子 山高義治 山高多恵子  
須藤尚子 桜庭 栄 桜庭和子  
長沢佑美 佐野信江 粟谷祐樹子  
魚田一江 山根弘美 河本美千子  
小林 桂 藤本桂吉 岩田育士  
川俣 勲 ○安倉正勝  
◎村田智俊 (計41名)

耳12・00(昼食)12・40―トマの  
耳―肩ノ小屋13・20―30―天神平  
駅15・25―40(ロープウェイ)土  
合駅15・50―16・10(バス) 水上  
町ペンション16・35(泊)  
(2日) くもりのち雨(ペンシヨ  
ン6・45(バス) 武蔵牧場東便駐  
車場8・25―35―武蔵牧場小屋10・  
00―前線分岐11・50―沖武峠12・  
30(昼食)13・00―剣ヶ峰山14・  
00―05―武蔵沢分岐16・00―05―  
武蔵神社16・40―17・10(バス)  
ペンション18・10(泊)  
(25日) 雨(ペンション6・50  
(バス) 玉原高原センターハウス  
8・00(バス) 沼田市観光(バス  
岐阜駅17・20(解散)  
巖剛新道の登りでは背を背に  
トマの耳・オキの耳を仰いだ。し  
かし、頂上部ではガスのため見晴  
らしはさかなかった。翌日の武蔵  
山もガス。激しいぬかるみ道に苦  
労し、剣ヶ峰山からの下りは大き  
な段差と露出した木の根に難渋し  
た。けれど、武蔵山麓のブナ林は  
見ごたえがあった。3日目は朝か  
ら雨。玉原高原センターハウスで  
引き返し、観光旅行に徹した。  
(参加者) 朝倉俊雄 市井ユリエ  
岡田直規 緒方由子 森野美紀恵

比良・釣鐘岳から武奈ヶ岳  
(平日ふれあいハイク54)  
9月27日(日) 晴れ  
(集合) JR京都駅八条口7・30  
(バス) 橋生8・40―イクワタ峠  
10・30―釣鐘岳11・15―武奈ヶ岳  
12・20(昼食)13・30―御殿山14・  
10―坊村16・00(バス) 京都駅17・  
30(解散)  
武奈ヶ岳頂上は360度の展望  
で、はるか遠くの山まで見えた。  
(参加者) 柳 照司 柳 美栄子  
後藤純子 塚本忠次 井上恭子  
妹尾 正 平田和子 加藤浩一  
加藤彦彦 児島孝子 岩本彩子  
武村千鶴 中川光郎 豊村穂子  
小林 修 川上久堅 ◎寺井恒夫  
(計17名)

金森節子 川島勝美 加納由紀子  
栗橋裕子 小松志信 竹内正子  
島居信吾 長尾一令 林 えい子  
森野暢子 森脇貞義  
佐々木三子代 ○三井敏一  
◎鷺見守康 (計19名)  
比良・釣鐘岳から武奈ヶ岳  
(平日ふれあいハイク54)  
9月27日(日) 晴れ  
(集合) JR京都駅八条口7・30  
(バス) 橋生8・40―イクワタ峠  
10・30―釣鐘岳11・15―武奈ヶ岳  
12・20(昼食)13・30―御殿山14・  
10―坊村16・00(バス) 京都駅17・  
30(解散)  
武奈ヶ岳頂上は360度の展望  
で、はるか遠くの山まで見えた。  
(参加者) 柳 照司 柳 美栄子  
後藤純子 塚本忠次 井上恭子  
妹尾 正 平田和子 加藤浩一  
加藤彦彦 児島孝子 岩本彩子  
武村千鶴 中川光郎 豊村穂子  
小林 修 川上久堅 ◎寺井恒夫  
(計17名)

京津  
青羽山・千頭岳から上醍醐  
9月27日(日) 晴れ  
(火曜ハイク9)  
(集合) 京阪大谷駅9・00―陣丸  
神社9・05―路傍休憩所10・10―  
15―直羽山10・25―35―パノラマ  
台10・55―千頭岳11・45―50―三  
角点12・05(昼食)12・55―横嶺  
峠13・50―55―上醍醐・明山堂14・  
15―30―滝15・05―15―醍醐寺・  
三雲閣15・40―45(解散)  
比良山など周囲の山々を眺めな  
がら、千頭岳三角点まで足をのば  
した。シュウファンソウ・ヒメジン  
などを見つけた。  
(参加者) 堀江房隆 栗橋崇吉  
船越利明 沖 伸 徳保  
山根弘美 中村静香 松尾久之  
田中 明 木下朝子 加納由紀子  
青木一雄 宮本真幸 市野博文  
渡部和美 和田直樹 佐々木輝子  
中尾博子 村井寿和 小松志信  
山根勝美 山縣 隆 ○田中善雄  
◎仲谷社司 (計24名)

めると展望が開けた。  
(参加者) 岩城豊子 野末あや子  
松尾蘭子 白鳥彩子 山本千鶴子  
岩本彩子 渡部和美 成川みさお  
古川正子 村上嘉子 中澤ちず子  
木村 豊 松井明忠 久保田玲子  
北本 豊 宮西和子 道平きわみ  
塚本忠次 妹尾一正 竹田勝英  
栗橋崇吉 栗橋裕子 山中あさみ  
川保富子 中谷幸子 平田輝美  
○西條良彦 ◎木村太郎(計22名)

越前・経ヶ岳から法恩寺山  
三頭山縦走  
(自然観察山行189)

10月1日(出)2日(泊) 1泊2日  
(1日) くもりのち雨 (集合) J R 岐阜  
駅前9・15(バス) 豊道法恩寺線  
休憩所12・30(昼食) 13・05(バス)  
中ノ平13・40 三頭山14・50  
15・00 早来寺15・40 16・00  
(バス) 六呂師高原ホテル16・30  
(泊)  
(2日) くもりのち雨 ホテル7・  
45(バス) 豊道法恩寺線休憩所  
8・10 保月山9・15 20 杓  
子岳9・55 10・05 中岳10・20  
11・25 尾根途中で昼食(20分ほ  
ど) 伏拝13・15 法恩寺山13・

35 中ノ平遊覧小屋14・20 40  
(バス) 六呂師高原トロン温泉15・  
25(入浴) 16・15(バス) 岐阜駅  
19・05(解散)  
白山越前柳定道を2日に分けて  
歩いた。経ヶ岳から法恩寺山への  
縦走尾根では、雨も本降りとなっ  
たが、全員無事完歩できた。  
(参加者) 朝倉徳雄 池田繁美  
石川 敏 上田裕子 大須賀 實  
岡本佳子 沖 伸 大園加代子  
金森節子 栗橋裕子 荻野美紀恵  
澤田高治 原文子 森 美香子  
牧 和夫 佐々木三三子  
○三井絃一 ◎鷺見守康(計18名)

紀泉高原・昭和山  
(地蔵読み山行71)

10月2日(雨) 晴れ  
(集合) 南海橋井駅8・45 55  
(バス) つづら知9・18 25 1つ  
づら知越10・05 楠峠12・05 昭  
和山12・45(昼食) 14・00 鉄塔  
15・10 10の字峠16・15 境合16・  
40 J R 山中沢駅17・15(解散)  
標高3744(約10%)の里山  
歩きだが、アップダウンが激しく  
予想外の時間を要した。  
(参加者) 石田高教 橋原良彦  
山縣勝美 山縣 隆 松田 久

前田栄三 荻野暢子 長沼 仁  
澤田惟之 ○中村 登 (計11名)  
◎塚元一彦  
桑野橋から蛇谷ヶ峰  
(比良を歩く44)  
10月2日(雨) くもり時々晴れ  
(集合) J R 堅田駅8・40 45  
(バス) 桑野橋9・35 10・00 1  
きのこ研究所ベンチ前10・35 40  
1林道終点登山口10・48 猪の馬  
場10・56 大野無線中継所11・05  
1三本岐れ松11・15 25 朽木方  
面展望台11・40 天狗の森12・10  
1西條12・15 蛇谷ヶ峰12・25  
(昼食) 13・00 スキー場道分岐  
13・10 造林公社管林地着板13・  
20 1谷道分岐の小峠14・10 下山  
口堰堤14・20 玉津島神社14・35  
1高坂口14・45(解散) 15・55  
(バス) 近江高島駅16・10  
きのこ研究所で林道が終わり、  
蛇谷ヶ峰まで快適な縦歩きが続  
く。宮原尾根は、毎年2月に輪カ  
ンでぐるルートだが、雪の無い  
時に例会で歩いたのは初めてだ。  
(参加者) 岩佐 修 小原きぬ子  
木本恭子 上山正一 本啓丞夫  
福井清之 塚本忠次 西居俊弥  
三丁仲夫 蓮井洋子 林 久美子

田中善雄 若林文夫 野里マツ代  
加藤元彦 紀平由美 野末あや子  
本間 隆 本間孝子 荒川喜重美  
宮本真幸 宮本悦子 竹内喜久子  
平塚明美 渡美知子 高岡富美子  
和田純子 宮野哲郎 宮野秘子  
農村雅子 妹尾公代 前田初雄  
渡部和美 仲谷礼司 松見 昭  
○宮下淳一 ○大東 哲  
◎秦 康夫 (計38名)

ヒキノ・旭山・東山・キトラ  
(鈴鹿を歩く225)

10月2日(雨) くもり  
(集合) 永源寺町役場7・45(車)  
政所へ置車8・10(車) 御池林道  
管林事務所前8・35 1稜線9・45  
1ヒキノ10・15 1旭山11・30(昼  
食) 12・20 1東山13・10 1キトラ  
往復 東山13・45 1政所15・00  
(車引取り) 15・40(解散)  
御池林道管林事務所前から巡視  
路を登る。爽やかな山旅はヒキノ・  
東山・キトラ山域が特にすばらし  
い深い樹林で、モミの大木が続く  
尾根をくだった。  
(参加者) 宮村信夫 奥野太一郎  
金谷 昭 栗本敏夫 湯浅みや子  
武村千鶴 岩本彩子 石田真由美  
小松千秋 緒方由子 網木美恵子

市田政子 一芝義雄 一芝美知子  
大西節郎 永谷鉄治 小林 修  
○山田景三 ◎岩野 明(計19名)

鈴鹿・鬼ヶ牙から臼ヶ岳  
10月4日(雨) くもりのち雨  
(集合) 近鉄桔梗が丘駅9・00  
(車) 白梨谷合出駐車場10・10 1  
30 1鬼ヶ牙峠高台11・10 1長坂の  
頭11・55(昼食) 12・40 1掛石13・  
40 1臼ヶ岳14・25 1東尾根経由  
駐車場15・20(車) 桔梗が丘駅16・  
55(解散)  
長坂の頭の登りで大汗。頭から  
はガスに煙る仙ヶ岳から臼ヶ岳  
への稜線がパノラマを展開し、暑  
さもふっとお。  
(参加者) 井沢重正 佐古田文字  
小林 修 奥出八重子  
○岡平くみ子 ◎田中賢治  
(計6名)

奥美濃・五輪池山  
10月8日(出) ◎金谷 昭  
\*雨天のため中止しました。

白山  
三方岩岳・野谷社司山・冬瓜山  
(展望の山9)  
10月8日(出)9日(泊) 1泊2日

8日 くもりのち雨 (集合)  
J R 西岐阜駅7・00(車) 新幹線  
岐阜羽島駅7・10(車) 白山スー  
パー林道三方岩岳駐車場10・10 1  
20 1三方岩岳11・05 1鶴平新道分  
岐12・15 1野谷社司山12・25(昼  
食) 13・00 1三方岩岳14・10 1駐  
車場14・50 15・00(車) 中宮温  
泉の宿16・30(泊)  
(9日) 晴れのちくもり 宿7・  
30(車) 白山自然保護センター7・  
40 1野塚公園8・05 1尾根分岐10・  
30 1冬瓜山11・35(昼食) 12・05  
1野塚公園15・00 1自然保護セン  
ター15・40(入浴) 16・10(車)  
米原駅20・40(解散)  
三方岩岳から野谷社司山の紅葉  
はきれいだが、雨で時間がかかっ  
た。冬瓜山は今春よりもまっく  
12名は山頂へ行ったが、6名は九  
合目で引き返した。昨年見つけた  
次三角点と再会できた。

(参加者) 小谷幸子 中澤明司博  
小澤栄子 岡本佳子 成瀬みち子  
吉田藤子 朝倉松雄 今井みよ子  
内田康夫 佐藤文枝 長藤由美子  
馬場祥子 久米孝子 武蔵佐知子  
野野谷子 山田妙子  
○山田明男 (計18名)

上州・妙義山と荒船山  
(自然観察山行190)  
10月8日(出)夜 1泊1日  
前夜発 1泊2日  
(8日) (集合) J R 岐阜駅23・  
00(バス)  
(9日) くもりのち雨 (バス)  
ドライブインおきのや4・40(朝  
食) 5・40(バス) 国民宿舎「裏  
妙義」6・05 15 1丁須ノ頭9・  
05 25 1国民宿舎12・00 15(バス)  
道の駅「妙義」12・45(昼食)  
13・45(バス) 石門入口14・15 1  
第二石門 1第四石門 1中ノ岳神社  
15・00(バス) 妙義神社15・30 1  
16・10(バス) 下仁田町旅館16・  
30(泊)  
(10日) 雨 旅館7・00(バス)  
内山峠7・50 8・00 荒船山嶺  
岩9・45 10・20 1内山峠12・20  
10(バス) 佐久市旅館12・20  
(入浴・昼食) 13・50(バス) 岐  
阜駅19・05(解散)  
裏妙義の丁須ノ頭は、足場の確  
保が難しい箇所が続いた。裏妙義  
中間道では雨も本降りとなったた  
め、散策程度に石門を巡った。翌  
日、本降りの雨のなか、航空母艦  
のような特異な山容の荒船山を越  
岩まで歩いた。

(参加者) 大林 進 相原悠紀子  
近江秀子 川島勝美 川上孝代子  
木村光江 熊木秀雄 北村つねみ  
栗橋崇吉 栗橋裕子 林 えい子  
小松志信 長尾一令 森 美香子  
荻野暢子 山縣勝美 若松朝子  
○仲谷礼司 ◎鷺見守康(計19名)

南勢・南赤山と高峰山  
(近畿百名山に登る85)  
10月9日(雨) 10日(雨) 1泊2日  
(9日) 晴れ (集合) 近鉄大和  
八木駅8・00(バス) 南赤山森林  
公園駐車場11・40 50 1南赤山12・  
40(昼食) 13・30 1土右越峠14・  
00(バス) 長島町吉里温泉15・20  
(入浴) 16・20(バス) 民宿「イ  
ワナの里」16・50(泊)  
(10日) 雨 民宿6・40(バス)  
小原野コース登山口6・50 7・  
00 1稜線1ヶ所9・00 10 1松尾  
峠10・00 1高峰山11・45(昼食)  
12・15 1矢ノ川峠14・10 1国道42  
号線矢ノ川峠口16・40 17・00  
(バス) 近鉄名張駅20・10(解散)  
おまけの南赤山には展望があっ  
た。高峰山へは民宿に泊まり、小  
原野コースを登った。稜線までは  
2時間の登りだが、あとは原始的な  
な樹林帯をいくつものピークのアップ

10月9日(雨) 10日(雨) 1泊2日  
(9日) 晴れ (集合) 近鉄大和  
八木駅8・00(バス) 南赤山森林  
公園駐車場11・40 50 1南赤山12・  
40(昼食) 13・30 1土右越峠14・  
00(バス) 長島町吉里温泉15・20  
(入浴) 16・20(バス) 民宿「イ  
ワナの里」16・50(泊)  
(10日) 雨 民宿6・40(バス)  
小原野コース登山口6・50 7・  
00 1稜線1ヶ所9・00 10 1松尾  
峠10・00 1高峰山11・45(昼食)  
12・15 1矢ノ川峠14・10 1国道42  
号線矢ノ川峠口16・40 17・00  
(バス) 近鉄名張駅20・10(解散)  
おまけの南赤山には展望があっ  
た。高峰山へは民宿に泊まり、小  
原野コースを登った。稜線までは  
2時間の登りだが、あとは原始的な  
な樹林帯をいくつものピークのアップ



運井洋子 中川光郎 伊東ナナ子  
森本 勝 森本澄子 河原美代子  
宮野敏子 中川節子 大石吉彦  
東村由美 ○安倉正勝  
○呉比呂美 ◎村田智俊(計24名)

奈良・当尾石仏の里  
(ファミリーハイック69)

10月23日(日) くもり時々晴れ  
(集合) JR奈良駅9・10・20  
(バス) 岩船寺南口9・50・10・  
00 岩船寺山岡10・15 (自吹岩往  
復) 10・35・45 首切地蔵の広場  
11・30 (昼食) 12・10 浄瑠璃寺  
12・20 40 旧柳井古墳跡地蔵13・  
40 50 奈良山浄苑14・10 20 1  
般若寺14・50 15・00 (解散)  
古寺と石仏を訪ねて歩いた。浄  
瑠璃寺には桔梗や秋明菊、般若寺  
には見頃の萩が咲いていた。  
(参加者) 村上五子 中澤ちず子  
本間恵 辻田詞子 道早ちわみ  
本落夫夫 福井清之 林 久美子  
松田 久 塚本茂次 山高多恵子  
小林博子 小田朝子 森 美香子  
岡田方員 宮村信夫 成川みさお  
眞田久子 市野博文 青木一雄  
兼田幸子 永島律子 武部美美子  
東中次夫 林 信男 宮路ちへ子  
多賀久子 山根邦枝 石井美智子

盛 敏子 若林文夫 山中あきみ  
和田直樹 小林 修 秋葉正人  
○川上久堅 ◎木村太郎(計23名)

六甲・五助山  
10月23日(日) 雨のちくもり

(集合) 神鉄唐櫃台駅9・00 シ  
ラケ谷分岐10・15 仙人窟跡10・  
40 心経岩10・55 雲ヶ岩11・06  
1 渡雲台11・25 (昼食) 12・20 1  
五助山13・20 33 出合14・10 1  
打越峠14・35 八幡神社15・15  
(解散)  
裏六甲は無情の雨。仙人窟跡は  
地震で昔の面影はなく心経岩に刻  
む文字に驚愕。我ら熟達者ササを  
分け岩場をくだり紅葉テラホラの  
尾根を静かな五助山へ。住吉谷で  
は大アケビをゲットした。  
(参加者) 岩田育士 河本美千子  
柳川常雄 平田和子 市井ユリエ  
馬籠忠男 朝倉松雄 塩原香織  
河合敏行 河崎妙子 小谷和子  
宮下洋一 首藤育子 三井社一  
森 瑞代 フリッソ智恵子  
松本勝子 栗橋宗吉 前田喜久子  
松村雅子 中島 隆 久保田順一  
西 茂子 ○福岡 章  
○岡田 昇 ◎古賀隆一(計25名)

台高  
千石谷林道から笹ヶ峰・檜塚  
10月25日(火) 晴れ  
(集合) 近鉄榛原駅8・10 (車)  
スタハラ谷出合9・40 45 喜平  
小原谷出合(笹ヶ峰東尾根) 10 (昼  
食) 13・30 檜塚尾根14・45 15・  
15 スタハラ林道経由出合17・05  
(マイカー解散・車) 近鉄榛原駅  
18・25 (解散)  
喜平小原谷出合へはT水先案内  
人に昔の近道を教えてもらい楽を  
する。笹ヶ峰東尾根は途中から尾  
根に沿わず、一部瀬戸越の道を利用  
して直接南峰の肩へ出た。上部  
の自然林では巨大な檜やヒメシャ  
ラ・シヤクナゲの林を鑑賞した。  
(参加者) 大村俊子 前川和佳子  
鮫田二郎 山縣勝美 池田繁美  
辻 寛正 柳 敏弘 筒井克治  
井沢重正 ○岡平くみ子 (計11名)  
◎田中賢治

青生原生林・シンコボ  
(北山ちよと歩き71)

10月26日(水) 晴れ  
(集合) JR京都駅八条口7・20  
(バス) 青生生杉ゲート9・40 1  
野田畑谷分岐10・40 1 杉尾峠11・

25 シンコボ12・45 (昼食) 13・  
45 野田畑分岐14・30 1 中山神  
社・生杉ゲート前16・05 (バス)  
京都駅18・40 (解散)  
青生原生林の大自然のなかを楽  
しく歩いた。やや「ちよと歩き」  
の例会にしては長い道のりだっ  
た。

(参加者) 吉藤孝次 濱本美和恵  
米山葛子 宮西和子 中島金一郎  
中川光郎 平田輝美 菅 キヤウ  
富田鴻子 栗栖君子 三上須美恵  
東中次夫 植木敏子 大須賀 實  
沖 伸 塚本忠次 砂原恵美子  
小林 好 奥田則夫 石上喜美子  
高橋妙子 志水明美 伊東ナナ子  
小林 桂 山岸勝雄 佐古田文子  
林 正義 崎山悦子 原 ちよと  
須藤清子 横江 進 松上美代子  
江本博子 河内正治 山本千鶴子  
和田直樹 本間孝子 山盛加奈子  
市野博文 宮崎正正 高岡富美子  
星野正弘 山根弘美 岩本いすゞ  
今村 悟 妹尾一正 小島フジ子  
川上久堅 田中順子 長尾節子  
小谷和子 木下朝子 栗岡寛子  
角田一江 岩本彰子 石井美智子  
○金谷 昭 ○本間 隆  
○谷 守 ◎呉山繁三(計20名)

京都北山・品谷山から廃村八丁  
(花巡り山行23)

10月30日(日) 晴れ  
(集合) 京阪出町柳駅7・50 8・  
10 (バス) 菅原9・50 10・05 1  
ダンノ峠10・55 11・05 1 佐々里  
峠分岐11・35 1 品谷山12・12 (昼  
食) 12・50 1 品谷峠13・15 1 廃村  
八丁14・00 30 1 四郎五郎峠14・  
52 1 ダンノ峠15・28 1 菅原16・03  
(バス) 北大路駅18・05 (解散)  
黄葉が始まったばかりの廃村八  
丁。品谷山横線のブナ林をのんび  
りと周遊して楽しんだ。  
(参加者) 村井寿和 木村 豊  
上山正一 前田初雄 道早ちわみ  
山岸勝雄 堀江房麿 岩佐 修  
山縣勝美 若松朝子 猪野美枝子  
山根弘美 中川光郎 加納由紀子  
小松幸英 ○岩崎健司  
◎田中 明 (計17名)

新ハイキングクラブ関西  
入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西  
の山」(隔月刊・年6号発行)の  
定期購読者を中心としたハイキン  
グの集いです。  
この雑誌は紀行文やコースガイ  
ドなどで、関西のハイキングコー  
スや山の情報を発信しています。  
山の知識を深め、健康な身体をつ  
くり、自然のなかを歩く喜びをと  
もに広めましょう。  
「新ハイキングクラブ」は昭和  
25年発足以来、東京を中心に55年  
間余、好評のうちに活動していま  
す。関西は平成3年秋発足で15年  
目に入りますが、すでに多数の会  
員で活動しています。  
会員は当会の山行例会に優先し  
て参加できます。この山行例会を  
通じて楽しい山歩きを、多くの仲  
間たちと味わいませぬか。  
リーダー(係)はすべて無償の  
奉仕で、各自で切符を買い茶代を  
払い、宿泊料もすべてワリカンで  
す。  
会員には「新ハイキング関西の  
山」を毎月お届けします。  
四季の自然に触れながら山を歩

き 若々しい心と健康をいつまで  
も持続するのはすばらしいことだ  
す。これから始めてみたい人、す  
でにベテランの人もみなさんご入  
会いだけまし。

入会金 5000円(ワッペン共  
年会費 3000円(送料共)  
入会の申し込み(随時)はこの  
雑誌に挿入の振替用紙をご利用く  
ださい。氏名(ふりがな)及び第  
何号からの送本かを忘れずにご記  
入ください。  
切手530円分をお送りになれ  
ば、「新ハイキング関西の山」最  
新号を1冊送ります。  
○新入会員(定期購読者) 紹介  
新しいお仲間のみなさんです。  
会員番号5126番から5139  
番まで(敬称略)。  
【愛知】 長坂佐知子  
【京都】 石川 要 森 健治  
三枝 信  
【大阪】 大石吉彦 石井美智子  
安藤正雄 目下部 透  
下條利通 柴村敏子  
【奈良】 武田美幸 井上孝子  
相良恵子 佐藤幹愛  
(14名)

訂正とお詫び

85号(晩秋) 口絵7ページ上  
の「冬枯れの高尾山を行く」は、「  
高尾山」が正しい。  
85号(晩秋) 11ページ中段14  
行目「15行目」は「実る赤い実」  
は「実る黒い実」が正しい。  
85号(晩秋) 59ページ中段12  
行目「(記録・中澤孝郎)」は  
「(記録・長澤孝郎)」が正しい。  
85号(晩秋) 63ページ下段3  
行目「林道が現れ、」は、「  
林道道が現れ、」が正しい。  
85号(晩秋) 73ページ下段最  
後から2行目「滋賀県森林管理  
署長岡浩行調査官」は「滋賀森  
林管理署 長岡浩行調査官」が正  
しい。  
85号(晩秋) 98ページ二段目  
8行目「12月6日」は「12月6  
日」が正しい。  
(編集室)